

文学

担当教員 高 継芬

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義で日本文学においては、日本近代文学の巨匠夏目漱石が切り開いた近代小説の世界とは何か、彼の文学の人生についてアプローチし彼の心を理解する。中国文学から受けた影響、そして西洋文学から受けた影響を学ぶことで漱石についての理解を深める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス明治時代の日本文学について説明する。
2	夏目漱石という人物について、人生歴、交友、側面からアプローチする。
3	『草枕』を始め、『虞美人草』『三四郎』『門』等の作品から文学観の変化をとらえる。
4	熊本小天温泉を舞台にした『草枕』の背景について初期の文学観について学ぶ。
5	『草枕』を読みながら作者の西欧文化に対する考えを理解する。
6	夏目漱石のイギリス留学について説明する。
7	『永日小品』を読みながら夏目漱石がイギリスに対する印象を理解する。
8	『永日小品』の「下宿」を解説する。
9	『永日小品』の「印象」を解説する。
10	『永日小品』の「昔」を解説する。
11	『永日小品』の「過去の匂い」を解説する。
12	『永日小品』の「暖かい夢」を解説する。
13	夏目漱石の作品を読みながら中国文学から受けた影響を理解する。
14	『草枕』を読みながら作者の東洋文化に対する考えを理解する。
15	夏目漱石の作品を学んだ総まとめ。

【履修上の注意事項】

夏目漱石の作品を読んでいくが、講義の時間だけでは限りがあるので、事前予習、事後復讐など積極して頂ければ、よりスムーズに講義が進むことができる。

【評価方法】

授業内に課す小レポート（40点）＋学期末試験（もしくは学期末レポート）（60点）

【テキスト】

講義時プリント配布

【参考文献】

課題図書は授業時に適宜紹介する。

心理学 I

担当教員 永田 俊明

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

対人サービス領域の専門職に必要な心理学理論、心理学的な支援技法を学習し、心理学的な視点から人間を理解し、個人が直面し、抱える問題を心理学的に捉えられるようになることをめざす。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、心理学における”行動”
2	感覚・知覚の現象、理論と心理学的理解
3	欲求・感情の理論と心理学的理解
4	認知と動機づけの理論と心理学的理解
5	記憶・学習・知能（創造性）の理論と心理学的理解
6	成長と発達の理論、老化の現象の心理学的理解
7	発達段階と発達課題、心理的危機の理解
8	集団、組織、社会と個人の関わりの理解
9	パーソナリティ、性格の心理学的理解
10	環境への適応とストレス、対処行動の理解
11	ストレス症状とこころの健康の心理学的理解
12	心理学的支援技法ー心理検査、アセスメントーの理解
13	心理学的支援技法ーカウンセリング、相談支援技法ーの理解
14	心理学的支援技法ー多様な心理療法ーについての理解
15	まとめ

【履修上の注意事項】

シラバスに沿った進行に合わせてテキストの予定ページを確かめ、予習を行うこと。授業中に配布されたプリント内容をテキストで確認してください。

【評価方法】

期末試験が100% 本科目は再試験を実施しないので注意すること。

【テキスト】

『心理学 カレッジ版』医学書院

【参考文献】

必要に応じ指示する

心理学Ⅱ

担当教員 永田 俊明

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

“心理学の視点から身近な疑問をどのように読み解くか理解できるようにする。
心理学Ⅰで学んだ基礎心理学をベースに心理学の興味深い点を理解できるようにする。”

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	無気力はなぜ起こるか
3	思考力・問題解決能力を伸ばす方法
4	向性でわかるもの
5	人間発達と臨界期
6	発達の逸脱を理解するためには
7	記憶と“ど忘れ”
8	詐欺の心理学 振り込め詐欺など
9	虐待の原因と予防法
10	うつ状態の心理と予防策
11	人を評価し判断する視点
12	因果関係を確認する
13	相関的方法 見えないものを数字で表す
14	こころと身体の健康
15	意思決定について考える

【履修上の注意事項】

予告されたテキスト範囲について授業前に目を通し、授業後は配布されたプリント内容についてテキストで確認してください。

【評価方法】

期末試験 100%

【テキスト】

未使用。心理学Ⅰを履修していた学生は、使用したテキストを持参すること。

【参考文献】

必要の都度、指示する

発達心理学

担当教員 水間 宗幸

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

基本的な教養および対人専門職の基礎的位置づけとして発達心理を位置付け、これを学ぶことにより自己及び他者をひとつの人格として考えることができる。またそれぞれの発達段階の一般的特性を理解し、望ましい発達およびその支援を考えることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	専門職として発達心理学を学ぶ意義～ガイダンス
2	発達心理学の基礎理解～発達理論、発達段階、発達課題、発達と学習の関係
3	乳幼児期の発達の特徴～人・モノとの出会い
4	愛着形成～親との関係性と子どもの行動
5	認知発達～子どもの遊びと社会性の広がり
6	ことばとコミュニケーションの発達
7	自己と情動の発達～感情発達が行動に与える影響
8	仲間関係とこころの理解
9	道徳性と向社会的行動の発達～集団の中で学ぶもの
10	児童期の発達の特徴～学校教育という環境と発達課題
11	学校のなかでの子ども～学びを支える指導の在り方
12	発達の多様性の理解～発達をつまづきや多様化する社会の中の子どもの困り感
13	思春期・青年期の発達の特徴とアイデンティティの形成
14	成人期から老年期の発達と課題
15	発達と学び～生涯学習と生涯発達支援

【履修上の注意事項】

予習・復習を行うこと。特に、次回授業内容に関して必ず教科書の当該箇所を読んでおくこと。復習においては、キーワードを自分のことばで説明できるようにしておくこと。

【評価方法】

学んだことについて総合的な理解がどの程度できているか、レポートにて評価する(100%)。フィードバックについては希望者に対し個別でレポートのコメントを行う。

【テキスト】

『新・プライマーズ/保育/心理 発達心理学』 無藤隆・中坪史典・西山修編著 ミネルヴァ書房

【参考文献】

講義過程でも適宜紹介の予定

哲学

担当教員 田畑 博敏

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

本科目「哲学」は、古代ギリシャに始まり、中世・近代のヨーロッパを通じて発達し、現代では世界中の多くの国で研究され学ばれている科目です。日本では、自然科学と同様に、明治時代にヨーロッパから輸入され、現在、多くの大学で教えられています。哲学の特徴は、常に物事の根源にさかのぼって、探究することです。探究の対象は森羅万象、探究手段は理性とことばによる論証です。本講義では、先行の哲学者の考えを参考にして、徹底的に考え抜き、自分なりの意見を表現できる力を養うこと、を目標にします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	哲学とは何か、何が存在するのか、存在論を概観する：教科書序文および第一講義・第1.1-1.2節
2	存在のあり方、性質と関係、物とプロセス、部分と集まり：教科書第一講義・第1.3-1.4節
3	種と普遍者、可能的対象と虚構的对象：教科書第一講義・第1.5-1.6節
4	存在論の諸区分、領域的VS形式的、応用的VS理論的：教科書第一講義・第2.1-2.2節
5	形式的VS形式化された存在論、存在論の道具としての論理学：教科書第一講義・第2.3-2.4節
6	メタ存在論、道具としての論理学（続）：教科書第一講義・第2.5節および「まとめ」、プリント
7	世界についてどう語るか、思考と表現、存在への関わり：教科書第二講義・第1.1-1.2節
8	パラフレーズ、修正的VS解釈的：教科書第二講義・第1.3節
9	すぐれた理論の条件、単純性と説明力：教科書第二講義・第2.1-2.2節
10	非クワイン的メタ存在論：教科書第二講義・第2.3-3.1節
11	非クワイン的メタ存在論：教科書第二講義・第3.3節および「まとめ」
12	存在者をどのように分類するか？カテゴリーと形式的因子：教科書第三講義・第1.1-1.2節
13	4カテゴリー存在論における形式的関係：教科書第三講義・第2.1-2.2節および「まとめ」
14	ものが性質を持つということ：教科書第四講義・第1.1-1.3節
15	実在論の擁護：教科書第四講義・第2.1-2.3節

【履修上の注意事項】

講義終了後、本講義で「コミュニケーション・カード」と名づける小ペーパーを提出してもらいます。これには、予習の結果（重要と思われた3つのキーワードを書く）、講義を受けての感想、講義で学んだこと、講義についての注文など、を書いてください。

【評価方法】

コミュニケーション・カードの提出により「意欲的な受講態度」を評価し（20%）、中間レポートで「基本的理解」の度合いを評価し（30%）、最終レポートで「総合的理解と独自の思考力」を確認する（50%）、というやり方で、総合的・全体的に評価します。

【テキスト】

倉田剛「現代存在論講義Ⅰ：ファンダメンタルズ」新曜社（2017年）¥2200＋税

【参考文献】

講義の進行に応じて、適宜、指示します。

法学 I

担当教員 野崎 和義

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

今日の社会で要求される法感覚、さらに私たちが日常生活を送る上で必要な法知識を身につけることを目標とする。具体的には、以下の事項についての理解を目指す。

①社会生活における法的作用および役割、②民法の財産法および家族法の基本的な考え方、③医療・福祉サービス利用者の権利とその救済方法、④成年後見制度および日常生活自立支援事業、⑤医療・福祉職の専門性と法的責任

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	法と日常生活——講義計画の紹介、何をどこまで学ぶか、法というものの考え方
2	家庭生活と法（1）——親族の範囲・効果
3	家庭生活と法（2）——婚姻・離婚とその効果
4	家庭生活と法（3）——相続の一般原則、法定相続と遺言相続、相続をめぐる諸問題
5	消費生活と人権（1）——悪質商法の法的問題点、物権と債権の基本的異同
6	消費生活と人権（2）——クレジット取引の仕組み、契約の拘束力・相対性
7	刑事手続きと人権（1）——法的責任、犯罪と刑罰、刑務所と前科
8	刑事手続きと人権（2）——不法行為責任と刑事責任の異同、行政上の処分の独自性
9	医療・福祉サービスに関わる法（成年後見制度と日常生活自立支援事業、行政行為と行政争訟）
10	医療・福祉専門職の根拠法（医療・福祉職の専門性および資格、社会福祉各法の適用対象者）
11	医療・福祉職の連携（看護・介護事故、看護と介護の関係、職務の専門性と就業問題）
12	病院・施設の設置基準と法律問題（医療・福祉サービスの公共性、設置基準の法的拘束力）
13	障害者の雇用・就労支援（障害者雇用促進法、法定雇用率、勤労の権利と義務）
14	ふたたび人権を考える（雇用対策と差別の禁止、労働市場における公正、人権の普遍性）
15	医療・福祉職と法（高齢社会における課題と役割分担、行為準則としての法）

【履修上の注意事項】

- ・準備学習：各回のテーマに即して教科書を読んでおくこと。
- ・事後学習：講義で示された課題をもとに教科書および関連事項を整理すること。
- ・講義の進行は、理解度に応じて変更することがある。その際には、あらかじめ通知する。

【評価方法】

定期試験(100%)の成績によって評価する。

【テキスト】

野崎和義著『医療・福祉のための法学入門』2013年、ミネルヴァ書房。

野崎和義監修『社会福祉六法』2020年、ミネルヴァ書房。

【参考文献】

各回の講義の際に紹介する。

法学Ⅱ（日本国憲法）

担当教員 野崎 和義

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

医療・福祉さらには教育の実践にあたって必要な憲法感覚を身につけることを目標とする。具体的には、以下の事項についての理解を目指す。

- ①日本国憲法の基本原理、②基本的人権の意義および機能、③基本的人権を保障するための仕組み（国および地方公共団体の組織・権能、財政）、④行政情報へのアクセス（情報公開）、⑤行政の役割と法治国家原理（行政行為、行政手続き、行政不服審査・行政訴訟）

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	取引社会と医療・福祉の権利（取引社会のルール、契約原理の修正、国家と個人）
2	日本国憲法の考え方（人権規定の私人間効力、裁判例の分析、人権という思想）
3	日本国憲法の構成（三つの基本原理、基本的人権のカatalog、人権保障の仕組み、特別条項）
4	基本的人権と公共の福祉、基本的人権の主体（内在的制約と外在的制約、外国人・法人の人権）
5	プライバシーの権利と個人情報の保護、情報公開制度（行政情報へのアクセス）
6	自己決定権の尊重と医療・介護（インフォームドコンセント、身体拘束の禁止）
7	自由権（とくに人身の自由、少年の刑事手続き、資格制限と社会復帰）
8	法の下での平等と合理的差別（男女共同参画、セクハラと男女雇用機会均等法）
9	家族生活における平等（介護と扶養、介護保険制度導入の背景）
10	社会権の思想（平等権から社会権へ、生活保護法の基本原理と裁判例）
11	高齢社会における社会保障（社会保障の法体系、高齢者と住居、看護・福祉の労働）
12	その他の基本権——参政権、受益権（施設入所高齢者・障害者の参政権保障、国家賠償請求権）
13	国家の機構（三権の抑制と均衡、裁判所の仕組み）
14	財政、地方自治（財政の基本原則、自治体の行政権・立法権、行政争訟）
15	医療・福祉と日本国憲法（民主主義と少数者の人権、統治機構の役割）

【履修上の注意事項】

- ・準備学習：各回のテーマに即して教科書を読んでおくこと。
- ・事後学習：講義で示された課題をもとに教科書および関連事項を整理すること。
- ・講義の進行は、理解度に応じて変更することがある。その際には、あらかじめ通知する。

【評価方法】

定期試験(100%)の成績によって評価する。

【テキスト】

野崎和義著『医療・福祉のための法学入門』2013年、ミネルヴァ書房。

野崎和義監修『社会福祉六法』2020年、ミネルヴァ書房。

【参考文献】

各回の講義の際に紹介する。

社会学 I

担当教員 安藤 学

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会理論による現代社会の捉え方について、生活の理解について、人と社会の関係について、社会問題について学び、それらを分析し解決する能力を修得することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	社会システム(社会システム、文化・規範、社会意識、産業と職業、社会階級と社会階層、社会指標)
2	社会変動について(社会変動の概念、近代化、産業化、情報化など)
3	人口について(人口の概念、人口構造、人口問題、少子高齢化など)
4	地域について(地域の概念、コミュニティの概念、都市化と地域社会など)
5	地域について(過疎化と地域社会、地域社会の集団・組織など)
6	社会集団及び組織(社会集団の概念、第一次集団、第二次集団、ゲゼルシャフト、ゲマインシャフト)
7	社会集団及び組織(アソシエーション、組織の概念、官僚制など)
8	家族について(家族の概念、家族の変容、家族の構造や形態、家族の機能など)
9	生活について(生活構造、ライフステージ、生活時間、消費、生活様式、ライフスタイル、生活の質)
10	人と社会の関係について(社会関係と社会的孤立、社会的行為、社会的役割、社会的ジレンマなど)
11	社会問題について(社会問題の捉え方、社会病理、逸脱など)
12	具体的な社会問題について(差別、貧困、失業、自殺、犯罪、非行、社会的排除など)
13	具体的な社会問題について(ハラスメント、DV、児童虐待、いじめ、公害、環境破壊など)
14	生活支援と福祉について(生活の概念、福祉の考え方とその変遷など)
15	生活支援と福祉について(自助・相互・共助・公助など) ・まとめ

【履修上の注意事項】

ノートを毎回きちんと取る。授業前にその単元を一度読み自分なりにまとめておき、授業後は教科書とノートを照らし合わせて復習をしておくこと

【評価方法】

定期試験 80%、授業への取り組む姿勢 20%

【テキスト】

『社会学入門』秋元他 3名 有斐閣新書

【参考文献】

適宜紹介する

経済学

担当教員 松尾 隆

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

講義は、空気、森林、水、土地、海、企業、人、お金などに絡めて、話をします。世界が抱える様々な経済問題も実は身近な問題であるのだということを理解してもらい、今後の思考の素材にしてもらいたいとおもいます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	プロローグ：講義内容および講義目標
2	基礎知識：現代における貨幣と金融の関係
3	空気：環境問題と各国の経済的利害
4	森林：世界の木材貿易と日本の林業
5	水：世界の水問題と水ビジネス市場の拡大
6	土地：世界の食糧生産の現状と農業問題
7	海：世界の漁業生産の実情と「コモンズ」概念
8	石油：原油生産と脱炭素社会への動き
9	貿易：市場を巡る競争とルール（WTO, FTA）
10	企業：中国、ASEAN諸国と日本の経済的結びつき
11	人：国際的な人の大移動と問題点
12	援助：日本のODA制度と企業の連携
13	お金：年金基金と投機
14	国連：SDGsとESG
15	エピローグ：講義の総括

【履修上の注意事項】

配付する資料を参考にして、知らない経済用語等について調べ、復習では、内容で解らなかった点を理解し、さらには視野を広げるために、図書館などを利用してください。

【評価方法】

期末試験100%

【テキスト】

特に使用せず、講義の際にプリントを配布する。

【参考文献】

講義の際に紹介する。

経営学

担当教員 未定

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考 令和2年度は閉講

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

組織における経営能力、すなわちどのように課題を認識し、目標を決め、人々を協働させ、成果をあげるかについて理解し実践する能力、を育てる。将来的には、組織のリーダーとして活躍することが期待できるが、特に医療の現場では「認定看護管理者」としてキャリアを発展させていくための土台を作ることも授業の狙いの一つである。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	導入①（経営とは何か）
2	見えざる経営（見えざる資産とは）
3	経営理念①（信頼を築く）
4	経営理念②（組織のアイデンティティの創造）
5	経営戦略①（組織のあるべき姿へのシナリオ；経営戦略、競争の意味）
6	経営戦略②（差別化、事業構造の戦略）
7	経営戦略③（事業領域、資源の配分）
8	中核能力①（経営戦略の焦点；コア・コンピテンシー、イノベーション）
9	中核能力②（経営効率、顧客との親密度、流通、技術）
10	人材育成①（能力と意欲という資産；組織ケイパビリティ、コンピテンシー）
11	人材育成②（学習、コミットメント、コミットメントの創造）
12	組織の設計①（組織における協働の枠組み；計画とコントロール、コミュニケーション）
13	組織の設計②（組織構造の設計；分業関係、部門化、権限関係、伝達と協議の関係、公式化など）
14	組織の設計③（組織構造の選択；職能別組織、事業部制、マトリックス組織、チーム組織など）
15	リーダーシップ（変革の時代におけるリーダーシップ）

【履修上の注意事項】

本授業では経営学の難しい話しよりも、履修者が1～2年後には社会に出ていくことを勘案し、医療の現場で実際に経験することになる組織経営に係る諸課題を授業のテーマとしながら、組織のリーダーとしてどう考え、どう行動すべきかについて解説する。

【評価方法】

レポート100%（これらの評価方法により、知識習熟力、知識活用力、知識創造力、知識表現力を見る。）

【テキスト】

指定する教科書は特になし。適宜、資料を配布する。

【参考文献】

講義の際に適宜、紹介する。

教育学

担当教員 未定

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考 令和2年度は2学期に開講

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

自分が既にもっている教育に関する「常識」を踏まえつつ、それを超えて「教育」を「科学（学問）」的にとらえることができるようになる。「『教育』を根本から考える」作業を通して、自分なりの「教育観」をもち、今日の教育課題について主体的に考える態度をもつことができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	教育とは何か
3	心身の発達
4	学校の歴史
5	子どもの歴史 ①古代・中世
6	子どもの歴史 ②教育対象としての子ども
7	子どもの歴史 ③ルソーによる「子どもの発見」
8	近代教育の思想と実践 ①ペスタロッチ
9	近代教育の思想と実践 ②ヘルバルト、フレーベル
10	近代教育の思想と実践 ③新教育運動
11	アメリカにおける進歩主義教育 ①前史：超越主義の教育思想（エマソン、ソロー）
12	アメリカにおける進歩主義教育 ②前史：超越主義の教育思想（ブロンソン・オルコット）
13	アメリカにおける進歩主義教育 ③超越主義から進歩主義へ
14	アメリカにおける進歩主義教育 ④デューイの教育哲学
15	現代の学校教育をめぐる論点

【履修上の注意事項】

授業には参加的態度で臨むこと。
 その他、授業外でも教育にかかわる情報をキャッチする鋭敏なアンテナを持ち合わせて欲しい。
 授業に際しては事前に資料を読み、事後には復習をすること。（120分）

【評価方法】

原則として学期末試験（70%）、小レポート（30%）を評価の対象とする。

【テキスト】

今年度は使用しない。テキストとして示してあった文献は他に授業内にて示すものと合わせて、参考文献とする。

【参考文献】

授業内において適宜紹介する。岡田昭人編著『教育学入門、30のテーマで学ぶ』、ミネルヴァ書房、2500円。

コミュニケーション論

担当教員 佐藤 嘉倫

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

コミュニケーションについての基礎的な概念やモデルについて学ぶとともに、言語・非言語などのコミュニケーション手段、様々な状況におけるコミュニケーション行動や人間関係の特徴などについて主に心理学の立場から考え理解を深める。また対人援助場面における人間関係の特徴について学び、理解できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	コミュニケーション論とは
2	対人コミュニケーションの特徴
3	コミュニケーションの障害
4	対人交流パターンの分析（自らのコミュニケーションのあり方を見つめる）
5	コミュニケーションの様々な形1（インターネット）
6	コミュニケーションの様々な形2（SNS等）
7	コミュニケーションの様々な形3（マス・コミ）
8	援助技術としてのコミュニケーション
9	援助技術としてのコミュニケーション2
10	ストレスとコミュニケーション
11	人間関係とコミュニケーション
12	コミュニケーション・スキル1（言語的コミュニケーションの活用）
13	コミュニケーション・スキル2（非言語的コミュニケーションの活用）
14	自己分析
15	まとめ

【履修上の注意事項】

- ・講義前に参考文献や配布資料をもとに事前学習を行って下さい。
- ・講義後の振り返りを各自行うようにして下さい。

【評価方法】

授業態度60%、レポート40%

【テキスト】

なし（講義中に資料を配付）

【参考文献】

講義中にその都度紹介

カウンセリング論

担当教員 忽那 かずみ

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

他者援助において基本となる代表的なカウンセリング理論を理解し、それぞれのカウンセリングの実践における本質的な考え方や方法上の相違点を理解できる。また、それぞれのカウンセリング理論および密接に関係する心理検査の学修やワークを通じて自己理解を深めることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーションと序論
2	カウンセリングの基礎
3	カウンセリングの実際
4	精神分析療法の理論と実際
5	来談者中心療法の理論と実際
6	行動療法の理論と実際
7	論理療法の理論と実際
8	認知療法の理論と実際
9	認知行動療法の理論と実際
10	ゲシュタルト療法の理論と実際
11	交流分析療法の理論と実際
12	日本の心理療法の理論と実際
13	箱庭療法とコラージュ療法（切り抜いてもよい雑誌2～3冊、はさみ、のりを持参すること）
14	カウンセリングと心理検査
15	カウンセリングと精神疾患

【履修上の注意事項】

第1回目の講義にて出席に関する重要な説明をします。テキストで事前学習して下さい。講義時間内に心理検査の実施をします。毎回振り返りを行い、理解を深めてください。講義では実際のケースを取り上げたり、具体例を話すことがあります、また、演習・グループワークの中で個人的な話が出されることもありますので、個人情報扱いには細心の注意を払い、絶対に口外してはいけません。演習・グループワークでは、他の人の意見を否定・批判をしない、違う意見も尊重する、発言は最後まで聴く、そして全員が発言することをルールとします。

【評価方法】

定期試験50%、演習（ディスカッション、グループワーク、授業態度等を含む）20%、振り返りシート（レポートを含む）30%

【テキスト】

山蔦圭介著、宮城まり子監修『基礎から学ぶ カウンセリングの理論』、産業能率大学出版部

【参考文献】

必要の都度、指示します。

ボランティア論

担当教員 福崎 千鶴

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【教育目標】

支援される側、支援する側という区分ではなく、共に助け合い生きる社会の実現のために、地域社会や国内外で社会貢献できる人材の育成を目的とする。
ボランティアに関する基礎知識を理解し、実践力を修得する。

【授業の展開計画】

基本的に講義で基礎知識について学んだ後にグループ討論を行い、発表するという順番ですすめるため、事前に課題についてのレポートを作成し、課題に対する自分の考えを整理しておく。
最終的には、ボランティア実施計画書を策定し、実施、評価、報告を行うことを目指す。

週	授 業 の 内 容
1	ボランティアとは？(自助、互助、共助、公助)
2	ボランティア概念の歴史の変遷を学ぶ(宗教、地縁、災害、学問)
3	リスクマネジメントとボランティア保険
4	無償ボランティア、有償ボランティア、ボランティアコーディネーター
5	地域ボランティア(子ども、障がい児者、高齢者ホームレス等への支援)
6	災害ボランティアと災害ボランティアのプロとの出会い
7	ボランティア研修後のボランティア(一般病院、ホスピス、いのちの電話)
8	環境問題を考えるボランティア(水俣病問題と被災者支援)
9	NPO法人の設立と活動
10	国際活動(JICA海外協力隊、NGO活動)
11	支える側、支えられる側、地域共生社会の実現に向けた取り組み
12	ボランティア活動計画の立案(各専門性を活かした活動、個々のストレングスを活かした活動)
13	ボランティア活動の現状と課題
14	ボランティア活動の実施報告
15	ボランティア活動の振り返り

【履修上の注意事項】

【準備学習】事前に講義テキストを予習し記録する(120分) 【課題等に関するフィードバック】講義内容を記録し、不明な部分を調べる。記録を図式化したり表に整理する。(120分) 【その他のアドバイス】講義内容を理解できる内容に構造化する。結論の整理を箇条書きにする。理解できない場合は、講師に質問する。

【評価方法】

1. 予習・復習による自主学習状況の確認(10%)、2. ボランティア計画書作成・実施・報告書作成・報告(70%)、3. レポートによる評価(10%)、4. 講義における質疑応答状況(10%)、出席重視(5回以上の欠席は定期試験が受験不可)：学則により、欠席回数が講義回数の三分之一を超えると、評価できないので注意すること。

【テキスト】

大熊由紀子著『恋するようにボランティアを[優しき挑戦者たち]』ぶどう社 2008年
その他、適宜、資料を配布する。

【参考文献】

三本政之・朝倉美江(編著)『福祉ボランティア論』有斐閣アルマ 2007年
田尾正雄・川野祐二(編著)『ボランティア・NPOの組織論—非営利の経営を考える—』学陽書房 2010年

体育

担当教員 未定

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義・演習

単位数 2

【授業のねらい】

心身の健全な発達の促進、運動やスポーツに内在する楽しみや技能、健康、体力の保持・向上・増進のための運動処方などを総合的・実践的に自ら把握できるようになる。

【授業の展開計画】

1. 運動行動と身体とのかかわりを説明できる
2. 運動しないと身体へどのような影響が考えられるか説明できる
3. 身体組成から見た運動行動の大切さについて説明できる
4. 無酸素運動について説明できる
5. 有酸素運動について説明できる
6. 筋肉の種類から見た運動の適正について説明できる
7. 運動の強度と運動時間について説明できる
8. 運動とエネルギー供給の関係について説明できる
9. 運動の種類と循環器の関係について説明できる
10. メタボリック理解とその対策について説明できる
11. 運動と栄養・休養との関係について説明できる
12. 運動によって引き起こされる運動障害について説明できる
13. トレーニングの種類とその効果について説明できる
14. 運動を行うに時に注意すべき事項について説明できる
15. 健康維持のための運動について説明できる

【履修上の注意事項】

授業前に資料の該当部分を読み、内容の予習を行うこと。また、復習として授業内容をふまえ、測定結果を500字程度の文章で所定の提出用紙にまとめておくこと。

体育資料を毎時間持参すること。

演習授業は体育着で行うこと。

【評価方法】

演習レポート30%、自主的学習態度10% 課題レポート20% 体育ノート作成40%による総合評価

【テキスト】

使用しない

【参考文献】

運動生理学 講談社 岸恭一

倫理学

担当教員 未定

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 令和2年度は閉講

【授業のねらい】

倫理が各分野で要求される時代に日本もようやく入りました。学問としての倫理学は、近代的な人間観に立脚しており、その基本形をまずドイツのカントとヘーゲルにおいて確定します。次に、20世紀後半に倫理の中核へと登場した「責任」という原理をめぐって、「作為と不作為」を掘り下げて考察します。他者危害の作為は古来から今日まで「万人の義務」であるとされ、現代の我々の倫理観の中に入っておりますが、他方、他者支援の作為は「万人の義務」として感受されていません。このギャップを埋める道をとともに探求することができます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	I-1 近代的な世界観の確定「人間にとって先なる世界観」優位の倫理観
2	I-1-2 カント倫理学における「道徳性Moralitaet」、個人としての人格と良心
3	I-1-3 同上2
4	I-1-4 ヘーゲルにおける「人倫Sittlichkeit」：倫理の現実化としての国家、市民社会
5	I-1-5 同上2 倫理の現実化としての家族、法、制度、家族
6	I-1-6 近代日本の国家と倫理の一体化
7	I-1-7 現代日本の倫理的状況
8	II-1 作為と不作為という考え方：罪責の二類型の発見
9	II-2 ドイツ・戦後40周年ヴァイツゼッカー大統領演説の場合
10	II-3 不作為の定義付け：作為の変種から対概念の位置へ
11	III-4 不作為の概念分析（回数としての不作為、原因としての不作為）
12	III-5 不作為の特殊形態：「生起するままに放置すること」
13	IV-1 概念枠から現実が初めて見えるということ
14	IV-2 現代日本における不作為問題の事例研究：ハンセン病問題
15	IV-3 同上、薬害問題、いじめ、水俣病問題、アスベスト問題

【履修上の注意事項】

日本の現在進行中の出来事、たとえば、水俣病関西訴訟判決以降の様相、ハンセン病問題、薬害肝炎訴訟、中国残留日本人孤児問題、医療過誤など、活字メディアによく目を通して、それらを切抜きして、各自が独自の教材をつくるという意欲を求めます。予習復習を兼ねて、指定教科書の熟読と質問をしてください。

【評価方法】

毎回の感想文提示=30点、レポート提出=20点、定期試験=50点。

【テキスト】

山本 務、熱田一信編著『ハンセン病・薬害問題 プロジェクト 作為・不作為へ』（本の泉社）
R. ヴァイツゼッカー著、山本務訳著『過去の克服・二つの戦後』（NHKブックス705、日本放送出版協会）。

【参考文献】

講義中に適宜教示。

比較文化論

担当教員 未定、安藤 学、高 継芬

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、アジア諸国の文化・社会・価値観・人々の考え方を、具体的な事例に基づいて日本と比較し、異文化理解を図ると共に、人間と文化の総合的な関係を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション。中国あるいは東南アジアの文化について（安藤・高）
2	日韓文化の遠近1（金）
3	日韓文化の遠近2（金）
4	日韓文化の遠近3（金）
5	医療と福祉・日本と韓国（金）
6	障害者福祉の基本・国際比較（金）
7	日中文化の違い1（高）
8	日中文化の違い2（高）
9	日中文化の違い3（高）
10	中国人の人間愛について（高）
11	中国人の結婚文化について（高）
12	日本と中国の教育政策について（安藤・高）
13	中国料理の由来について（高）
14	中国茶の文化について（高）
15	中国の孫子兵法と日本の太平洋戦争（安藤・高）

【履修上の注意事項】

授業前に資料（プリント）などを読み、キーワードについて調べてくること。
授業後に復習しておくこと。

【評価方法】

レポート80%、発表20%で評価する。

【テキスト】

毎回、資料（プリント）などを用意し、配布する。

【参考文献】

授業の中で、適宜紹介する。

英語 I (医療英語)

担当教員 後藤 隆昭

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

4年制の大卒者として最低限求められる英語力の養成を目的とし、英語による情報の受信と発信が可となることを目指す。身近な健康・医療等の話題を扱ったテキストと補充のハンドアウトを使用し、英語の読解、語彙、作文を包括した学習を行い、一部に聞き取り練習も取り入れてコミュニケーション能力の基礎を向上させる。更に、語学が教養・全人教育の一部であることから、英語圏の国々の社会・歴史・文化への知識と関心を深める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション. 英語学習の意義、英語の特徴等の説明.
2	Unit 1: Sense of Taste and Eating Habits 内容理解、設問演習、CDによる聞き取り
3	Unit 1 に関わる設問演習、CDによる聞き取り練習、教員作成プリント(他文献、英作文等)
4	Unit 2: Lose Weight and Stay Active 内容理解、設問演習、CDによる聞き取り
5	Unit 2 に関わる設問演習、CDによる聞き取り練習、教員作成プリント(他文献、英作文等)
6	Unit 8: Need for Disaster Medicine; DMAT and JMAT 内容理解、設問演習、CDによる聞き取り
7	Unit 8 に関わる設問演習、CDによる聞き取り練習、教員作成プリント(他文献、英作文等)
8	Unit 9: Angelina's Decision 内容理解、設問演習、CDによる聞き取り
9	Unit 9 に関わる設問演習、CDによる聞き取り練習、教員作成プリント(他文献、英作文等)
10	Unit 11: ES Cells and iPS Cells 内容理解、設問演習、CDによる聞き取り
11	Unit 11 に関わる設問演習、CDによる聞き取り練習、教員作成プリント(他文献、英作文等)
12	Unit 14: Towards a More Inclusive Society 内容理解、設問演習、CDによる聞き取り
13	Unit 14 に関わる設問演習、CDによる聞き取り練習、教員作成プリント(他文献、英作文等)
14	ハンドアウト(看護倫理に関する、教科書より幾分高度な英語原書の一部) 演習
15	14回 に続けて、英文演習. 及び、これまでの講義の補足及び総括

【履修上の注意事項】

- ・講義は予習が行われていることを前提として行います。
- ・辞書(紙または電子)は必携です。
- ・展開計画は一部変更することがあります。

【評価方法】

試験 60%. 授業における課題 25%. 平常点(出席状況・受講の積極性等) 15%.

【テキスト】

園城寺 康子(他) 著
「これからの健康的な社会へ」(株)南雲堂

【参考文献】

随時、教員作成プリント使用

英語Ⅱ

担当教員 角田 俊治

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

<本シラバスの内容は前年度と変わらないが、講義中に取り扱う設問は同一ではない。>

ねらい：主として情報発信能力の向上を目指す。可能な限りの基本的な英語による、福祉や医療に関わるベーシックなライティングができるようにする。併せて英語圏の国々の社会や文化への関心を深める。

到達目標： 基礎的な英語による作文力を身につけ、福祉や医療に関わる一定の情報発信ができる。高水準の語学力を必要とせずとも、それなりの英文が読める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、英語学習の意義説明等
2	ごく簡単な英語を利用したの、自己紹介等のライティング演習
3	ライティングのための基本5文型の説明等
4	3を応用したの基本的なライティング演習
5	福祉や医療に関わる初歩的なライティング演習
6	5よりも幾分か専門性の高い福祉や医療に関わる英語表現を演習
7	リーディング： 一流作家の書いた平易な英文の短編小説を原文で読む
8	リーディング： 7に同じ。小説のモチーフについて考える
9	リーディング： 福祉・医療等に関わるやや程度の高い英文を原文で読む
10	リーディング： 9に同じ。高度な英語力がなくとも、原文が読めることを知る。
11	福祉、医療、科学一般に関わる最も重要で使用頻度の高い動詞（15個前後）について解説、演習
12	11に関わる基本的なライティング演習
13	11、12に関わる幾分高度なライティング演習
14	13に続き、福祉や医療に関わる幾分高度なライティング演習
15	14までの講義の補足と総括

【履修上の注意事項】

- ・上記の展開計画は進捗の状況に応じて一部変更することがあります。（その際は適宜連絡します）
- ・総て、講義は予習が行われていることを前提として行います。
- ・辞書は必携。

【評価方法】

試験 70%、発表 20%、その他（受講の積極性等）10%。

【テキスト】

教員自作プリント <プリント中の設問は前年度のものとは同一ではない。>

【参考文献】

随時配布

英会話 I

担当教員 後藤 隆昭

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

Class goals are,

1. to improve each student's hearing and pronunciation abilities of spoken English;
2. to improve each student's personal confidence and abilities in both everyday and professional situations; and
3. to give each student a variety of tools they can continue to use for language and other studies

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Introduction, Notebook preparation, Unit 1A Where are you from? / Self-introduction
2	English goals, Daily Trackers, Unit 1B Wh- questions? How's it going / How are you?
3	Unit 2A What do you do? SLRS method, Make a short conversation 1
4	Perform conversation 1, Unit 2B What time do you..., Time expressions
5	Unit 3A How much..., these/those, SLRS practice (video)
6	Unit 3B That's a good point, Preferences, Reading challenge
7	Unit 4A What kind of music do you like?, Favorites, Simple questions. Create conversation2
8	Perform conversation 2, Unit 4B What time does it start?, Reading, Notebook check.
9	Unit 5A Do you have brothers or sisters? Present cont. Listening practice
10	Unit 5B What a great picture, Quantifiers, SLRS practice (music)
11	Unit 6A How often do you?, Frequency adverbs, Make a short conversation 3
12	Perform conv 3, Unit 6B Questions with How, Discussion techniques, Discussion practice
13	Unit 7 What did you do last weekend? How was your vacation? Be verbs (past), Journaling
14	SLRS practice (movie), Discussion practice, Create final conversation, Submit notebooks
15	Perform final conversations, Perform self-evaluations.

【履修上の注意事項】

A paper or an electronic dictionary is needed.
The schedule is subject to change

【評価方法】

Class participation 15%; Short conversations 25%; Report 30%; Final conversation 30%

【テキスト】

Interchange 1 (Fifth edition) Students Book (ISBN 9781316620311)

【参考文献】

中国語会話 I

担当教員 高 継芬

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義のねらいは、受講者が半期の中国語の学習期間において、あいさつや自己紹介などの基本的な表現を習得し、基礎的な日常会話ができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	中国について学ぼう 中国語の発音 声調・単母音の学習
2	複合母音・子音の学習
3	人称代名詞、否定、疑問など 浦東空港にて
4	名詞、副詞の用法 タクシーに乗って
5	所在を表す動詞「在」 ホテルでお茶を
6	「的」の省力 場所を表わす代名詞、存在を表わす「有」について学ぶ 私の家族
7	“喜歡”+同市の使い方について学ぶ 趣味は映画です
8	願望を表す助動詞“想” 大学の図書館へ
9	数詞、量詞について学ぶ 放課後
10	前置詞、完了の「了」について学ぶ 上海の交通
11	連動文 地下鉄付近にて
12	助動詞、経験を表わす表現について学ぶ
13	主文述語文、比較の表現 変化を表す表現など ちょっとおなかが空いた
14	結果補語、方向補語について学ぶ 突然の雨
15	これまでの学習内容を確認

【履修上の注意事項】

予習と復習を必ずすること。
受講の際は、辞典を必ず持参すること。

【評価方法】

小テスト 20%
レポート 20%
試験 60%

【テキスト】

教科書： 『LOVE 上海一初級中国語一』朝日出版社
辞典： 相原茂『はじめての中国語学習辞典』朝日出版社 最新版

【参考文献】

適宜紹介

中国語会話Ⅱ

担当教員 高 継芬

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 本講義を受講する学生は、必ず中国語会話Ⅰを履修しておくこと。

【授業のねらい】

本講義は、受講者が前期の中国語会話Ⅰで修得基礎知識をもとに、より豊かな中国語の表現力および会話力を身につけることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	前期の学習内容を復習
2	自分について中国語で表現してみよう
3	家族について中国語で表現してみよう
4	日常生活について中国語で表現してみよう① 上海料理を食べる
5	日常生活について中国語で表現してみよう② おなかがいっぱいです
6	にちじょう生活について中国語で表現してみよう③ 外たんの夜景
7	日常生活について中国語で表現してみよう④ 上海語はおもしろい
8	日常生活について中国語で表現してみよう⑤ ホテルの部屋から
9	これまでの学習内容をふりかえって
10	日常生活について中国語で表現してみよう⑥ どうしたの
11	日常生活について中国語で表現してみよう⑦ 上海は魅力的
12	日常生活について中国語で表現してみよう⑧ またあいましょう
13	大学生のアルバイトを表現しよう
14	留学について中国語を表現してみよう
15	これまでの学習内容を確認

【履修上の注意事項】

予習と復習を必ずすること。
 受講の際は、辞典を必ず持参すること。

【評価方法】

レポート 20%
 小テスト 20%
 試験 60%

【テキスト】

教科書：『LOVE 上海 初級中国語』朝日出版社
 辞典：相原茂『はじめての中国語学習辞典』朝日出版社 最新版

【参考文献】

適宜紹介

韓国語会話 I

担当教員 李 玄玉

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

「ハングル」という文字についての理解と日本語と韓国語との比較をしながら、韓国語の基礎文法を理解する。また、韓国への観光・旅行や文化体験などの場合、簡単な会話に応用できる。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション
2. 「ハングル」文字に関する歴史的背景、文字の構成、文字の書き順について
3. 韓国語の特性についての日本語との比較説明及び子音・母音について
4. 「パッチム」とパッチムの連音化
5. 基本的な挨拶に関連する会話
6. 自己紹介などの簡単な会話
7. 小グループに分け、挨拶・自己紹介などを韓国語で行う（復習と練習）
8. 韓国の文化に関する理解（ビデオ鑑賞）
9. 韓国での観光・旅行を想定した場面での会話 1
10. 韓国での観光・旅行を想定した場面での会話 2
11. 韓国での観光・旅行を想定した場面での会話 3
12. 日本と韓国との文化の差について（韓国人講師の特別講演）
13. 日常生活での基本的な会話 1
14. 日常生活での基本的な会話 2
15. 日常生活での基本的な会話 3

【履修上の注意事項】

授業後には繰り返し復習する。

【評価方法】

- ①授業参加への態度及び発表 50点
- ②授業中のミニテスト 50点

【テキスト】

やさしい韓国語（初級）梁礼先・権点淑・曹恩美 朝日出版社

【参考文献】

韓国語会話Ⅱ

担当教員 李 玄玉

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

備考 本講義を受講する学生は、必ず韓国語会話Ⅰを履修しておくこと。

【授業のねらい】

韓国語会話Ⅰに続けて韓国の文化・歴史への理解・関心を深めながら、普段の生活のなかで、韓国語が応用できる。さらに、今後、韓国への留学や就職を希望する場合、必要な基本的知識やその内容についても紹介する。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション
2. 「韓流ブーム」に関する日本の若者の見解について（ディスカッション）
3. 韓国語会話Ⅰの復習－挨拶・自己紹介など
4. 具体的な場面を想定した日常会話（1）
5. 具体的な場面を想定した日常会話（2）
6. 具体的な場面を想定した日常会話（3）
7. 日本・韓国の大学との違い、大学生交流の重要性及びその役割などについて（特別講演；招聘講師）
8. 日常場面で応用できる会話（1）
9. 日常場面で応用できる会話（2）
10. 日常場面で応用できる会話（3）
11. 韓国の映画鑑賞
12. 韓国語での日記・作文の練習（1）
13. 韓国語での日記・作文の練習（2）
14. 韓国の文化・医療・福祉の動向について
15. 韓国への留学・就職に関する情報や諸大学の紹介・韓国留学・就職した先輩からのメッセージ

【履修上の注意事項】

- 韓国語会話Ⅰの授業内容を復習しておく。
- 韓国語会話Ⅰを履修してない方も可能です。

【評価方法】

1. 授業参加への意欲・態度及び発表 50点
2. 授業中のミニテスト 50点

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献】

スペイン語会話

担当教員 未定

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考 令和2年度は閉講

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

ドイツ語 I

担当教員 竹中 健

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

ドイツの文化を、ドイツ語学習を通じて学ぶことを本講義の目的とする。ドイツ語それ自体をも対象としながら、特定の言語構造のなかで思考をおこなうとき、言語が思考に影響をおよぼすという事実を知ることがをねらいとする。講義を通じて、学修者はドイツ語の言語としての構造的特性を理解できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	名詞の性と冠詞
3	動詞の現在形 (1)
4	冠詞と名詞の格変化
5	動詞の現在形 (2)
6	接続詞
7	定冠詞類 (dieser型) ・疑問代名詞
8	人称代名詞 ・不定冠詞類 (mein型)
9	名詞の複数形
10	分離動詞
11	3基本形 ・過去形と未来形
12	再帰 ・非人称
13	前置詞
14	完了形
15	まとめ

【履修上の注意事項】

独和辞典の購入と教室必携は、早い時期にすること。ドイツ語学習は、辞書の引き方それ自体が学習内容であるからです。辞書による予習 ・ 復習ということを心掛けてください。

【評価方法】

講義内で合計10回のミニテストを実施し、それらを総合的に評価して最終評価とする。

【テキスト】

プリントを配布する。テキストは用いない。

【参考文献】

橋本政義『あなただけのドイツ語家庭教師』国際語学社
岡本和子『30日で話せるドイツ語会話』ナツメ社

ドイツ語Ⅱ

担当教員 竹中 健

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

ドイツの文化を、ドイツ語学習を通じて学ぶことを本講義の目的とする。ドイツ語圏の映画を見て、ドイツ語を部分的にでも聞き取れるようになることを目指す。戦争の歴史とナチス政権樹立のプロセスについても、映画を通じて考察を深める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：何を学ぶか？
2	映画 "Die Bucherdiebin" を見る (前半)
3	映画 "Die Bucherdiebin" を見る (後半)
4	映画を見て考え、議論する (1) どのような人たちがナチス政権に排除されたのか？
5	映画「帰ってきたヒトラー」を見る (前半)
6	映画「帰ってきたヒトラー」を見る (後半)
7	映画を見て考え議論する (2) どのような人たちがナチス政権を支持したのか？
8	映像「ヒトラーの演説」を見る (前半)
9	映像「ヒトラーの演説」を見る (後半)
10	映像を見て考え議論する (3) なぜヒトラーは支持されたのか？
11	映像を見て考え議論する (4) ネオナチズムとティーパーティー
12	ドイツ語の童話を読む
13	ドイツ語の歌を聞く
14	ドイツ語のパズルを解く
15	まとめ

【履修上の注意事項】

独和辞典を引きまくるという態勢を築いて欲しい。
またYou TubeやBS放送でドイツ語圏の音楽番組やニュース番組を楽しむ習慣をもつとよい。
テレビ番組「旅するドイツ語」を録画して、絶えずドイツ語を耳で拾って生の言葉と文化に触れて欲しい。

【評価方法】

講義内で合計4回のミニレポートを実施し、それらを総合的に判断して最終評価とする。

【テキスト】

テキストはとくに指定しない。

【参考文献】

清水紀子著『すてきなドイツ語』白水社
岡本和子著『30日で話せるドイツ語会話』ナツメ社

障害者言語

担当教員 福田 九

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

最近、ろう者による当事者組織である（一財）全日本ろうあ連盟が中心となって進めている手話言語法制定運動の全国的な取り組み、展開から地域では手話言語条例を制定しているところが増え、手話文化が定着している。手話でコミュニケーションを図るためには、スピーキング能力が不可欠であり、本講義では自分のことを手話で話し、身近なテーマについて手話で意見を述べることができるような力を育成する。

【授業の展開計画】

手話でのスピーキング能力を育成するために、様々な状況やテーマで一般的に使われる表現を学ぶ。基本的な文例表現を通して手話単語の語彙を増やすようにし、ただ手話単語を覚えるだけでなくろう者の暮らしや経験を通してまとまった考えを伝えることができるようにする。併せて実践練習を通して、ことばだけでなくジェスチャーも使いながら自然に手話で話せる能力を身につける。また各講義毎に前回の復習として、手話の読み取りテストを行う。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（この講義を受講にあたって）
2	講義「手話の基礎知識」
3	実技「手話で自己紹介をする・指文字（大曾根式手指記号）」
4	実技「一日の生活・通勤・通学」編
5	個別テスト（「自己紹介」）
6	実技「趣味・スポーツ」編
7	実技「地名・旅行・観光地」編
8	実技「仕事・職業」編
9	実技「病院・病気」編
10	個別テスト（「手話でスピーチ」）
11	講義「手話を日本語文に翻訳する」
12	実技「手話を日本語文に翻訳する」(1)
13	実技「手話を日本語文に翻訳する」(2)
14	実技「手話を日本語文に翻訳する」(3)
15	まとめ

【履修上の注意事項】

- 1) 事前・事後学習については、講義毎に指示する（講義に出る前には、わからない言葉、用語の意味をある程度、辞典等で調べ整理して出席することが好ましい）。
- 2) 授業では、パワーポイントと手話で話す（手話がわからない学生はパワーポイントや教科書等の文字情報を通して理解を深めてほしい）。

【評価方法】

試験（筆記・実技）100%

【テキスト】

全日本ろうあ連盟著(2007年)『新手話ハンドブック』,三省堂

【参考文献】

『手話教育今こそ！障害者権利条約から読み解く』高田英一(日本手話研究所長)著他

中国事情 I

担当教員 高 継芬

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

中国語の文書を読むことによって中国の古代の文化や現代の中国事情について理解することができる。
古代の文化は論語について学ぶこともできる。
現代の中国事情については中国の人口地理民族習慣文化などについて理解することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	全体オリエンテーション
2	中国の概況
3	中国の電子決済事情
4	中国の習慣
5	中国人の礼儀作法
6	論語①
7	論語②
8	中間復習まとめ
9	中国の観光
10	中国の飲食習慣
11	中国の節日
12	中国の交際礼儀
13	中国の現代の大学生
14	現代中国の抱える問題
15	総括まとめ

【履修上の注意事項】

事前に授業の内容を予習をすること、毎回授業が終わった後復習すること。

【評価方法】

レポート 40%
小テスト 20
試験 40%

【テキスト】

講義時プリント配布

【参考文献】

適宜紹介する

中国事情Ⅱ

担当教員 高 継芬

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

主として中国の現代事情を理解しつつ、その事象について分析考察します。伝統文化と現代文化の関連性や、中国特有の事情と日本お違いに注目します。

【授業の展開計画】

主として中国の現代事情を理解しつつ、その事象について分析考察します。伝統文化と現代文化の関連性や、中国特有の事情と日本お違いに注目します。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	中国の消費観念
3	中国の就職事情
4	中国の婚姻
5	中国の教育事情
6	中国の健康概念
7	中国の定年後の娯楽
8	今までの振り返り
9	中国の医療事情
10	中国の観光事情
11	中国の伝統休日
12	中国の世界遺産
13	中国の伝統習慣
14	中国の伝統礼節
15	総括

【履修上の注意事項】

事前に授業内容を予習してくるものと事後授業内容を復習してくることができれば授業がスムーズに進みます。

【評価方法】

レポート 40%
小テスト 20%
テスト 40%

【テキスト】

講義時随時プリント配布

【参考文献】

適宜紹介

アジア文化

担当教員 高 継芬、安藤 学、未定、李 玄玉

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

アジアの国々と地域の文化形成過程(文化史)を学修し、それぞれの文化における共通性と異質性を認識することによって異文化への理解を深めることをねらいとする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	タイの文化(その歴史と現在) (安藤)
2	韓国と日本の違い(未定)
3	日韓文化の遠近(未定)
4	韓国から日本へ伝えられた様々な文化について(李)
5	「飛鳥」という地名の意味、由来…(李)
6	日本語の「鳥・とり」と韓国語の「D o r i」について(李)
7	台湾の文化について(高)
8	日中の歴史について(高)
9	日中旅遊観光の文化について(高)
10	日中教育の文化について(高)
11	日中文化における共通性と異質性 漢字の比較(高)
12	日中文化における共通性と異質性 論語について(高)
13	日中文化における共通性と異質性 衣食住の比較(高)
14	日本の文化を知る(高)
15	文化についてのディスカッション(担当者全員)

【履修上の注意事項】

アジア文化の関連する本を事前に読んでいただくとスムーズに受講できます。

【評価方法】

レポート 20%
小テスト 40%
試験 40%

【テキスト】

講義時プリント配布

【参考文献】

適宜に紹介する。

基礎生物科学

担当教員 檜枝 洋記

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

現代の先端医療には、生命の仕組みを分子・細胞レベルで解き明かす研究の成果が応用され始めている。この授業では、生命科学が先端医療にどのように活かされ、どのような解決すべき課題があるのかについて調べ、まとめ、発表することによって、知識を習得し、探求心を涵養するとともに、専門科目のより深い理解に役立てる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	幹細胞（1）文献調査
3	幹細胞（2）レポート
4	幹細胞（3）発表
5	再生医療（1）文献調査
6	再生医療（2）レポート
7	再生医療（3）発表
8	遺伝子検査（1）文献調査
9	遺伝子検査（2）レポート
10	ゲノム医療（1）文献調査
11	ゲノム医療（2）レポート
12	ゲノム医療（3）発表
13	抗体医薬（1）文献調査
14	抗体医薬（2）レポート
15	抗体医薬（3）発表

【履修上の注意事項】

生物学について十分な基礎知識がなくても、積極的に取り組む姿勢があれば、楽しみながら受講することができる。

【評価方法】

学習態度(レポート、発表を含む)100%

【テキスト】

【参考文献】

適宜紹介する

環境生物学

担当教員 松岡 正佳

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

微生物は私達の世界の一員として、多くは生命の維持に必要であり、また食品製造に使われているものもある。しかし少数の微生物は人間に病気を引き起こす病原菌であり、この授業では病原性微生物に焦点を当て、それらが人間との摩擦を起こす原因や環境要因について学ぶ。微生物の正確な知識を習得し、伝染病の防御の方法や、どのようにして微生物とうまく付き合っていくかについて知識を深める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	微生物の挑戦とはどういうものか。伝染病の引き起こされる要因について考察する。
2	微生物の世界。微生物界を形成する多様な微生物種とその性質について学ぶ。
3	微生物の有益な側面。コインのもう一つの面。
4	細菌（バクテリア）。
5	ウイルス。
6	細菌の遺伝学。細菌における遺伝的交雑の機構について概観する。
7	微生物病の概念。微生物とその宿主の出会いは偶然であるという事実を認識する。
8	疫学と微生物病の周期および院内感染。
9	細菌による病気と感染経路。
10	ウイルスによる病気と感染経路。
11	原生動物および寄生虫による病気と感染経路。
12	免疫反応。免疫系により微生物由来の外來分子が認識・排除される機構について学ぶ。
13	微生物病の管理。対処方法について知る。
14	伝染病の管理における協力。伝染を防ぐ効果的な協力体制について知る。
15	生物兵器や現代の伝染病。この授業のまとめ。

【履修上の注意事項】

Power Pointを使った説明の後、設問が与えられる。次回までに解答しておいてください。

【評価方法】

3回のテストの合計点で評価します。

【テキスト】

プリントを配布します。

【参考文献】

The Microbial Challenge第2版、Jones and Bartlett Learnings (2010年、英文)

統計学

担当教員 森 信之

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

EBM(Evidence Based Medicine)、EBN(Evidence Based Nursing)などの言葉に代表されるように、得られたデータを客観的、論理的に分析し、その結果に基づいて意志・行動決定を行うという視点が医療従事者には必須となっている。そこで本講義では、確率論の基礎知識を踏まえた上で、データを分析する手法や手順、得られた結果の評価方法等を、なるべく多くの事例に関する演習を通して実践的に理解し、得られたデータから適切な分析手法を選択し、データ分析ができるようになることを目標とする。

【授業の展開計画】

01. 質的データと度数分布表・ヒストグラム
02. 量的データと代表値、分散
03. 正規分布、t分布、 χ^2 乗分布とその性質
04. 母平均・母分散・母比率の推定
05. 検定の考え方、第1種・第2種の過誤
06. 母平均の検定、対応のある2つの母平均の差の検定
07. 対応のない2つの母平均の差の検定
08. ノンパラメトリック検定（順位和検定）
09. ノンパラメトリック検定（符号検定）
10. ノンパラメトリック検定（符号付き順位和検定）
11. 母比率の検定（対応のある場合、ない場合）
12. 適合度の検定
13. 独立性の検定、マクネマー検定
14. 相関関係と相関係数
15. 回帰分析

【履修上の注意事項】

テキストはなく、配布プリントを配布するだけなので、事前の予習、事後の復習が要求される。特に、わからないことは、わからないままで済ませずに、遠慮なく質問に来るようにしてもらいたい。

【評価方法】

筆記試験の結果のみで判断する。再試験は行なう。

【テキスト】

プリント資料を配布する

【参考文献】

適宜紹介するが、図書館にも「統計学」で学内蔵書検索をすると、多くの蔵書が見つかる。実際に手に取ってみて、自分に合う参考図書を見つけてみるのもよいだろう。

情報リテラシー

担当教員 森 信之

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

高校における「情報」の履修を踏まえ、大学生として、また社会にでてからも必要となっていく「情報活用力（情報リテラシー能力）」を高めていくことがねらいである。これにより、これからの高度情報化社会に対応した、身の回りのパソコンやネットワークなどの情報環境を、自ら積極的に、利活用できるようになることを目指す。

【授業の展開計画】

01. ガイダンス／情報教育システムの利用について（森）
02. インターネット，E-mailの利活用（森）
03. Wordの基本操作① 段落・ページ設定，段落組，段落番号 他（森）
04. Wordの基本操作② インデント，ヘッダー・フッター 他（森）
05. 文献検索（福本直子），ネットの利活用と情報セキュリティ（森）
06. 情報倫理について（森）
07. Excelの基本操作① データ入力，計算式，罫線（森）
08. Excelの基本操作② グラフ描画（森）
09. WordとExcelの連携
10. Excelの応用① オートフィル，絶対参照と相対参照
11. Excelの応用② 様々な関数の利用・関数の検索
12. Excelの応用③ IF関数とIFの組合せ，COUNTIF，SUMIF，AVERAGEIF
13. Excelの応用④ ピボットテーブル
14. PowerPointの基本① スライド作成，デザイン・配色，スライドショー
15. PowerPointの基本② スライドの切り替え効果，図・表・グラフの挿入

【履修上の注意事項】

基本操作が充分理解できていない場合は、事前に予習をしておくこと。また、講義中はノートをしている時間はないので、復習する中で自分の理解を確かめながら、手順や注意事項をメモするように。

【評価方法】

課題レポートと、筆記・実技試験の結果を総合的に判断する。配点は、レポート30%、試験70%。再試験は行なう。

【テキスト】

「2020年度版 情報倫理ハンドブック」noa出版

【参考文献】

講義中に、適宜紹介する。

生命倫理

担当教員 柴田 恵子、松本 鈴子、川本 起久子、二宮 球美、村田 宮彦、未定

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

生命に関する倫理的諸問題について、人はどのように対処すべきだと考えられるかについて理解する。先端医療を始めとするバイオテクノロジーの発展がもたらす恩恵とそれにともない問われることになった生命の意味について、基本的概念とその問題点の学びから生命倫理学に関心をもち、保健・医療・福祉の従事者としての考えを深められるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、現代社会と生命倫理：生命の質（柴田）
2	インフォームド・コンセント（柴田）
3	尊厳死（川本）
4	安楽死（川本）
5	終末期ケア（川本）
6	小児期の保健・医療と生命倫理（二宮）
7	周産期医療と生命倫理（松本）
8	医療資源の配分（柴田）
9	パーソン論（柴田）
10	パターンリズムと患者の権利（未定）
11	自律とwell-being（未定）
12	専門職の役割・責務（未定）
13	ケアと生命倫理（柴田）
14	倫理の源を考える：規範倫理学の時代（村田）
15	倫理の源を考える：応用倫理学の発展（村田）

【履修上の注意事項】

レポート発表、グループワークを行うので積極的に授業に参加をすること。課題に対して自分の意見を準備しておくこと。第1回目のオリエンテーション時に授業予定、授業前・後の学習について説明をするので、具体的な学習方法を考え実践すること。課題レポートは授業前の事前学習であり、講義期間中の小テストはそれまでの学習の復習を兼ねた事後学習である。

【評価方法】

定期試験：60%、学習態度・状況（レポート提出、グループ活動の参加と発表）：40%

【テキスト】

随時、紹介する。

【参考文献】

『生命倫理学を学ぶ人のために』（加藤尚武・加茂直樹編）世界思想社

人間工学

担当教員 未定

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項 令和2年度は閉講

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、日常の生活環境の整備計画を行う上で「人間工学」的視点がどのように利用できるかを中心に行う。特に、学生が、高齢者や障害者の心身の状態を踏まえた日常生活環境整備のあり方について把握できることを講義の核心とする。

【授業の展開計画】

看護業務や介護福祉業務、またリハビリテーション業務などのコメディカルとしての業務において、身体の負担を軽減する方法を人間工学やボディメカニズムの視点から理解する。また、医療工学（ME）器具、ベッド、椅子、衣服、機器や道具が人間工学的にどのような配慮がなされる必要があるかを学ぶ。

週	授 業 の 内 容
1	人間工学の成立過程を歴史的背景から理解する(西島衛治)
2	人間工学の研究手法とは何か、またその応用分野について学ぶ(西島衛治)
3	人間工学を理解するうえで必要な基礎資料を学習する(西島衛治)
4	人間工学がどのように家具全般へ応用されているかを理解する(西島衛治)
5	人間工学がどのようにいすへの応用がなされているかを理解する(西島衛治)
6	人間工学がどのようにベッドへの応用がなされているかを理解する(西島衛治)
7	人間工学がどのように機器への応用がなされているかを理解する(西島衛治)
8	人間工学がどのように衣服への応用がなされているかを理解する(西島衛治)
9	人間工学がどのように履物への応用がなされているかを理解する(西島衛治)
10	人間工学がどのように住宅への応用がなされているかを理解する(西島衛治)
11	人間工学がどのように高齢者(看護・介護)へのアプローチをしているかを理解する(西島衛治)
12	人間工学がどのように障害者(看護・介護)へのアプローチをしているかを理解する(西島衛治)
13	人間工学と関連分野(リハビリテーション工学)との関係性を考える(西島衛治)
14	人間工学と関連分野(福祉環境マネジメント論)との関係性を考える(西島衛治)
15	人間工学と関連分野(福祉環境工学)との総括的な関係性を考える(西島衛治)

【履修上の注意事項】

【準備学習】事前に講義テキストを予習し記録する:反転学習(120分)【課題等に関するフィードバック】講義内容を記録し、不明な部分を調べる。記録を図化や表に整理する。(120分)【その他のアドバイス】講義の中でノート作成方法を指導する。そして、講義内容を理解できる内容に構造化する。結論の整理を箇条書きにする。理解できない場合、講師に質問する。ICT活用学習など

【評価方法】

1. 予習・復習による自主学習態度の確認(20%)。2. 定期試験や中間理解度確認試験による評価(60%)。3. レポートによる評価(10%)。4. 講義における質疑応答状況(10%)、出席重視(6回以上の欠席は定期試験が受験不可):学則により、欠席回数が講義回数の三分の一を超えると定期試験が受けられないので注意する。履修届けがない場合は、出席しても単位が出ない。

【テキスト】

小原二郎 著「新版 暮らしの中の人間工学」実教出版、2015年

【参考文献】

小川鑛一 著「イラストで学ぶ看護人間工学」東京電機大学出版局、2016年

環境科学

担当教員 檜枝 洋記

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

人類や個人を取り巻く自然、社会、生活の環境を知り、人間活動が環境そして人間自身に与える影響を理解するとともに、自分が生きている現代の環境問題や自分の子孫が生きる時代の環境問題への対処や解決方法を考察する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	環境科学オリエンテーション
2	環境とは何か
3	自然環境と人間
4	地域の自然
5	公害
6	地球・生物圏・生態系
7	水と生活環境
8	都市環境と自然
9	大気汚染
10	人工化学物質と環境
11	放射性物質
12	循環型社会
13	汚染者負担の原則
14	今後の環境問題
15	環境問題の解決策

【履修上の注意事項】

努めて出席すること。
読書やレポート提出を数回、求める。

【評価方法】

授業中の取り組み (50%) レポート提出 (50%)

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

適宜紹介する

物理学

担当教員 森 信之

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

物理学は、自然界のあらゆる出来事に対し、科学的思考によってその本質を明らかにしようという学問です。本講義は、医療・福祉分野において必要となるであろう項目を取上げますが、その学修により、観察事実に基づく科学的思考、分析的思考を身に付けることも目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	力とベクトル、力の合成・分解、作用反作用、力のつり合い
2	力のモーメント、槌子(てこ)の原理、モーメントのつり合い
3	体の構造と槌子、重心と安定性
4	圧力、サイフォン、ドレナージ(吸引)
5	速度、加速度、ニュートンの運動の法則
6	重力と重力加速度、一様重力による運動
7	等速円運動、単振動、波
8	運動量と運動量保存則、はね返り係数
9	仕事と力学的エネルギー
10	種々のエネルギーとエネルギー保存則
11	電場、静電気力；磁場、磁力
12	電流、電位差、オームの法則
13	電磁波、光
14	直流回路、交流回路
15	原子核と放射線、半減期

【履修上の注意事項】

黒板に書かれたことをただ写すだけでなく、講義を聞いて、なぜそうなのかを考えながら、要点をまとめてノートするようにしてください。自分の頭で考えることなしに、物理学や科学的思考を理解することはできないからです。

【評価方法】

筆記試験を行ない、その結果のみで評価します。

【テキスト】

使用しません。適宜、プリントを配布します。

【参考文献】

必要に応じ、講義中に示します。

数学

担当教員 森 信之

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

この講義では、数学の基礎を理解し、問題演習を通して「論理的思考」や「数学的思考」ができるようになることを目指します。

【授業の展開計画】

1. 数と単位
2. 度数と分布
3. 平均値のいろいろ
4. 比と比率と割合
5. 比率（静的・動的）
6. リスク比，オッズ比
7. 累乗関数とその性質
8. 指数関数とその性質
9. 対数関数とその性質
10. グラフの描き方・読み方
11. 経験的確率と理論的確率
12. 根元事象と場合の数，順列・組合せ
13. 2項分布とポアソン分布
14. 条件付き確率，期待値
15. ベイズの定理

【履修上の注意事項】

テキストを使用しないので、講義中のノートをしっかり取るだけでなく、事前学習が必要になる。また毎回、前の週の確認テストを行なうので、復習をし、特に授業中の演習問題は、もう一度解いてみて、その考え方のプロセスを学ぶこと。

「数理的な思考」を身に着けるには、自分の頭で考えてみるのが大切です。

【評価方法】

定期試験のみで評価します。

毎回行なう小テストは、理解度を確認するためのものなので、評価には入れませんが、定期試験の問題として出題します（問題文や数字は変更します）。

【テキスト】

テキストは使わず、必要に応じてプリントを配布します。

【参考文献】

講義中に、適宜、指示配布します。

化学

担当教員 檜枝 洋記

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

将来、看護系・医療技術系スタッフとして社会で活躍する皆さんは、人体の構造と働きや医療器具・医薬品などについて正しく理解し、これらの知識をもとに疾病の予防や回復のための対処法についてよく考え、的確に判断をすることが必要になる。そのために、解剖生理学、生化学、栄養学、薬理学など専門基礎分野や専門分野の科目を学修しなければならない。本科目を受講することで、医療スタッフとして重要かつ必須の化学的な基礎知識を身につけ、専門基礎分野や専門分野の科目の内容を、科学的（化学的）により深く理解できるようになる。

【授業の展開計画】

この授業では、初めに物質を構成する目では見えない主な粒子、原子、分子やイオンの成り立ちを知り、物質中に見られるこれらの粒子の結合の仕方（化学結合）を理解する。次に、化学や物理で決められている原子、分子、イオンの量的な取り扱い方を知り、物質の状態変化や化学的な変化（化学反応）を量的な変化として表す方法を学ぶ。また、医療と関係の深い物質の濃度の表し方やその状態に関する現象（原理と法則）について学び、さらに主な物質（酸化剤・還元剤、酸・塩基）の性質とその定義、反応の理論についても理解する。

週	授 業 の 内 容
1	物質を構成する見えない粒子（原子）を想像する — 元素とその原子の構造（原子核と電子）
2	原子の性質は原子が持っている電子で決まる — 原子の電子配置と周期性
3	原子が物質のもとになる粒子（イオンと分子）に姿を変える理由 — オクテットルール
4	物質中の原子どうしの手のつなぎ方を見る — 化学結合（イオン結合と共有結合）
5	原子・分子・イオンの質量（重さ）と物質量を考える — 化学量と物質量（モルmolと当量Eq）
6	原子・分子・イオンの質量（重さ）をモルmolで表現する — 物質量（molとEq）の換算方法
7	水溶液の濃度 — 百分率（%）とモル濃度（mol/L）、その他
8	水溶液の性質とヒトの血液 — 蒸気圧と浸透圧
9	物質が姿を変える — 状態変化と化学変化そしてエネルギー変化
10	反応の速さと進む方向の偏り — 可逆反応と化学平衡
11	酸化するものと酸化されるもの — 酸化と還元、酸化・還元反応の理論
12	ヒトは生きるために酸素を必要とする — 生体内での酸化・還元反応
13	酸性を示すものとアルカリ性をしめすもの — 酸と塩基とpH、酸・塩基反応の理論
14	ヒトのからだと血液のpH — 緩衝液とpH
15	ヒトの細胞内はコロイド溶液 — コロイド溶液とその性質

【履修上の注意事項】

この科目は、高校で化学を履修しなかった、化学を苦手としていた、化学が好きで履修したがもう一度学び直したい学生の皆さんを対象にしている。受講する前には「シラバス」を見て、その日の授業内容を確認しておくこと、また、受講したその日のうちに短時間でも復習し、記憶に残す努力をするとよい。「わかること」を「楽しむ」丁寧な講義を行う。

【評価方法】

試験100%

【テキスト】

教養の化学 —暮らしのサイエンス—（ヘラー・スナイダー、渡辺正訳、東京化学同人）

【参考文献】

看護系で役立つ化学の基本（有本淳一・西沢いずみ、化学同人）

コ・メディカル化学 - 医療系・看護系のための基礎化学 - （齋藤勝裕ら、裳華房）

生物学

担当教員 檜枝 洋記

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

生物のあらゆる生命活動は細胞のはたらきの産物である。ヒトのからだは、二百数十種類、数十兆個の細胞が独自の機能を果たし、同時に、協同的にはたらくことによって維持されている。この授業では「細胞」を軸にして、生物（とくにヒト）のからだの構造とはたらきについて基本的な知識を習得し、専門科目のより深い理解に役立つ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	生物の多様性と共通性
2	環境と生命
3	細胞の構造とはたらき
4	生体構成物質
5	代謝
6	エネルギーの獲得と利用
7	酵素のはたらき
8	中間試験
9	遺伝子DNAと染色体
10	遺伝子のはたらき
11	細胞分裂
12	遺伝
13	生殖と発生
14	組織と器官
15	まとめ

【履修上の注意事項】

暗記ではなく、考えて理解しながら、基本的な事柄をじっくりしっかり頭にしみ込ませることに重点を置いて授業する。

【評価方法】

中間試験（50%） 単位試験（50%）

【テキスト】

プリント配布

【参考文献】

1. わかる！身につく！生物・生化学・分子生物学、第2版（田村隆明、南山堂）
2. 基礎から学ぶ生物学・細胞生物学、第3版（和田勝、羊土社）

臨床心理学

担当教員 永田 俊明

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業は、現代の心理学の全体的な動向をコンセプトにした「心理学・臨床講義」というスタンスに立って、必要な基礎的な知識の習得を目指す。とかく従来の臨床心理学は単なる学派の羅列的理解が中心であることが多いが、この授業では、正常との連続変数及び心理学的援助対象のケアシステムの一部として、現代の代表的な心理病理現象をどのように診立て、また、援助を行う必要があるかについての基本知識の習得と心理的援助の勘所に焦点を当てながら理解を深めていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	臨床心理学とは何か（1）史的概説を基礎に
2	臨床心理学とは何か（2）精神医学との相違
3	面接と検査 アセスメント
4	観察と行動 データ収集技法
5	正常と異常 DSMを中心に
6	異常心理学 精神的な症状と心理学
7	精神障害 心理的問題
8	発達臨床心理学 ライフサイクルと心理的問題
9	介入理論モデル（1）精神分析とクライエント中心療法
10	介入理論モデル（2）認知行動療法と家族療法
11	介入技法モデル(1) 遊戯・箱庭療法
12	介入技法モデル(2) SSTと心理教育
13	介入技法モデル(3) さまざまな相談活動
14	コミュニティ・モデル
15	医療・福祉領域の臨床心理学

【履修上の注意事項】

シラバス内容について事前に学習し、事後はテキストおよびノートにより知識を深めておく。

【評価方法】

期末試験：100%で評価 *本科目の再試験は実施しない。

【テキスト】

未定

【参考文献】

『精神医学事典』加藤・保崎他編 弘文堂2001年 『心理アセスメントハンドブック』上里監 2001年 「DSM-IV精神疾患の診断・統計マニュアル』加藤他監編 医学書院 1996年

看護学概論

担当教員 柴田 恵子、上妻 尚子、古堅 裕章、古江 佳織、未定

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

看護専門職としての自己の健康観、看護観を迫及するために必要となる知識、概念を理解する。看護の対象および看護の提供、歴史・制度および将来の専門職の展望に関する知識から看護学について理解する。保健・医療・福祉専門職者として相応しい高い知識と優れた技術を身につける必要性を知る。

【授業の展開計画】

上妻、古堅、古江：看護師として病院勤務経験。柴田：養護教諭として学校勤務経験
第1回目のオリエンテーション時に、詳細な授業計画および本教科の履修について説明を行う。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、看護学概論とは（柴田）
2	人間の欲求と健康、健康のとらえ方（上妻）
3	国民の健康状態（上妻）
4	看護の対象の理解（上妻）
5	サービスとしての看護・看護サービス提供の場（古堅）
6	災害時における看護（古堅）
7	小テスト1、ナイチンゲールについて（柴田）
8	医療安全と医療の質保証（古江）
9	看護職者の教育とキャリア開発、看護職の養成制度の課題（柴田）
10	看護における倫理（柴田）
11	国際化と看護（古江）
12	看護とはなにか（柴田）
13	小テスト2、DVD視聴（柴田）
14	職業としての看護・看護職者の養成制度と就業状況（古堅）
15	グループワーク：医療職者における専門性、学習のまとめ（柴田）

【履修上の注意事項】

課題について考え、レポートを提出する。第1回目のオリエンテーション時に授業前・後の学習について説明をするので、具体的な学習方法を考え実践すること。課題レポートは授業前の事前学習であり、講義期間中の小テストはそれまでの学習の復習を兼ねた事後学習である。教科書の精読、レポート作成に要する時間は60分である。

【評価方法】

定期試験（筆記）：60%、学習態度・状況（小テスト、レポート提出、グループ活動の参加と発表）：40%。
フィードバックとして小テストは問題を確認することで学習に役立て、レポートは返却する。

【テキスト】

『系統看護学講座 基礎看護学（1）』茂野香おる 他（医学書院）

【参考文献】

随時、紹介する。

社会福祉原論 I

担当教員 増田 公香

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
- 2 福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。
- 3 福祉政策におけるニーズと資源について理解する。
- 4 社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要について理解する。
- 5 福祉政策の課題について理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、現代社会と福祉
2	福祉制度の概念と理念
3	福祉政策の概念と理念
4	福祉制度と福祉政策の関係
5	前近代社会と福祉1（救貧法、慈善事業）
6	前近代社会と福祉2（博愛事業、相互扶助、その他）
7	近代社会と福祉1（第二次世界大戦後の窮乏社会と福祉）
8	近代社会と福祉2（経済成長と福祉、その他）
9	現代社会と福祉1（新自由主義、ポスト産業主義、グローバル化）
10	現代社会と福祉2（リスク社会、福祉多元主義、その他）
11	需要とニーズの概念（需要の定義、ニーズの定義、その他）
12	資源の概念（資源の定義、その他）
13	福祉政策と社会問題1（貧困、失業、要援護〈児童、高齢、障害、母子・寡婦など〉、偏見と差別）
14	福祉政策と社会問題2（社会的排除、ヴァルネラビリティ、リスク、その他）
15	福祉政策の現代的課題

【履修上の注意事項】

授業前にテキストを読み、キーワードについて調べてくること。
授業後に復習しておくこと。

【評価方法】

定期試験60%、レポート20%、発表20%で評価する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『現代社会と福祉』第4版（中央法規、2019年）。

【参考文献】

厚生労働省編『（平成30年版）厚生労働白書』（ぎょうせい、2018年）。
内閣府編『（平成30年版）障害者白書』（日経印刷、2018年）。『社会福祉六法』（最新版）。

地域保健論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1 地域保健の位置づけやその構造を理解し、具体的な活動や医療制度について理解する。
- 2 地域保健が目指す新しい健康の概念や地域集団としての健康づくりへの取り組みの例に着目し、今後の地域医療の在り方について考えることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	地域保健とその構造
2	保健・医療・福祉の組織と活動
3	地域保健① 保健所の組織と業務
4	地域保健② 市町村保健センターの組織と業務
5	救急医療① 救急医療体制
6	救急医療② 救急救命士
7	災害医療① 医療における災害の定義と解釈と災害拠点病院
8	災害医療② 災害時保健医療活動
9	災害医療③ トリアージ
10	へき地医療 へき地保健医療対策と遠隔医療
11	在宅医療① 在宅ケア
12	在宅医療② 訪問診療・往診と訪問看護制度
13	在宅医療③ 訪問及び通所リハビリテーション
14	チーム医療
15	保健・医療・福祉の連携

【履修上の注意事項】

- 1 ペアによるディスカッションをするため、ペアを作って着席する。
- 2 すべてのペアに発言の機会があるので、常に自分の考えを持って参加する。

【評価方法】

ディスカッションへの参加40%，課題提出20%，期末試験40%で評価する。
再試験は実施しない。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

毎回、資料を配布する。参考資料については、授業の中で随時提示する。

在宅療養支援チーム協働論

担当教員 未定

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

行動療法論

担当教員 李 玄玉

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

行動療法は、治療の期間も短く、治療の効果もはっきりしている。治療の組み立て方、方針の立て方、その基本となる行動の見方を基礎からしっかりと捉えれば、無限の可能性が開かれる。本講義では、行動療法の基礎理論や技法を理解するとともに、行動療法の目指している地点を探求することを目標とする。

【授業の展開計画】

【 授業内容 】

1. オリエンテーション
2. 行動療法について
3. 行動療法の特徴
4. 行動療法の動向および認知行動療法について
5. 行動療法の知識の概要
6. 行動療法と他の心理療法との相違点
7. 行動療法に必要な条件づけに関する基礎知識
8. 行動療法の諸技法
9. 行動形成法の理論と具体的事例
10. トークンエコノミック法と行動の改善
11. 臨床の場面での行動療法
12. 発達障害児の行動改善における行動療法
13. 行動療法の具体的な事例のビデオ鑑賞
14. 具体的な事例と行動療法の適用
15. 具体的な事例と行動療法の適用

【履修上の注意事項】

授業後の復習。理解できなかった部分について調べること。

【評価方法】

授業態度及び発表 40点、 レポート 10点、 テスト 50点、 合計 100点

【テキスト】

プリント資料を配布する。

【参考文献】

行動療法の理論と技術」 内山喜久雄、日本文化科学社

解剖生理学 I

担当教員 二科 安三

配当年次 1年

単位区分 必修

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人体各部の構造と機能を勉強する。本講義で中心となるのは消化器系、血液および循環器系、呼吸器系、泌尿器系であり、その周辺（たとえば神経系等）にも注意を払いつつ勉強する。適切な教科書を指定するので、その7割程度は理解して他人に解説できるようになること。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	はじめに 解剖学・生理学
2	栄養の消化と吸収1 口・咽頭・食道・胃の構造と機能
3	栄養の消化と吸収2 小腸・大腸の構造と機能
4	栄養の消化と吸収3 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能
5	呼吸と血液の働き1 呼吸器の構造と呼吸運動
6	呼吸と血液の働き2 ガス交換とガスの運搬
7	呼吸と血液の働き3 呼吸運動の調節
8	呼吸と血液の働き4 血液の組成と機能
9	血液の循環とその調節1 心臓の構造、心臓の興奮とその伝播
10	血液の循環とその調節2 心臓の収縮、心周期
11	血液の循環とその調節3 血圧・血流量の調節
12	血液の循環とその調節4 微小循環、リンパの循環
13	体液の調節と尿の生成1 腎臓の構造、糸球体・尿細管・傍糸球体装置
14	体液の調節と尿の生成2 糸球体濾過、クリアランス、排尿の機序
15	体液の調節と尿の生成3 体液の調節

【履修上の注意事項】

教科書に準拠して講義を進めるので、授業前・後に教科書をよく読んで予習と復習をして下さい。

【評価方法】

期末試験(100%)で判定する。

【テキスト】

解剖生理学（人体の構造と機能[1]）、坂井建雄、岡田隆夫 医学書院

【参考文献】

なし。

解剖生理学Ⅱ

担当教員 二科 安三

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人体各部の構造と機能を勉強する。本講義で中心となるのは自律神経系、内分泌系、骨と筋肉、生殖器官系、生体防御免疫系が中心となる。適切な教科書を指定するので、その7割程度は理解して他人に解説できるようになること。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	神経系の構造と機能 神経系の構造、興奮の伝導と伝達内臓機能の調節
2	自律神経による調節
3	内分泌による調節1 ホルモンの構造、視床下部、下垂体
4	内分泌による調節2 甲状腺、膵臓、副腎、甲状腺・副甲状腺
5	内分泌による調節3 ホルモン分泌の調節、ホルモンによる調節
6	身体の支持と運動1 骨と筋の構造
7	身体の支持と運動2 体幹、上肢、下肢、頭頸部の骨格と筋、身体の支持と運動
8	身体の支持と運動3 筋の収縮
9	情報の受容と処理1 中枢神経の構造と機能情報の受容と処理
10	情報の受容と処理2 末梢神経の構造と機能
11	情報の受容と処理3 脳の高次機能、運動機能、感覚機能
12	情報の受容と処理4 特殊感覚の構造と機能
13	身体機能の防御と適応1 皮膚の構造と機能、生体の防御機構
14	身体機能の防御と適応2 体温とその調節
15	生殖・発生と老化のしくみ生殖

【履修上の注意事項】

教科書に準拠して講義を進めるので、授業前・後に教科書をよく読んで予習と復習をして下さい。

【評価方法】

期末試験(100%)で判定する。

【テキスト】

解剖生理学Ⅰと同じ教科書を使用する。

解剖生理学 人体の構造と機能1、坂井建雄、岡田隆夫、医学書院

【参考文献】

なし。

生活栄養学

担当教員 本田 榮子

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

○食べ物と健康という観点から、基礎栄養学、食物の消化・吸収、栄養素の特徴や役割、臨床栄養学の面から疾病と栄養の関連について理解し、自らが幅広い視野と知識を身につけ実践する事、特に食事や栄養に関する情報量が急増している中、自身や人々の健康の維持増進に努める事が出来る。

また、医療従事者として、様々な身体的状況にある人々に接する際に、自身が学んだ食・栄養面の知識を、効果的に行う技法や体験を活かし、サポートすることで自らも健康的な食生活が実践出来るようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・ 栄養の基本概念(栄養とは 健康と栄養評価 食行動と管理目標)
2	食生活の課題 (食と環境 食と健康 食文化)
3	日本人の食事摂取基準
4	栄養指導・保健指導 (栄養指導の過程と栄養スクリーニング)
5	食物と栄養 (栄養素とその働き) (1) 炭水化物の種類、エネルギー
6	食物と栄養 (栄養素とその働き) (2) 脂質・たんぱく質
7	食物と栄養 (栄養素とその働き) (3) ビタミン・無機質
8	食物の摂取と消化・吸収 (食欲・消化の調節栄養素の吸収)
9	ライフステージと健康教育 (妊娠・授乳期、乳幼児期)
10	ライフステージと健康教育 (学童期・思春期)
11	ライフステージと健康教育 (成人期・老年期)
12	疾患別食事指導の実際 (1) 糖尿病、高血圧、脂質異常症
13	疾患別食事指導の実際 (2) 虚血性心疾患 脳卒中等
14	疾患別食事指導の実際 (3) 慢性腎臓病 摂食嚥下障害等
15	経管栄養と中心静脈栄養 (栄養療法 経腸・静脈栄養法・栄養管理におけるチームアプローチ)

【履修上の注意事項】

履修の中で、各単元の理解を把握するために演習課題を出すので、授業前にキストと配布資料、テキストの副読本としての「栄養学整理ノート」を読み事前に必ず予習して講義を受講すること

【評価方法】

期末試験 (筆記) 95% 学習態度5%(出席日数・私語が多くて注意を受けた時)

【テキスト】

「わかりやすい栄養学 第4版 -臨床・地域で役立つ食生活指導の実際-」ヌーヴェルヒロカワ

【参考文献】

わかりやすい栄養学 (三共出版) 基礎栄養学 (第一出版) 日本人の食事摂取基準 (2015年版) 七訂補日本食品成分表、国民衛生の動向30年版 糖尿病の食品交換表 腎臓病の食品交換表、応用栄養学 (医歯薬出版)

感染症学

担当教員 徳富 芳子、三森 龍之

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ヒトと共生する常在菌叢の働き、ヒトの健康を害する病原微生物・寄生虫の性質や感染機構を理解し、さらに代表的な感染症について、その感染経路、症状、予防・治療法に関する基礎知識を修得する。また、生体防御機構、各種感染症に有効な化学療法薬・消毒薬の病原体に対する作用とヒトへの影響について理解を深めるとともに、耐性菌、新興感染症・再興感染症の出現、日和見感染症の増加等の医療分野における重要な課題について説明できるようになる。さらに、がん治療に用いる化学療法薬の種類と作用機序についても概説できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	感染症学概論、常在菌叢とその働き	(三森)
2	病原微生物の分類と特性（構造、性質、病原性、感染機構）	(三森)
3	細菌と感染	(三森)
4	真菌と感染	(三森)
5	ウイルスと感染	(三森)
6	寄生虫・原虫と感染	(三森)
7	感染に対する生体防御機構（免疫系）、予防接種用薬	(徳富)
8	感染症に対する薬物（化学療法薬概論）、薬物動態	(徳富)
9	抗菌薬（抗生物質）	(徳富)
10	抗菌薬（合成抗菌薬）	(徳富)
11	抗結核薬	(徳富)
12	抗真菌薬、抗原虫薬、抗寄生虫薬	(徳富)
13	抗ウイルス薬	(徳富)
14	消毒薬・殺菌薬	(徳富)
15	抗がん薬	(徳富)

【履修上の注意事項】

- 1) 毎回の準備学習として、教科書を熟読する。①『わかる！身につく！病原体・感染・免疫』（主に第1-6回に使用）、②『コメディカルのための薬理学』-第1章, 12章, 13章-（第7-15回に使用）（約1時間）
- 2) 授業には指定教科書、ノート、プリントを持参する。講義内容を書留め、その日の内に復習する（約1時間）。
- 3) 講義プリントはファイルし、専門用語を正確に覚え、その概念を正しく理解する。
- 4) 教科書・参考書・講義プリント等について理解できない箇所は、教員に質問する。

【評価方法】

- 1) 「授業のねらい」に示した内容の達成度を評価するため、学期末に筆記試験を行う。
講義 第1～6回(40%)、第7～15回(60%)
- 2) 小テスト結果のフィードバックとして、授業内でポイントの解説を行う。

【テキスト】

- 1) 『わかる！身につく！病原体・感染・免疫 第3版』 藤本 編, 南山堂3,080円
- 2) 教員作成プリント
- 3) 『コメディカルのための薬理学 第3版』 渡邊 他編, 朝倉書店 4,070円（薬理学でも使用）

【参考文献】

- 1) 『系統看護学講座専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進4微生物学』 南嶋 他著, 医学書院
- 2) 『看護の基礎固め ひとり勝ち 6. 微生物学編, 4. 薬理学編』 メディカルレビュー社

薬理学

担当教員 徳富 芳子

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

薬物とは、恒常性（ホメオスタシス）の破綻による生体機能の異常（病態）を正常範囲に戻そうとする目的で、疾病の治療・予防・診断に用いられる化学物質である。日進月歩の薬物療法が、医療・保健・福祉の現場で適正かつ有効に行われているか判断できるよう、各種薬物を系統的に把握し理解する。基本的な薬理学の知識に基づき論理的思考力を駆使して、副作用の発現防止に寄与するための応用力を身につける。

【授業の展開計画】

薬理作用の多くは、生体の機能調節の仕組みに則って現れる。従って、解剖生理学の知識の修得が薬理学の理解に欠かせない。1年次に学んだ解剖生理学の内容をしっかりと復習していることを前提に授業を展開する。

週	授 業 の 内 容
1	薬理学総論（薬物療法、関係法規、薬物の作用点）
2	薬理学総論（薬物相互作用）
3	薬理学総論（薬物動態）
4	薬理学総論（年齢・臓器障害等による薬物動態変化、剤形）
5	末梢神経系作用薬（交感神経系作用薬）
6	末梢神経系作用薬（副交感神経系作用薬）
7	末梢神経系作用薬（筋弛緩薬、局所麻酔薬）
8	循環器系作用薬（抗不整脈薬、心不全治療薬、狭心症治療薬）
9	循環器系作用薬（高血圧治療薬、末梢血管作用薬、利尿薬）
10	中枢神経系作用薬（全身麻酔薬、催眠薬、抗不安薬、抗精神病薬、抗うつ・躁薬）
11	中枢神経系作用薬（抗てんかん薬、パーキンソン病治療薬、麻薬性鎮痛薬、中枢興奮薬）
12	炎症・免疫疾患に対する薬物（抗炎症・抗アレルギー薬、免疫抑制薬、免疫増強薬）
13	呼吸器系疾患に対する薬物（気管支喘息治療薬、COPD治療薬、鎮咳・去痰薬）
14	消化器系疾患に対する薬物（消化性潰瘍治療薬、他）、泌尿器系疾患に対する薬物（排尿障害治療薬）
15	代謝・内分泌系疾患に対する薬物（糖尿病治療薬、痛風治療薬、他）

【履修上の注意事項】

- 1) 各回のテキスト該当箇所を予め熟読すること（1時間程度）。
- 2) 講義中に要点をノートに書き、その日の内に内容をしっかりと復習すること（1時間程度）。
- 3) 講義プリントはファイルし、薬理学授業時に、教科書、ノートと一緒に必ず持ってくる。
- 4) 専門用語は正確に覚え、その概念を正しく理解すること。理解できない内容は講義の前後に質問すること。

【評価方法】

- 1) 学期末の本試験（100%：筆記試験）で評価する。前提条件は2/3以上の出席。
- 2) 「薬物療法の基礎知識を用い、論理的思考を展開できる」を評価基準とする。

【テキスト】

- 1) 『コメディカルのための薬理学 第3版』渡邊 他編，朝倉書店 4,070円（感染症学でも使用）
- 2) 教員作成プリント

【参考文献】

『系統看護学講座専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進3 薬理学』吉岡 他著，医学書院
『看護の基礎固め ひとり勝ち薬理学』片野監修メディカルレビュー社 『今日の治療薬2020』浦部他編，南江堂

国際協力論

担当教員 安藤 学、川原 光祐、久家 誠司

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

今日、貧困・教育・紛争・環境破壊・エイズ・食糧問題など地球規模の諸問題はますます深刻な状況にあります。このような問題は、私たち日本人にとっても遠い国の問題ではありません。私たちも国際社会の一員として世界の国々と協調連帯して国際協力を推進するための能力を修得することができる。

【授業の展開計画】

保健・医療・福祉分野の国際協力を事例に取り入れながら授業を展開する。

週	授 業 の 内 容
1	国際協力とは何か（安藤）
2	政府開発援助（安藤）
3	政府開発援助の事例（安藤）
4	NGOによる民間協力（安藤）
5	NGOによる民間協力の事例（安藤）
6	技術協力の方法（川原光祐）
7	技術協力の方法の事例（久家）
8	参加型開発（久家）
9	参加型開発の事例（久家）
10	国際協力の理念（久家）
11	国際協力の理念の事例（久家）
12	国際協力の事例（民間）（久家）
13	国際協力の事例（政府）（安藤）
14	国際理解と支援活動（安藤）
15	今後の国際協力のあり方（安藤）

【履修上の注意事項】

オムニバスであるので、毎回の出席を心がける。事前に出され課題について調べて授業に臨むことと、授業後に授業前に出された課題と授業で学んだ内容について比較して復習をすること。

【評価方法】

レポート(80%コメントして返却します。) 授業への取り組み20%

【テキスト】

資料を準備する

【参考文献】

適宜紹介する

危機管理と災害支援

担当教員 安藤 学

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

日常生活の中においても、危険は常に存在する。もちろん日常生活だけではなく拡大して考えれば地球上にはいろいろな危険が存在しており、それに対する危機管理が必要である。家庭内の危険から出発し国際紛争までに行きわたる危機管理について学ぶ。

そして、災害についての危機管理と災害発生後の支援のあり方について検討できる能力を修得することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	危機管理論オリエンテーション
2	危機管理とは何か
3	危険とは何か
4	家庭における危険と危機管理
5	地域社会における危険と危機管理
6	学校における危険と危機管理
7	企業における危険と危機管理
8	国家における危険と危機管理
9	国家間のバランスと危機管理 (安全保障)
10	地方自治体の危機管理
11	住民の避難行動
12	災害支援の方法 1 (災害発生時)
13	災害支援の方法 2 (自活生存)
14	災害支援の方法 3 (避難救助)
15	危機管理についての総まとめ

【履修上の注意事項】

授業前に出された課題を完成させて授業に臨み、授業後は授業前の課題と授業で学んだことを比較して復習をすること。

【評価方法】

レポート提出 (80%コメントして返却します。), 授業への取り組み姿勢 (20%)

【テキスト】

なし

【参考文献】

適宜紹介する

災害支援演習

担当教員 安藤 学

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

災害支援の場合、常に支援協力活動にあたる要員の為に、快適な宿泊設備、生活物資が用意されているとは限らない。むしろ多くの場合が、災害被災地であったり、生活物資の不足する場所での支援協力活動である。支援協力活動において任務を遂行するために、まず自分自身の安全の確保と生命の維持が確保されなければならないし、またチームワークも重要である。この演習では、協力協同の精神を涵養し災害場面を想定して自活生存、生命維持のための基本的な方法と共に、支援活動に必要な基本技術を修得できる。

【授業の展開計画】

この演習では、「海上訓練」と「陸上訓練」に分けて集中的に実施する。

「海上訓練」では短艇(カッター)を用いて協同協力の精神を養い、「陸上訓練」では実際にテントを設営し野営して自活生存方法を修得する。また「海上訓練」「陸上訓練」を通じてチームワークの重要性を学ぶ。実施の時期については、前もってオリエンテーションを開き説明指導する。ただしこの演習で、他の授業に支障(公欠で授業を欠席)がでないように、夏季休暇中の実施する。

「海上訓練」(9月上旬 4日間 長洲海洋センター/前面海域)

短艇(カッター)・帆走(ヨット)・結索(ロープワーク)・安全管理・気象観測・溺者救助・応急処置・信号通信・統率(指揮)法

「陸上訓練」(9月中旬 2泊3日 大学構内/蛇が谷公園)

オリエンテーリング(地図見・コンパス見方)・ロープ技術(ロープ渡り・降下等)・野営方法(テント設営・炊飯等)・安全管理・救急処置(傷病者搬送方法含む)・統率(指揮)法

※ 「海上訓練」・「陸上訓練」とも、学内において事前指導を行った後に実施する。

【履修上の注意事項】

演習に際しては、安全確保のために指定の作業着・帽子・作業靴を着用する。(作業着等については、貸与するが、食事代と作業服のクリーニング代は各自負担) 演習前に出された課題を完成させて授業に臨み、演習後は演習で学んだことを復習をすること。事前に配布された資料を学習しておき、演習終了後は各自で復習を定期的におこなうこと。

【評価方法】

実技試験(80%)、演習態度(20%)

【テキスト】

プリントを配布する

【参考文献】

なし

解剖生理学Ⅲ

担当教員 檜枝 洋記

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人体の臓器の構造と機能の背景にあるミクロな生命現象を理解する。
基礎医学と医療とのつながりを関連付けることができるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	細胞の構造と機能
2	代謝と生体エネルギー
3	酵素
4	細胞分裂と細胞周期
5	細胞輸送
6	細胞膜電位と神経の興奮
7	細胞情報伝達
8	中間試験
9	組織と器官
10	生体の恒常性
11	生体防御
12	生殖と発生
13	幹細胞と再生医療
14	遺伝と遺伝子
15	遺伝子改変技術

【履修上の注意事項】

高校生物の知識・理解に不安がある場合は、共通科目「生物学」の受講を強く勧める。
授業には積極的に参加すること。
質問はオフィスアワー以外でも受け付ける。

【評価方法】

中間試験50%、単位修得試験50%。
フィードバックとして、希望者には試験の得点を開示する。

【テキスト】

系統看護学講座「解剖生理学」、坂井建雄・岡田隆夫、2018年、医学書院

【参考文献】

適宜紹介する

生化学

担当教員 檜枝 洋記

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

生化学とは諸々の生命現象を化学的に解明する学問であり、薬理学や栄養学と密接に関連している。生体を構成する化学物質は多様であり最初は戸惑うであろうが、勉強しているうちに馴染めるものであるから落ち着いて取り組んでほしい。他人に解説できるくらいに理解すること。

【授業の展開計画】

- 1、始めに（元素間の結合様式等、原子一分子に関する基礎的なことについて）
- 2、生体構成成分の構造と機能（糖質の化学）
- 3、生体構成分子の構造と機能（糖質の化学）
- 4、生体構成分子の構造と機能（脂質の化学）
- 5、生体構成分子の構造と機能（脂質の化学）
- 6、生体構成分子の構造と機能（アミノ酸とタンパク質の化学）
- 7、生体構成分子の構造と機能（アミノ酸とタンパク質の化学）
- 8、生体構成分子の構造と機能（核酸の化学）
- 9、生体構成分子の構造と機能（核酸の化学）
- 10、生体構成分子の構造と機能（ビタミンの化学）
- 11、生体構成分子の構造と機能（ビタミンの化学）
- 12、代謝（エネルギー代謝、糖質代謝）
- 13、代謝（エネルギー代謝、糖質代謝）
- 14、代謝（脂質代謝、アミノ酸代謝、タンパク質代謝）
- 15、核酸とタンパク質の生合成、まとめ

【履修上の注意事項】

高校化学に自信がない場合は共通科目「化学」の履修を強く勧める。考えて理解すること。質問等、授業への積極的な参加を期待する。

【評価方法】

試験 100%

【テキスト】

『コンパクト生化学』 大久保 岩男、賀佐 伸省 著 南江堂

【参考文献】

わかりやすい生化学（第5版）（石黒伊三雄ら）（ヌーヴェルヒロカワ）

生体機能・形態演習

担当教員 徳富 芳子、上妻 尚子、緒方 浩志、落合 順子、北原 崇靖、齋藤 圭子、島村 美香、田中 康子、古江 佳織、古堅 裕章、未定

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 実験・実習

単位数 2

準備事項 実習着・実習靴着用、聴診器を持っている学生は持参すること。
テキストは各自、参考文献は各群ごとに1冊ずつは持参すること。

備考 122名を12群にする。A(11)B(10)C(10)D(10)E(10)F(10)G(10)H(10)I(10)J(10)K(10)L(11)

【授業のねらい】

1年次に学んだ人体の構造・形態（解剖学）と機能（生理学）を系統的に結びつけて学習し、病態を理解する上で必須の知識を修得する。人体模型の観察、学生同士で行う循環機能調節の測定、患者モデル装置を用いたフィジカルアセスメント演習、実験動物の解剖・生理学実験などを通して、身体の構造と機能の複雑な仕組みと、それらの個体としての統合性を実感し、考察する力を身につけ、科学的根拠に基づく看護実践の基盤とする。

【授業の展開計画】

上妻、古堅、古江、島村、緒方、北原、田中、齋藤：看護師として病院勤務経験
1年次の解剖生理学 I, II の内容をしっかり復習していることを前提に、授業を展開する。
毎回グループワーク形式で進める。
実験室、演習室や担当教員の詳細はオリエンテーション時に連絡する。
毎回全教員で 担当を分担する。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション／ヒト血圧・脈拍数の変動(負荷条件の検討)
2	ヒト血圧・脈拍数の変動(負荷条件の検討) A-F／人体の構造(標本学習：骨格、筋肉、内臓、神経) G-L
3	ヒト血圧・脈拍数の変動(負荷条件の検討) G-L／人体の構造(標本学習：骨格、筋肉、内臓、神経) A-F
4	心電図, SpO2 A-D／心臓・肺の聴診 E-H／心肺蘇生法(救急モデル・AED) I-L
5	心電図, SpO2 I-L／心臓・肺の聴診 A-D／心肺蘇生法(救急モデル・AED) E-H
6	心電図, SpO2 E-H／心臓・肺の聴診 I-L／心肺蘇生法(救急モデル・AED) A-D
7	動物実験倫理, 第8-14回の解説／ヒト血圧・脈拍数の負荷条件下での変動(体位・測定時間)
8	摘出腸管運動に対する自律神経作用薬の効果A-D／マウス解剖E-H／ヒト血圧・脈拍数の変動(負荷)I-L
9	摘出腸管運動に対する自律神経作用薬の効果I-L／マウス解剖A-D／ヒト血圧・脈拍数の変動(負荷)E-H
10	摘出腸管運動に対する自律神経作用薬の効果E-H／マウス解剖I-L／ヒト血圧・脈拍数の変動(負荷)A-D
11	麻酔ラットの血圧に対する自律神経系作用薬の効果と生体反射
12	フィジカルアセスメントモデル(Physiko) A-D／ヒト血圧・脈拍数の変動(データ解析・考察) E-L
13	フィジカルアセスメントモデル(Physiko) E-H／ヒト血圧・脈拍数の変動(データ解析・考察) A-D, I-L
14	フィジカルアセスメントモデル(Physiko) I-L／ヒト血圧・脈拍数の変動(データ解析・考察) A-H
15	グループ発表(負荷条件下での血圧・脈拍数変動結果とその機序について)

【履修上の注意事項】

- ・毎回事前に、実習書をよく読み教科書等で内容を予習し(約1時間)、各実験・演習の後は速やかにレポート作成を行う(約1時間)こと。各自が積極的、能動的に実験や演習に取り組むこと。
- ・携帯電話、上着、バッグ等の実習室への持込み、実験・演習中の撮影は不許可とする。
- ・動物実験に際して命の尊厳に鑑み厳粛な態度で臨むこと。
- ・実験・演習の進み具合により、正規時間内に終わらないこともある。

【評価方法】

- ・レポート内容(60%)、取組みの姿勢(40%：積極性、自主性)に基づき、「授業のねらい」に示した内容の達成度で評価する。(未提出のレポートがないことが評価の前提条件である。)
- ・レポート内容の不十分な箇所について、演習中あるいは実験後の解説の中でフィードバックする。(レポート(項目毎)の提出日は厳守のこと。レポートに不備がある場合は再提出を求める。)

【テキスト】

各教員が作成した実習書やプリント、ビデオ、CD、フィジカルアセスメントガイドブック(山内著 医学書院)。
筆記用具、記録ノート、テキストおよび関連授業で使用する下記の参考文献(教科書)を分担し持参する。

【参考文献】

- 1) 『系統看護学講座人体の構造と機能1 解剖生理学』医学書院
- 2) 『コメディカルのための薬理学』朝倉書店
- 3) 『系統看護学講座別巻 臨床検査』医学書院
- 4) 『看護のための臨床病態学』3版, 南山堂

医用工学

担当教員 徳富 芳子、羽手村 昌宏、肥合 康弘、荒木 不次男

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- I. 放射線を用いた診療の目的・内容・方法をよく理解し、医療従事者として適切な前処理や患者指導、介助を行うことで十分な診療情報が得られ、治療効果の向上に繋がる。その実践のため、放射線医学(画像診断、放射線治療、放射線被曝)の基礎・応用に関する知識を身につけ、放射線の臨床利用について説明できるようになる。
- II. 臨床検査の基礎知識と意義を学ぶ。患者の状態を正しく診断するうえで不可欠の手段となっている臨床検査の全体像と意義を総合的に理解するとともに、医療従事者の役割を正しく把握し、説明できるようになる。

【授業の展開計画】

[授業内容]

[授業担当者]

- I. 放射線と臨床利用 令和2年度(火 9:10-10:40予定)
 1. 放射線概論：放射線の特性、医療被曝、放射線防護を正しく理解する。 羽手村
また、放射線診療のあり方と実際の診療内容の知識を得る。
 2. 放射線画像：放射線画像の成立過程を理解し、いろいろな画像検査の目的と方法を習得する。 肥合
 3. 放射線画像検査：MRI検査と超音波検査の原理と特徴を理解し、実際の診療内容を知る。 肥合
 4. 放射線画像検査：CT検査の原理と特徴を理解し実際の診療内容を知る。また造影剤の特性も 羽手村
理解する。
 5. 核医学検査：放射性同位元素を用いた核医学検査の特徴を理解し、実際の診療内容を知る。 肥合
 6. 放射線治療学：悪性腫瘍の治療における放射線療法役割について理解し、放射線治療の原理 (メカニズム)と実際の照射技術や放射線治療の副作用、最新の放射線治療法に 荒木
ついて解説する。
 7. 放射線治療学：疾患ごとの放射線治療について解説する。 荒木
- II. 臨床検査 令和2年度(水 13:10-14:40予定)
(1年次 第1学期に学んだ解剖生理学の内容をしっかり復習していることを前提に授業を展開する。)
 8. 臨床検査総論：臨床検査の種類およびその役割と評価基準 徳富
 9. 臨床検査総論：臨床検査の流れと看護師の役割、検体採取、保存法、感染防止、 徳富
系統別臨床検査の進め方
 10. 臨床検査各論：一般検査 徳富
 11. 臨床検査各論：血液学的検査、化学検査 徳富
 12. 臨床検査各論：免疫・血清学的検査、内分泌学的検査 徳富
 13. 臨床検査各論：微生物学的検査、病理学的検査 徳富
 14. 生理機能検査：循環機能検査 徳富
 15. 生理機能検査：呼吸機能検査、神経機能検査 徳富

【履修上の注意事項】

- 1) 各回のテキスト該当箇所を予め熟読すること(1時間程度)。
- 2) 講義中に要点をノートに書き、その日の内に内容をしっかりと復習すること(1時間程度)。
- 3) 講義プリントはファイルし、専門用語・測定値の単位を正確に覚え理解すること。理解できない内容は質問すること。
- 4) 「放射線と臨床利用」には『臨床放射線医学』を、「臨床検査」には『臨床検査』の教科書を持参のこと。

【評価方法】

「授業のねらい」に示した内容の達成度を評価するため、学期末に筆記試験を行う。
放射線と臨床利用50%、臨床検査50%

【テキスト】

- 1) 『系統看護学講座別巻 臨床放射線医学 第9版』青木 他著、医学書院 2,420円
- 2) 『系統看護学講座別巻 臨床検査 第8版』奈良 他編、医学書院 2,420円
- 3) 教員作成プリント

【参考文献】

『臨床検査法提要』改訂版 金井 編著、金原出版
『系統看護学講座専門基礎分野 人体の構造と機能1 解剖生理学』坂井 他著、医学書院

病態生理学 I

担当教員 徳富 芳子

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

病態生理学は、疾病を正常機能の破綻や調節機能の異常の観点から原因解明し、病理学は、疾病の原因、機序、診断を明らかにする学問である。病態生理学 I では、解剖生理学で学んだ人体の正常な仕組みに関する知識に基づき、疾病の成り立ちを基本的な機序によって整理する。さらに、その結果引き起こされる組織や臓器の変化に関する正しい知識を身につけ、各種疾患における病態生理や臨床症状を理解するための基礎を総論的に学ぶ。専門用語を正しく理解し、臓器ごとの各種疾患の成り立ちを理解するための基礎を身につける。

【授業の展開計画】

解剖生理学の知識の修得が病態生理学の理解に欠かせない。1年次に学んだ解剖生理学の内容をしっかりと復習していることを前提に、授業を展開する。

週	授 業 の 内 容
1	病理学で学ぶこと、病気の原因（内因、外因）
2	細胞・組織の障害と修復
3	循環障害①：局所性
4	循環障害②：全身性
5	炎症
6	免疫と免疫不全
7	アレルギーと自己免疫疾患、移植と再生医療
8	感染症
9	代謝障害①：脂質代謝障害、タンパク質代謝障害
10	代謝障害②：糖代謝障害、そのほかの代謝障害
11	老化と死
12	先天異常と遺伝子異常
13	腫瘍①：腫瘍の定義と分類、悪性腫瘍の広がりと影響
14	腫瘍②：腫瘍の発生病理
15	腫瘍③：腫瘍の診断と治療、腫瘍の統計

【履修上の注意事項】

- 1) 各回のテキスト該当箇所を予め熟読すること（1時間程度）。
- 2) 講義中に要点をノートに書き、その日の内に内容をしっかりと復習すること（1時間程度）。
- 3) 講義プリントはファイルし、毎回、教科書、ノートと一緒に必ず持ってくる。
- 4) 専門用語は正確に覚え、その概念を正しく理解すること。理解できない内容は講義の前後に質問すること。

【評価方法】

筆記試験（100%）で、正常な状態から病態への移行と回復過程に関する基本的知識を正確に理解し、説明できるかを評価する。

【テキスト】

（系統看護学講座、専門基礎分野）疾病の成り立ちと回復の促進 [1] 「病理学」大橋健一ほか著、医学書院

【参考文献】

- 1) 新クイックマスター「病理学」堤寛監修、医学芸術社
- 2) 図解ワンポイントシリーズ3「病理学 疾病のなりたちと回復の促進」岡田英吉、医学芸術社

病態生理学Ⅱ

担当教員 大河原 進

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

臨床医学の各分野全般における各種疾患について、症候・病態・診断・治療に関する基礎知識と理論を学ぶ。本講義では各器官や臓器ごとに各疾患の特徴を知識として身につけ、疾患が成り立つ機序としての病理学的変化が臨床的症候と密接な関係にあることを理解し、知識として身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	呼吸器① 症候、検査と治療
2	呼吸器② 呼吸器感染症、アレルギー、慢性閉塞性疾患、間質性肺疾患、気道系疾患
3	呼吸器③ 腫瘍、肺循環疾患、換気異常、呼吸不全、胸膜疾患、縦隔疾患
4	循環器① 症候、検査と治療
5	循環器② 心不全、不整脈、心筋疾患
6	循環器③ 心臓弁膜症、先天性心疾患、高血圧症、動脈疾患、静脈疾患
7	消化管① 症候、検査と治療、食道の疾患
8	消化管② 胃・十二指腸の疾患、大腸の疾患、肛門の疾患
9	肝・胆・膵① 症候、検査と治療、肝臓疾患
10	肝・胆・膵② 胆道疾患、膵臓疾患
11	代謝・栄養 症候、検査と治療、糖尿病他の疾患
12	内分泌① 症候、検査と治療
13	内分泌② 視床下部・下垂体・甲状腺・副甲状腺・副腎の疾患
14	腎・泌尿器① 症候、検査と治療
15	腎・泌尿器② 腎疾患、泌尿器疾患、腎不全

【履修上の注意事項】

内容がかなり多いので、必ず教科書を予習してくる。復習も必ず行うこと。解剖と生理については、1年次の授業の復習をしておくこと。

【評価方法】

授業への積極性（5%）、筆記試験（95%）で総合的に評価する。60点以上を合格とする。

【テキスト】

「看護のための臨床病態学」編集：浅野嘉延、吉山直樹、南山堂

【参考文献】

1. （系統看護学講座、専門基礎分野）疾病の成り立ちと回復の促進 [2] 「病態生理学」医学書院
2. 「臨床病態学1、2、3」北村聖 総編集、NOUVELLE HIROKAWA

病態生理学Ⅲ

担当教員 大河原 進

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

病態生理学Ⅱに引き続き、臨床医学の各分野全般における各種疾患について、症候・病態・診断・治療に関する基礎知識と理論を学ぶ。病態生理学Ⅱと同様に、本講義では各器官や臓器ごとに各疾患の特徴を知識として身につけ、疾患が成り立つ機序としての病理学的変化が臨床的症候と密接な関係にあることを理解し、知識として身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	脳・神経① 症候、検査と治療
2	脳・神経② 脳血管障害、神経変性疾患、中枢神経系の脱髄性疾患
3	脳・神経③ 末梢神経等の疾患、筋疾患、感染症、機能的疾患、腫瘍
4	血液① 症候、検査と治療
5	血液② 赤血球の疾患、白血球の疾患、出血性疾患
6	膠原病・アレルギー① 症候、検査と治療
7	膠原病・アレルギー② 膠原病と関連疾患、アレルギー性疾患
8	運動器① 症候、検査と治療
9	運動器② 外傷、骨折、脱臼、捻挫
10	運動器③ 脊椎・脊髄の疾患、上肢・下肢の疾患、腫瘍、末梢神経麻痺
11	女性生殖器 月経困難症、子宮内膜症、腫瘍、更年期障害、不妊症
12	眼 症候、検査と治療、結膜炎、緑内障、白内障、糖尿病性網膜症
13	耳鼻咽喉 症候、検査と治療、中耳炎、めまい／難聴、副鼻腔炎、腫瘍
14	皮膚 症候、検査と治療、皮膚炎、色素性母斑、熱傷、褥瘡
15	精神 症候、検査と治療、統合失調症、うつ病、双極性障害

【履修上の注意事項】

内容がかなり多いので、必ず教科書を予習してくること。復習も必ず行うこと。解剖と生理については、1年次の授業の復習をしておくこと。

【評価方法】

授業への積極性（5%）、筆記試験（95%）で総合的に評価する。60点以上を合格とする。

【テキスト】

「看護のための臨床病態学」編集：浅野嘉延、吉山直樹、南山堂

【参考文献】

1. （系統看護学講座、専門基礎分野）疾病の成り立ちと回復の促進 [2] 「病態生理学」医学書院
2. 「臨床病態学1、2、3」北村聖 総編集、NOUVELLE HIROKAWA

看護技術 I

担当教員 柴田 恵子、上妻 尚子、古堅 裕章、古江 佳織、未定

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義・演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

看護技術の対象となる生活者の理解を通して、看護実践に必要な基礎的援助技術を学び、保健・医療・福祉専門職として相応しい高い知識と優れた技術を身につける必要性を知る。

【授業の展開計画】

上妻、古堅、古江：看護師として病院勤務経験。柴田：養護教諭として学校勤務経験。

詳細な計画および担当者については、第1回目の講義で説明する。

1～15は講義予定、16～30は演習予定である。演習はグループに分かれて行うので、2回続きの内容の場合はグループ毎に学習内容が異なる。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、コミュニケーション（柴田）	16	コミュニケーション（基礎担当者）
2	環境調整技術（柴田）	17	手洗い、ベッドメイキング（基礎担当者）
3	活動と休息援助技術（古堅）	18	体位変換、移送（基礎担当者）
4	排泄援助技術（古江）	19	排泄介助（基礎担当者）
5	食事援助技術（古堅）	20	食事介助（基礎担当者）
6	清潔援助技術（古江）	21	ベッドメイキング、記録の確認（基礎担当者）
7	感染予防の技術（上妻）	22	陰部ケア・口腔ケア（基礎担当者）
8	衣生活援助技術（古堅）	23	清拭（基礎担当者）
9	ヘルスアセスメント（上妻）	24	無菌操作・滅菌物の取り扱い（基礎担当者）
10	バイタルサイン（上妻）	25	臥床患者のリネン交換（基礎担当者）
11	安全確保の技術（上妻）	26	バイタルサイン（基礎担当者）
12	苦痛の緩和・安楽確保の技術（上妻）	27	褥瘡法、記録の確認（基礎担当者）
13	看護過程とは（柴田）	28	実技テスト（基礎担当者）
14	看護過程：看護記録（柴田）	29	洗髪（基礎担当者）
15	学習のまとめ、看護過程（柴田）	30	観察と報告：バイタルサイン（基礎担当者）

【履修上の注意事項】

講義、グループワーク、課題学習および発表、技術演習という学習方法によって学習を深める。第1回目のオリエンテーション時に「学習の進め方」で授業前・後の学習について説明をする。到達目標と自己評価を設定しているため、学習前後で確認する。また、事前・事後学習の課題はノート作成をすることで実施する。事前・事後学習

およびノート作成にかかる時間は60分から90分である。

【評価方法】

定期試験（筆記）：60%、学習態度・状況（小テスト、レポート提出、実技試験）：40%

フィードバックとして事前・事後課題および作成したノートは、演習前に返却し、コメント内容については演習時

あるいは演習後に確認する。

【テキスト】

①『基礎看護技術 I・II』有田清子他（医学書院）②『基礎・臨床看護技術』任和子他（医学書院）③『ナースがワークアップ』古橋洋子（文光堂）④『実践に役立つ看護過程と看護診断』三上れつ（ヌーヴェルビロリ）

【参考文献】

『イラストでわかる基礎看護技術』、『なぜ？がわかる・看護技術LESSON』、『臨床看護技術が10』、『考える基礎看護技術 I・II』、『ビジュアル看護技術・基礎看護技術』、『基礎看護学テキスト』、『看護技術プラクティス』

看護技術Ⅱ

担当教員 上妻 尚子、柴田 恵子、未定、古江 佳織、古堅 裕章

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義・演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

看護の対象者に、安全・安楽な看護援助を実践するための日常生活援助技術および診療の補助技術に関する基本的な知識および技術を理解できる。

【授業の展開計画】

上妻、古堅、古江：看護師として病院勤務経験 柴田：養護教諭として学校勤務経験

第1回目の講義で詳細な計画を説明する。第9回の講義時に小テストを行う。

16回から30回は演習を行う。演習は1クラスを2グループに分け、2つの演習項目を基礎看護実習室と424教室に分かれて実施する。演習は、各看護技術の実施方法のみならず実施前のアセスメントおよび実施後の評価についての学習を含む。看護過程の講義および演習は、別途詳細な授業計画の提示あり。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・フィジカルアセスメント（上妻）	16	フィジカルイグザミネーション（担当者全員）
2	創傷管理技術（上妻）	17	A:創傷管理技術 B:採血（担当者全員）
3	症状・生体機能管理技術-検体検査-（柴田）	18	A:採血 B:創傷管理技術（担当者全員）
4	食事の援助技術-経管栄養法など-（古堅）	19	A:演習記録 B:経管栄養（担当者全員）
5	排泄の援助技術（浣腸・導尿など）（柴田）	20	A:経管栄養 B:演習記録（担当者全員）
6	与薬の援助技術の基礎（上妻）	21	A:皮下注射 B:浣腸・排便（担当者全員）
7	与薬の援助技術の実際（古江）	22	A:浣腸・排便 B:皮下注射（担当者全員）
8	呼吸・循環を整える技術-酸素吸入-（上妻）	23	A:酸素 B:直腸内 筋肉注射（担当者全員）
9	呼吸・循環を整える技術-吸引など-（上妻）	24	A:直腸内 筋肉注射 B:酸素（担当者全員）
10	症状・生体情報モニタリングの技術（上妻）	25	A:口腔・気管内吸引 B:導尿（担当者全員）
11	診察・検査・処置の介助技術（上妻）	26	A:導尿 B:口腔・気管内吸引（担当者全員）
12	救命救急処置術（上妻）	27	フィジカルアセスメント（担当者全員）
13	死の看取りの技術（柴田）	28	実技試験（担当者全員）
14	看護過程 全体像の作成（柴田）	29	看護過程 計画立案（担当者全員）
15	看護過程まとめ 看護記録（柴田）	30	看護過程 計画の評価と修正（担当者全員）

【履修上の注意事項】

講義前はテキストを精読し、課題をする（90分）。講義後は配布資料を基に復習する（90分）。

演習前は、提示症例に対する援助計画を立案する（90分）演習後は、実施方法及びその評価を行う（90分）。

演習時は、実習要項に準じて身だしなみを整えて参加する。看護技術学習ガイドを活用する。

【評価方法】

定期試験：60%、実技試験・小テスト・学習態度（演習記録の提出を含む）：40%

フィードバックとして事前・事後課題およびノートは、演習開始前に返却し、コメント内容は演習時あるいは演習後に確認し、グループ内で共有する。小テストは終了後に解説する。

【テキスト】

- ①「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ」有田清子（医学書院）②「基礎・臨床看護技術」任和子（医学書院）
③「ナースング・ワークアップ」古橋洋子（文光堂）④「実践に役立つ看護過程と看護診断」三上れつ（ヌーヴェルボカリ）

【参考文献】

「看護技術がみえる①・②」メディックメディア、「写真でわかる基礎看護技術①・②」インターメディアカ、
「ビジュアル臨床看護技術」照林社、「看護技術プラクティス」学研 他

看護技術Ⅲ

担当教員 上妻 尚子、柴田 恵子、古江 佳織、古堅 裕章、未定

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義・演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1年次に履修した看護技術Ⅰ・Ⅱおよび解剖学・生理学での学びを基にして、フィジカルイグザミネーションの基本的な技術を理解できる。フィジカルイグザミネーションによって得られた情報を基にして、健康成人のフィジカルアセスメントを行うことができる。1年次に学習した看護過程の理解を深めることができる。

【授業の展開計画】

上妻、古堅、古江：看護師として病院勤務経験 柴田：養護教諭として学校勤務経験
第1回から3回までは1年次で学習した看護過程を振り返り、看護の思考過程の理解を深める。第4回以降はフィジカルイグザミネーションおよびアセスメントを学習する。演習は、二人一組で、お互いの身体機能の客観的情報を得る技法を習得する。第14・15回は、提示された症例に対してフィジカルイグザミネーションの活用やそれによって得た情報のアセスメントについてグループワークを通して学習し、全体発表によって学びを深める。

週	授 業 の 内 容
1	看護過程 情報収集とアセスメント (柴田)
2	看護過程 問題点の明確化と計画立案 (柴田・古堅・古江)
3	看護過程 実施と評価 (柴田・古堅・古江)
4	ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメントとは (上妻)
5	頭頸部のフィジカルイグザミネーション (上妻)
6	感覚器系のフィジカルイグザミネーション (上妻)
7	腹部のフィジカルイグザミネーション (上妻)
8	小テスト 筋・骨格系のフィジカルイグザミネーション (上妻)
9	神経系のフィジカルイグザミネーション (上妻)
10	演習：筋・骨格・神経系のフィジカルイグザミネーションの実際 (上妻・古堅・古江)
11	演習：腹部のフィジカルイグザミネーションの実際 (上妻・古堅・古江)
12	演習：頭頸部・感覚器系のフィジカルイグザミネーションの実際 (上妻・古堅・古江)
13	フィジカルイグザミネーションで得たデータをもとに健康成人のフィジカルアセスメント (上妻)
14	症例に対するフィジカルアセスメント グループワーク (上妻)
15	フィジカルアセスメントの全体発表 (上妻・古堅・古江)

【履修上の注意事項】

看護過程 事前学習 テキストおよび事例を精読する(90分)。事後学習 講義内容を復習し、理解を深める(90分)。

フィジカルイグザミネーション 事前学習 解剖生理学を復習する(90分)。事後学習 講義内容を解剖生理学と関連付けて復習する(90分)。演習は、3グループに分かれて行う。詳細は別途説明する。

【評価方法】

筆記試験(フィジカルアセスメント)50%、看護過程20%、小テスト・演習時の課題・グループワークおよび発表30% フィードバックとして、小テスト後は解説を行う。13回目の講義は演習内容を振り返りながら進める。

【テキスト】

①「基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ」有田清子(医学書院) ②「基礎・臨床看護技術」任和子(医学書院) ③「実践に役立つ看護過程と看護診断」三上れつ(ヌーヴェルボカワ) ④「フィジカルアセスメントが1ブック」山内豊明(医学書院)

【参考文献】

「診察と手技がみえる①・②」・「フィジカルアセスメントがみえる」メディックメディア、「写真でわかるフィジカルアセスメント」インターメディカ、「新人ナースひな子と学ぶフィジカルアセスメント」メディカ出版

基礎看護学実習

担当教員 柴田、上妻、落合、緒方浩、北原、齋藤、島村、田中、古江、古堅、古城、森口、未定

配当年次 1～2年

開講時期 (1年)2学期、(2年)通年

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 3

準備事項

備考 本科目は1年次第2学期から2年次第2学期までの開講科目

【授業のねらい】

日常生活援助を中心とした看護アセスメントに基づく看護ケア実践の必要性を理解する。基礎看護学実習の経験を通して、他職種との連携、協力の必要性を考え、対象者の個性を尊重した支援に必要な能力を得るための自身の課題を見出す。

【授業の展開計画】

上妻・緒方・北原・島村・古堅・森口・齋藤・田中・古江・福田：看護師として病院勤務経験。柴田：養護教諭として学校勤務経験

実習目標

1. 看護職者の専門性を認識する。
 - (1) 看護の提供の場について知る。
 - (2) 他職種との連携のあり方について知る。
2. 看護ケアの必要性を理解する。
 - (1) コミュニケーションを通して患者を理解する。
 - (2) 日常生活の援助を実践することで看護ケアの必要性を理解する。
 - (3) 看護ケア実践におけるアセスメントの必要性を理解する。
3. 基礎看護学実習で学んだことを振り返り、自己の課題を明らかにする。

* 詳細については「臨地実習要項 ー基礎看護学実習ー」で確認すること。

【履修上の注意事項】

1. 必ず出席すること。実習中の欠席・遅刻は原則として認められない。
2. 単位取得ができない場合は、翌年度に履修することとなる。
3. 学生が誓約した内容を遵守しなかった場合、複数の教員（担当教員および科目責任者）が協議をした上で実習を中止する場合がある。
4. 予習、復習の具体的内容はオリエンテーション時に指示する。実習記録等の学習時間は60分から90分である。

【評価方法】

基礎看護学実習Ⅰ(1年次)、Ⅱ(2年次)を総合的に評価する。
実習内容(学習・実践・記録)：60%、提出・健康管理・実習態度：40%
フィードバックとして、カンファレンス、実習中及び実習後に行動目標に沿って面談を行う

【テキスト】

その都度、紹介する。

【参考文献】

その都度、紹介する。

臨床看護学総論

担当教員 柴田 恵子、上妻 尚子、未定、古堅 裕章、古江 佳織

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 健康障害をもつ人および健康上のニーズをもつ人の看護について理解する。2. 健康障害の「経過」に焦点をあて、患者の理解と必要な看護を学習する。3. 主要な症状の治療・処置についての理解を深め、必要な看護を学習する。4. 臨床看護についての学びを総括し、保健・医療・福祉専門職として相応しい高い知識と優れた技術を身につけるための自己の課題を明らかにする。

【授業の展開計画】

上妻、古堅、古江：看護師として病院勤務経験。柴田：養護教諭として学校勤務経験。
第1回目のオリエンテーション時に、詳細な授業計画および本教科の履修について説明を行なう。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、健康上のニーズをもつ生活者と家族（柴田）
2	主要症状を示す患者の看護：痛み、呼吸障害（上妻）
3	主要症状を示す患者の看護：意識障害、グループワーク（上妻）
4	主要症状を示す患者の看護：循環障害（上妻）
5	主要症状を示す患者の看護：消化・排泄障害（上妻）
6	小テスト1、症状と看護について（上妻）
7	健康状態の経過に基づく看護（柴田）
8	治療・処置を受けている患者の看護：創傷処置、集中療法（柴田）
9	治療・処置を受けている患者の看護：輸液療法、化学療法（古江）
10	治療・処置を受けている患者の看護：放射線療法・手術療法（古堅）
11	看護過程：アセスメント（柴田）
12	小テスト2、看護過程：情報整理（柴田）
13	看護過程：これまでの学習のまとめとグループ発表（柴田）
14	看護過程：看護計画の立案（柴田）
15	まとめ：臨床看護学総論の学びの実践での活かし方（柴田）

【履修上の注意事項】

看護過程の学習は、同時期に開講される「看護技術Ⅱ」の授業計画に合わせて行われるので、両方の科目の計画を確認してください。第1回目のオリエンテーション時に授業計画を発表するので、必要な学習は事前に各自が行なってくる。課題は授業の予習でもあるので、必ずレポートを作成することで課題を実施する。小テストはそれまでの学習の復習を兼ねた事後学習である。課題学習、レポート作成に要する時間は60分である。

【評価方法】

筆記試験：60%、学習態度・状況（小テスト、レポート提出）：40%。
フィードバックとして小テストは問題を確認することで学習に役立て、レポートは返却する。

【テキスト】

系統看護学講座 臨床看護総論、香春知永 他（医学書院）

【参考文献】

随時、紹介する。

小児看護学 I

担当教員 二宮 球美、松岡 聖美、未定

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 子どもを取り巻く社会環境の変化について学び、説明することができる。
2. 多様化する子どもと家族の健康ニーズについて理解できる。
3. 健全な子どもの特性、および成長発達過程を理解できる。

【授業の展開計画】

こどもについて知り、未熟性を細胞学的に理解し、成長発達における内・外環境を踏まえ関係性の有用性を知り、対象に応じた自立を目指して、こどもの権利を守るケアとは何かを考えることを前提に授業を展開する。Basic scienceは使えることが前提です。

二宮球美 看護師として病院勤務経験を有する

松岡聖美 看護師として病院勤務経験を有する

週	授 業 の 内 容
1	小児看護学概論、小児とは、子どもの権利と家族、子ども虐待の理解ができる (二宮)
2	Physical Assessment が説明できる (松岡)
3	Physical Assessment が説明できる (松岡)
4	子どもを取り巻く社会、小児の観察、成長発達の一般原則と評価を理解できる (二宮)
5	小児に関わる理論を学び小児看護を学ぶ際に考えることができる (松岡)
6	子どもの遊びと行動 GW (二宮、松岡)
7	看護過程演習1事例の情報収集を体験する①事例のassessment (成長発達) (二宮、松岡)
8	看護過程演習1事例の情報収集を体験する②事例のassessment (現症)を体験する (二宮、松岡)
9	子どもの健康と保健を理解する (二宮)
10	技術演習①おむつ交換、着脱、抱っこの経験技術演習②栄養摂取離乳食の実際と与薬 (二宮、松岡)
11	健康レベルに応じたFamily Centered Care を理解する (二宮)
12	NICUから在宅へ 子どもの生活の視点から (鉾田、二宮)
13	運動機能障害の観察の視点、ハンディキャップのある子どもへのCareを理解できる (二宮)
14	運動機能障害の観察の視点、ハンディキャップのある子どもへのCareを理解できる (二宮)
15	Preparation課題学習をもとに、ディストラクションなどを理解する (二宮、松岡)

【履修上の注意事項】

1年次の専門科目medical scienceなどの知識及び他の看護学の学習との関連なども含めて講義を進めます。各個人に必要な事前学習は最低指定ページを読むこと (60~120分) 事前事後課題が提示される場合もある。副教材に関しては事前に渡すことを目標とする。小児看護学は既修専門及び共通科目と関連しているため、既修科目との統合をはかることも事前学習とする。小児看護実習、看護統合演習 I で、小児看護学の理論と実践の統合をはかることを前提に、事後の復習は科学的を根拠とする小児看護学として理解できるレベルを求める。

【評価方法】

単位取得資格:2/3以上の出席。 1. 定期試験 60%、小テスト20% 2. Report及び演習実施・Report及び事前事後課題 20%

【テキスト】

小児看護学①小児看護概論小児保健、小児看護学②健康障害を持つ小児の看護 編集松尾宣武、濱中嘉代 メヂカルフレンド社、ナーシンググラフィカ小児看護学②小児看護技術 編集中野綾美 メディカ出版

【参考文献】

「看護診断ハンドブック」 リンダ J・カルペニート=モイエ著 医学書院、小児看護技術編集今野美紀、二宮啓子、南江堂、こどもの病気の地図帳、監修鴨下重彦、柳澤正義、講談社 講義中に配布される印刷教材、DVD

小児看護学Ⅱ

担当教員 二宮 球美、松岡 聖美、田代 祐子

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 小児における主な疾患とその発達段階における特徴及びその疾患を持つ子どもの家族・社会的看護について学び説明できる
2. 子どもの権利を尊重し、健康の増進及び疾病の予防についての看護を学び説明できる

【授業の展開計画】

小児看護学Ⅰ及びBasic scienceをもとに、疾患を持つ患児及びその家族を小児看護の対象として、事例を通してながら細胞レベルまでいかに関わるかを考え、実施計画を立案できることを前提とした授業展開とする。

二宮球美 看護師として病院勤務経験を有する

松岡聖美 看護師として病院勤務経験を有する

田代祐子 看護師・専門看護師として病院勤務経験を有する

週	授 業 の 内 容
1	Orientation、染色体・先天代謝異常、新生児疾患とその看護を事例を通して理解できる(二宮)
2	呼吸器疾患、循環器疾患を持つ患児の事例を通して看護を理解できる①(松岡)
3	呼吸器疾患、循環器疾患を持つ患児の事例を通して看護を理解できる②(松岡)
4	看護過程演習 ①情報のassessment関連図 ②看護問題抽出が紙上でできる(二宮、松岡)
5	看護過程演習 ③看護問題から看護診断へ④看護計画が紙上でできる(二宮、松岡)
6	血液疾患を持つ患児の事例を通して看護を理解できる (二宮)
7	消化器疾患、腎疾患を持つ患児の事例を通して看護を理解できる①(二宮)
8	技術演習①ネブライザー吸入②持続点滴下での乳児の沐浴 の援助を体験する(二宮、松岡)
9	消化器疾患、腎疾患を持つ患児の事例を通して看護を理解できる②(二宮)
10	内分泌疾患、代謝異常疾患を持つ患児の事例を通して看護を理解できる③(二宮)
11	小児の救急とその看護、災害に遭遇した小児と家族の看護を事例を通して理解できる、他(二宮)
12	専門看護師小児看護特別講義 事例をもとに倫理を考える (田代、二宮)
13	脳神経、筋肉・骨疾患を持つ患児の看護を事例を通して理解できる(松岡)
14	膠原病・アレルギー疾患を持つ患児の看護を事例を通して理解できる①(二宮)
15	感染症、境界領域疾患を持つ患児の看護を事例を通して理解できる②(二宮)

【履修上の注意事項】

1年次の専門科目medical scienceなどの知識及び他の看護学の学習との関連なども含めて講義を進めます。各個人に必要な事前学習は最低指定ページを読むこと(60～120分)。指定された事前事後課題が課される時もある。副教材に関しては事前に渡すことを目標とする。小児看護学は既修専門及び共通科目と関連しているため、既修科目との統合をはかることも事前学習とする。小児看護学実習、看護統合演習Ⅰで、小児看護学の理論と実践の統合をはかることを前提に、事後の復習は科学的を根拠とする小児看護学として理解できるレベルを求める。

【評価方法】

単位取得資格:2/3以上の出席。 1. 定期試験 60%、小テスト20% 2. Report及び演習実施・Report、事前事後課題 20% 小テストやレポートに関しては適宜フィードバックする。

【テキスト】

小児看護学①小児看護学概論小児保健 小児看護学②健康障害を持つ小児の看護 編集 松尾宣武、濱中嘉代
メディカルフレンド社、ナースンググラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 編者 中野綾美 メディカ出版

【参考文献】

監修 川野雅資 編集 中村伸枝、PILAR、小児疾患診療のための病態生理 1・2、第4版東京医学社、小児内科増刊、城ヶ端初子監修、実践に生かす看護倫理、他解剖生理学生化学等、新生児・小児疾患中山書店

小児看護学実習

担当教員 二宮 球美、デッカー 清美、松岡 聖美、未定

配当年次 3年

開講時期 1・2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- I 子どもの権利を尊重し対象である子どもとその家族の健康問題を学び理解することができる。健康な子どものセルフケア能力をアセスメントし支援を考え、社会における小児看護職の役割を考察する。
- II 小児看護学の統合の場と位置付けられ、Critical Thinking, Communication, Assessment, Technincal skillsを習得し、実習をとおり問題解決能力を高めることができる。

【授業の展開計画】

二宮球美 看護師として勤務経験を有する
 デッカー清美 看護師・助産師として勤務経験を有する
 松岡聖美 看護師として勤務経験を有する

【小児看護学実習Ⅰ：保育所・園および小児看護学実習Ⅱ：病院、施設】

1. 実習期間：小児看護学Ⅰ（2日間）、小児看護学Ⅱ（8日間）
2. 実習場所：玉名・熊本市内の保育所・園および熊本県内の病院、重症心身障害児施設
3. 実習内容
 - 1) 小児看護学実習Ⅰ
 - ①健康な子どもの成長発達過程を理解し子どもの個別性、性差を理解することができる。
 - ②成長発達に応じたcommunicationをはかり、こどもと人間関係を構築し、成長発達する過程で学習する集団保育・幼児教育に参加できる。
 - ③子どもにとっての遊びの重要性を理解し、成長発達を促すかわりができ、個・集団の違いを理解しかかわることができる。
 - ④看護専門職としての視点で成長発達段階に応じた事故防止感染防止活動の援助ができ、学生の自己課題の明確化と継続的な学習能力を身につけることができる。
 - 2) 小児看護学実習Ⅱ
 - ①ライフサイクルの中での小児期を理解し、成長を促すためのcareを考えることができ成長発達、健康の状態に応じた看護を理解できる。
 - ②小児の医療に必要な意義、方法を理解しfamily centered careを理解できる。
 - ③対象に応じたcommunication 技能と対人関係能力を学び、地域・医療・保健・福祉・教育との連携を理解し小児看護の役割の独自性を考察することができる。
 - ④子どもとその家族に必要な社会的資源・福祉サービスを理解することができる。
 - ⑤自己課題の明確化し説明できる。

【履修上の注意事項】

1. 実習要項を熟読し、事前学習(知識・技術など)を行って、実習で小児看護の対象者へ看護を展開できるような状態にして実習に臨むこと(事前課題を段階的に提示する各3時間程度)
2. 必ず出席すること、実習中の欠席・遅刻・早退、それに準ずるものは原則として認めない
3. 学生が誓約した内容を遵守(大学との契約、臨地との契約など)
4. 単位修得ができない場合は、翌年度に履修することになる。
5. 事後学習でライフステージにおける小児看護学と実践の統合をすること。進捗状況に応じたフィードバックを行う。必要に応じて面談実施。

【評価方法】

単位取得資格条件：2/3以上の出席

1. 実習態度：50%（準備性、実施状況、個別性、応用性、修正の度合いなど）
 2. 実習記録とカンファレンス：50%（具体性、個別性、独自性、安全・安楽への取り組みなど）
- ※実習要項に示した自己評価と指導者および教員による評価を総合して、会議後評価判定する。

【テキスト】

「看護学実践 小児看護学」編集 中村伸枝 PILAR PRESS、「看護診断ハンドブック」リンダ J・カルペニート＝モイエ著 医学書院、その他看護に関連した共通科目・専門科目で用いたテキスト全て HPup資料も含む

【参考文献】

- ・『小児看護』2000.8ークリニカル・サインのチェックポイントー。へるす出版・medical science関連教科書
- ・小児看護学の教科書・参考書・授業中使用の印刷教材・資料、HP資料 など全て

成人看護学 I

担当教員 杉野 由起子、福島 和代

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

成人看護学においては、成人期にある人およびその生活を理解し、健康の維持増進、疾病予防、疾病からの回復、ターミナル期の援助について学ぶ。成人看護学 I は、まず成人期の人の特徴、看護を展開するために必要な概念を理解して、急性期から慢性期にある人、ターミナル期にある人とその家族、手術を受ける人とその家族の健康問題と看護を学ぶ。さらに、生命維持の要である循環・呼吸機能に障害を持つ患者の看護を学ぶ。学修者は成人の特徴、ケアに必要な概念を理解し、各コマで講義する看護について説明できるようになる。

【授業の展開計画】

福島：看護師として病院勤務経験

杉野：看護師として病院勤務経験

下記展開で変更が生じた場合は、学生に変更計画を提示する。

回数	月日	時間	担当	内容
1回	4/10 (金)	5限	(福島)	: オリエンテーション・成人期にある人の理解と看護 ①成長発達の特徴 ②生活と健康観
2回	4/17 (金)	5限	(福島)	: 成人期にある人の理解と看護 ③成人の学習の特徴 ④健康障害と看護
3回	4/24 (金)	5限	(福島)	: 看護に有用な概念 ①ストレス・危機 他
4回	5/1 (金)	5限	(福島)	: 看護に有用な概念 ②セルフケア、自己効力 他
5回	5/8 (金)	5限	(福島)	: がんに罹患した患者と家族の看護
6回	5/15 (金)	5限	(杉野)	: 周手術期にある患者・家族の看護/手術前・中・後の看護の役割
7回	5/22 (金)	5限	(杉野)	: 全身麻酔・局所麻酔を受ける患者の看護/手術侵襲と生体反応
8回	5/29 (金)	5限	(杉野)	: 手術療法を受ける患者の看護過程/手術前・後の観察と評価
9回	6/5 (金)	5限	(杉野)	: 急性重症患者と家族の看護/生命の危機的状況にある対象の理解
10回	6/12 (金)	5限	(杉野)	: 呼吸器機能障害をもつ患者・家族の看護①肺がんの外科治療・術後看護過程
11回	6/19 (金)	5限	(杉野)	: 呼吸器機能障害をもつ患者・家族の看護 ②肺炎/気管支喘息患者の看護/教育
12回	6/26 (金)	5限	(杉野)	: 呼吸器機能障害をもつ患者・家族の看護 ③COPD急性増悪時の看護/患者教育
13回	7/3 (金)	5限	(杉野)	: 循環器障害をもつ患者・家族の看護 ①虚血性心疾患発生と看護過程
14回	7/10 (金)	5限	(杉野)	: 循環器障害をもつ患者・家族の看護 ②心不全発生と看護過程
15回	7/17 (金)	5限	(杉野)	: 循環器障害をもつ患者・家族の看護 ③カテーテル治療を受ける患者の看護

【履修上の注意事項】

成人看護学の学習内容は広範囲であり、解剖生理学・病態生理学と治療、基礎看護学等の知識が基盤となる。よってそれらの内容を教科書で十分に予習して授業に臨むことが必須である(90分)。また、毎回の授業後には復習をし(90分)、丸暗記ではなく内容を理解し、曖昧な点は積極的に質問して解決しておく。学習内容は3年次の成人看護学実習と直結している。患者の看護は、自分のことばで説明できるように理解しておかなければ実践できない。質の高い看護を実践できる能力を身に着けるために主体的な学習姿勢を望む。

【評価方法】

定期試験で(100%)評価する

【テキスト】

1. ナーシング・グラフィカ「成人看護学概論」メディカ出版
2. 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学【2】～【14】医学書院
3. 別巻 臨床外科看護総論 医学書院

【参考文献】

1. ナーシンググラフィカ「セルフマネジメント」「健康危機状況」「周手術期看護」メディカ出版、2. 「慢性期看護論」ヌーヴェルヒロカリ、
3. 「周手術期看護論」ヌーヴェルヒロカリ 4. がん看護 医学書院 5. 実践に役立つ看護過程と看護診断第2版 ヌーヴェルヒロカリ

成人看護学Ⅱ

担当教員 川本 起久子、福島 和代、杉野 由起子、島村 美香、齊藤 圭子

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 3

準備事項

備考

【授業のねらい】

成人の多様な健康障害とその看護を学び、看護実践に必要な基礎知識を獲得できる。健康障害をもつ成人患者の事例を通して具体的に看護過程の展開を理解できる。

【授業の展開計画】

川本・福島・杉野・島村・齊藤：看護師として病院勤務経験

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	脳神経系に障害のある患者の理解 川本	16	腎不全患者の看護 川本
2	脳神経系に障害のある患者の看護 川本	17	肝機能に障害のある患者の理解 福島
3	造血機能に障害のある患者の理解 福島	18	肝機能に障害のある患者の看護 福島
4	造血機能に障害のある患者の看護 福島	19	肝機能に障害のある患者の看護 福島
5	胃がん患者の看護 川本	20	点滴治療を受ける患者の看護 島村
6	大腸がん患者の看護 川本	21	循環器疾患患者事例の理解 杉野
7	免疫機能に障害のある患者の理解 福島	22	看護過程① 杉野
8	免疫機能に障害のある患者の看護 福島	23	看護過程② 杉野
9	運動機能に障害のある患者の理解 齊藤	24	
10	運動機能に障害のある患者の看護 齊藤	25	
11	乳がん患者の看護 川本	26	
12	子宮がん患者の看護 川本	27	
13	糖尿病を持つ患者の看護 川本	28	
14	糖尿病を持つ患者の看護 川本	29	
15	腎不全患者の看護 川本	30	

【履修上の注意事項】

成人看護学Ⅰ・Ⅱは、成人看護学実習Ⅰ・Ⅱと直結した学習内容である。臨地実習は、看護の対象者と直接かわりを持ち実践行動を展開することで、理論と実践の結びつきを理解する重要な場面である。健康障害をもつ受け持ち患者様の回復過程を促進する看護を提供する前提は基礎的な知識と技術を身につけていることである。事前に教科書で各器の構造と機能を予習して望むこと(90分)、授業後は配布資料や教科書で復習をすること(90分)。

【評価方法】

評価基準は「試験 100%」で60点以上を合格とする。

【テキスト】

1. 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学【2】～【14】医学書院 2. 系統看護学講座別巻1 臨床外科看護総論 医学書院 3. 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版

【参考文献】

適時紹介する。

成人看護学Ⅲ

担当教員 島村 美香、山本 みゆき

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

成人看護学Ⅲでは、生命をかす疾患による問題に直面している患者とその家族が、尊厳をもち個人の特性に応じた人生を送ることができるための理論と方法を学ぶ。学修者は、まずは緩和ケアの概念と現状について理解する。その上で、患者・家族が抱く全人的痛みの考え方を理解し、その特徴とアプローチについて説明できるようになる。その中で、意思決定支援について知り、その重要性を説明できるようになる。また、学修者は授業をとおして自己の死生観について自分の言葉で説明できるようになることを目指す。

【授業の展開計画】

島村美香：看護師として病院勤務経験
山本トースネスみゆき：看護師として病院勤務経験

1. 緩和ケアの概念と現状について 島村
2. スピリチュアリティとはなにかー看護師自身の傾向を知るー（グループワーク含む） 山本・島村
3. スピリチュアルペインを理解する（グループワーク含む） 山本・島村
4. スピリチュアルケアの実践について（グループワーク含む） 山本・島村
5. 緩和ケアにおける患者の意思決定支援 島村
6. 人生の最終段階にある患者の疼痛のアセスメント・コントロール方法と苦痛緩和のためのケア 島村
7. 人生の最終段階にある患者の身体的・精神的・社会的ケアについて 島村
8. まとめ：授業と緩和ケアに関するビデオ鑑賞後をとおして、人生の最終段階にある患者向き合い方について考える 島村

【履修上の注意事項】

緩和ケアスペシャリスト・緩和ケア教育のコーディネータ、ホスピスケアの啓蒙、教育に携わり、現在ヒーラーとして国内だけでなく海外でも活躍中の山本みゆき氏を非常勤講師として3コマ依頼している。アメリカ・テキサス州在宅ホスピスナースなど多彩な実践を通しての話をよく聞いて看護に生かして頂きたい。事前学習：授業内容の教科書項目を熟読して授業に望むこと（30分）。また、授業の振り返りや関連する書籍を読んで理解を深めること（30分）。

【評価方法】

課題レポート(80%)、小テスト(10%)、授業態度(10%)で評価を実施する。レポート課題は授業最終日のビデオ鑑賞をふまえて提出する。レポートは返却する。

【テキスト】

系統看護学講座 別巻「緩和ケア」医学書院

【参考文献】

授業の中で提示する。

成人看護学実習 I

担当教員 福島 和代、川本 起久子、杉野 由起子、齊藤 圭子、島村 美香

配当年次 3年

開講時期 1・2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 3

準備事項

備考

【授業のねらい】

成人期にある患者とその家族のもつ健康問題を全人的に理解し健康の段階に応じた最良の状態を生み出すための看護を学ぶ。看護過程の展開を通して根拠に基づいた看護の実践ができる基礎能力と、人間の尊厳および人権の擁護の重要性を理解し看護者として倫理的に判断し行動できる基礎能力を養う。

実習 I は周手術期を通して健康状態が急激に変化する患者とその家族のもつ健康問題を総合的に理解し、受け持ち患者に対して看護過程の展開ができるようになる。

【授業の展開計画】

福島、川本、杉野、島村、齊藤：看護師として病院勤務経験

1. 病態、検査、治療、経過、発達課題について患者状態を把握し、患者の病態、治療、手術後に予測される問題について理解を深める。
2. 患者情報を系統的に収集し手術が患者の心身にどのような影響を及ぼすかを予測して健康問題を明確化し看護計画を立案する。最善の状態です術が受けられるように準備を整える。
3. 手術後の危機状態にある患者に対して、生命の維持、安全・安楽の確保、精神的支援のための看護を計画立案できる。
4. 回復期における患者の状態を理解し、早期離床、セルフケアに必要な看護を実践する。
5. 退院後の生活を予測して残存機能を最大限に活用した自立への援助と家族を含めた指導を行う。
6. 周手術期の各段階において、患者が治療や健康の回復に向けて主体的に取り組めるような看護過程が展開できたか評価する。
7. 看護者としての倫理的配慮ができ、医療チームの一員としての自己の役割を自覚した行動がとれる。

< 臨地実習計画 >

1週目の主な学習内容	コミュニケーション 情報収集 アセスメント 看護問題 計画の明確化
2週目の主な学習内容	看護介入 評価 計画の修正・追加 評価
3週目の主な学習内容	看護過程の評価

【履修上の注意事項】

実習直前のグループ別オリエンテーションに必ず参加する。

実習病棟の特色を知り、疾患・検査・治療・看護について事前学習を行ったうえで実習に臨む(90分以上)。

実習後は看護の振り返りを行い、指導を受けた内容についてケアの意味づけを行い、自己の課題を明確にして対応策を考える(90分)。

体調管理を行い、流行性疾患に罹患しないよう注意する。

【評価方法】

評価は、実習評価表に基づき、「受け持ち患者の看護過程の展開と実習記録 80%、チームの一員としての行動 20%」とし、60点以上を合格とする。

フィードバックとして、必要に応じて面接を行う。

【テキスト】

系統看護学講座 成人看護学【2】～【14】医学書院. 系統看護学講座別巻1 臨床外科看護総論 医学書院の教科書および講義資料。

【参考文献】

看護過程と看護診断 NOUERU HIROKAWA. 周手術期看護論 NOUERU HIROKAWA. 周手術期看護学習ワークブック メジカルフレンド社. 病気がみえる MEDIC MEDIA. 看護師・看護学生のためのレビューブック MEDIC MEDIA.

成人看護学実習Ⅱ

担当教員 福島 和代、川本 起久子、杉野 由起子、齊藤 圭子、島村 美香

配当年次 3年

開講時期 1・2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 3

準備事項

備考

【授業のねらい】

成人期にある患者とその家族のもつ健康問題を全人的に理解し、健康の段階に応じた最良の状態を生み出すための看護を学ぶ。看護過程の展開を通して根拠に基づいた看護の実践ができる基礎能力と、人間の尊厳および人権の擁護の重要性を理解し看護者として倫理的に判断し、行動できる基礎能力を養う。

成人看護実習Ⅱでは、慢性の疾患を有する患者とその家族のもつ健康問題を総合的に理解し、受け持ち患者と家族が主体的に病気を管理し、生活の再調整ができるような看護過程が展開できるようになる。

【授業の展開計画】

福島、川本、杉野、島村、齊藤：看護師として病院勤務経験

1. 慢性の疾患は主に生活習慣との関係から徐々に健康を障害していく。生活習慣は環境(自然・社会・文化)の影響を強く受けている。慢性の疾患を有する患者の病態を環境との相互作用の観点から理解する。疾患の診断・治療に必要な検査の目的・意義を理解し、看護の役割を学ぶ。
2. 患者情報を系統的に収集し慢性の疾患を有する患者の健康障害の程度やセルフケア能力をアセスメントし看護問題を明確化する。
3. 患者と家族の強み(主体的に病気を管理できるようなポジティブな面)を生かした看護計画を立案する。
4. 患者の安全と治療的環境を維持し、立案した計画に基づいて、家族にも配慮しながら看護を実践する。
5. 退院後の生活を予測して在宅療養に必要なリハビリテーションを理解できる。また社会生活に適応するために患者が主体的に自己管理できるよう家族を含めた援助を行う。
6. 慢性の疾患を有する患者が主体的に病気を管理できるような看護過程が展開できたか評価できる。
7. 看護者としての倫理的配慮ができ、医療チームの一員として自己の役割を自覚した行動がとれる。

< 臨地実習計画 >

1週目の主な学習内容	コミュニケーション 情報収集 アセスメント 看護問題 計画の明確化
2週目の主な学習内容	看護介入 評価 計画の修正・追加 評価
3週目の主な学習内容	看護過程の評価

【履修上の注意事項】

実習直前のグループ別オリエンテーションに必ず参加する。

実習病棟の特色を知り、疾患・検査・治療・看護について事前学習を行ったうえで実習に臨む(90分以上)。

実習後は看護の振り返りを行い、指導を受けた看護の意味づけを行い、自己課題を明確にして対応策を考える(90分)。

体調管理を行い、流行性疾患に罹患しないよう注意する。

【評価方法】

評価は、評価表に基づき「受け持ち患者の看護過程の展開と実習記録 80%、チームの一員としての行動 20%」とし、60点以上を合格とする。

フィードバックとして、必要に応じて面接を行う。

【テキスト】

系統別看護学講座 成人看護学【2】～【14】医学書院. 糖尿病食品交換表 第7版 の教科書及び講義資料。

【参考文献】

看護過程と看護診断 NOUVELLE HIROKAWA. 看護師・看護学生のためのビューブックMEDIC MEDIA. 病気がみえるMEDIC MEDIA. 慢性期看護論 NOUVELLE HIROKAWA. 患者教育のポイント 医学書院. がん看護 医学書院

老年看護学 I

担当教員 生野 繁子、山本 恵子、北原 崇靖、志垣 留美、十時 彩

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. ライフサイクルの中で老年者をとらえ、老年者の特徴とその健康生活について理解できる。
2. 保健医療福祉制度の変化と、高齢者を介護する家族の現状について理解できる。
3. 高齢者ケア提供の場と、ケア提供に係る専門職の役割について理解できる。
4. 高齢者の尊厳や人権を守り、高齢期のQOL向上の視点の重要性を理解できる。
5. 少子高齢・人口減少社会の我が国における老年看護の課題について理解できる。

【授業の展開計画】

生野 看護師として病院勤務経験
 山本 看護師・保健師として病院勤務経験
 北原 看護師として病院勤務経験
 十時 歯科衛生士として病院勤務経験
 志垣 歯科衛生士として病院勤務経験

週	授 業 の 内 容	
1	導入・講義概要の説明・老年看護学の成り立ち（高齢者インタビュー課題の説明含む）	生野
2	高齢者の尊厳・高齢社会の変遷と高齢者の現状	生野
3	高齢者の保健医療福祉制度の変遷と世界の高齢化の現状	生野
4	高齢者の理解①老化の考え方・老化の特徴・感覚器の老化	生野
5	②運動器・筋・骨格の老化	山本
6	③循環器・呼吸器・消化器等の老化	生野
7	④精神・心理・社会的側面の老化	生野
8	⑤口腔・歯牙の老化とケア	十時・志垣・生野・山本・北原
9	介護保険制度の理解①理念・保険者・被保険者・認定	生野
10	②サービスの種類と看護師の役割	生野
11	③地域包括ケアと制度の今後	生野
12	高齢者ケアの場と協働 病院・施設・在宅の連続性と多職種協働	生野
13	高齢者ケアの問題点 一人暮らしの増加・老々介護・高齢者虐待・家族支援	生野
14	高齢者の晩年の意思決定支援・望まれる終末期ケアの在り方	北原
15	高齢者のフィジカルアセスメントとインタビューレポートについて・まとめ	生野

【履修上の注意事項】

- ・ 3年次臨地実習である老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ、および看護統合実習の先修科目である。
- ・ 第1回講義時に高齢者インタビューとアセスメントの視点を説明するので、具体的な高齢者をイメージして講義に臨むこと。この個別評価を10点分定期試験に加味し、全体講評を講義時に実施する。
- ・ 家族が住む自治体の介護保険等のパンフレットを入手し熟読(約30分)しておくこと。
- ・ 講義時に数回ミニテスト(学習用・評価には加味しない)を実施する。必ず復習(約30分)しておくこと。

【評価方法】

期末定期試験90%、課題レポート10%(全体総括は15回目講義で説明する)の割合で評価する。

【テキスト】

1. 新体系看護学全書「老年看護学概論・老年保健」メヂカルフレンド社
2. 「国民衛生の動向」厚生労働統計協会（1年次購入済み）

【参考文献】

1. 新体系看護学全書「老年看護技術」メヂカルフレンド社
2. 「高齢者の健康と障害」堀内ふき編メディカ出版
3. 系統看護学講座専門19「老年看護学」医学書院

老年看護学Ⅱ

担当教員 山本 恵子、生野 繁子、北原 崇靖

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

高齢者に多くみられる症状・疾患の特徴を理解し、健康課題を見出すためのアセスメントができる。また、高齢者における手術療法、薬物療法など治療上の注意点とケアが理解できる。さらに認知症の症状や終末期・看取りのケアについて説明ができる。

【授業の展開計画】

山本：看護師および保健師として病院勤務経験
 生野：看護師として病院勤務経験
 北原：看護師として病院勤務経験

週	授 業 の 内 容
1	高齢者の疾患の特徴：予備力低下、個別性など(山本)
2	高齢者の入院・検査：入院経路、検査時の注意など(山本)
3	高齢者の手術・退院：低体温・熱中症、掻痒、シームレスケアなど(山本)
4	高齢者の薬物療法：多剤併用、代謝低下、管理(山本)
5	高齢者に多い疾患：白内障、前立腺肥大症、誤嚥性肺炎など(北原)
6	高齢者に多い疾患：骨粗鬆症、大腿骨頸部骨折など(山本)
7	症状アセスメント：低栄養、浮腫、電解質代謝異常など(生野)
8	症状アセスメント：不眠、失禁、便秘、難聴(山本)
9	意思決定支援(北原)
10	演習：高齢者へのインタビュー(山本、生野、北原 他)
11	演習：高齢者のヘルスアセスメント：アセスメント(山本)
12	高齢者のヘルスアセスメント：対象理解に向けた高齢者のアセスメント(山本)
13	終末期のケア：エンド オブ ライフケア(生野)
14	認知症とは：医学的視点での理解(山本)
15	認知症の看護：認知症ケア(山本)

【履修上の注意事項】

- ・講義中の私語が多い場合は、座席指定とします。チャイムが鳴り終わるまでに着席してください。
- ・演習も入れながら講義を行います。必要物品は事前に連絡します。
- ・出席は、毎回のレポートがなければ携帯登録があっても無効です。
- ・事前学習：老年看護学Ⅰを十分に復習すること。授業展開を参考に教科書を熟読し受講して下さい(30分)。
- ・事後学習：毎回、講義後は各自復習し理解を深めましょう(60分)。毎回、前回の復習問題もします。

【評価方法】

演習：10% 試験：90% フィードバックとして演習内容の解説を講義で行い、レポートは返却します。毎回のレポートについては、講義の冒頭にコメントを返します。

【テキスト】

『ナーシング・グラフィカ 老年看護学(2) 高齢者看護の実践』. 堀内ふき他. MCメディカ出版. 2018

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する

老年看護学実習 I

担当教員 生野 繁子、山本 恵子、北原 崇靖

配当年次 3年

開講時期 1・2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

実習目的 介護老人保健施設における医療・機能訓練・看護が必要な利用者への理解を深め、健康課題に対するケアの在りかたを学ぶ。

実習目標 実習要項を参照すること

【授業の展開計画】

生野・北原 看護師として病院勤務経験

山本 看護師・保健師として病院勤務経験

介護老人保健施設における実習2週間を設定している。詳細は実習要項を参照すること。

施設 :実習施設一覧を参照すること

実習配置:6~7施設に3~4名ずつ配置する。

2週間の実習スケジュールは実習要項に記載している。

【履修上の注意事項】

1. 実習要項を熟読し、準備段階から主体的かつ積極的に学ぶこと。
2. 実習要項に記載している事前学習(60~120分)を十分に実施しておくこと。
3. 健康には特段の注意をして、実習に臨むこと。
4. 臨地において当日の実習計画(約30分)がないものは実習できない。
5. 実習終了後には、復習(約30分)として老年看護学領域の国家試験過去問題を解いてみる。

【評価方法】

実習評価表に基づき、老年期の特徴理解(10%)、アセスメント(30%)、社会復帰の理解(5%)、ケアサービスの理解(30%)、職業倫理(25%)の割合で評価する。学生の自己評価についても面談で確認する。

【テキスト】

老年看護学 I・II で使用したもの

【参考文献】

1. 老年看護学 I・II の参考文献
2. 基礎看護学のテキスト
3. 成人看護学のテキスト
4. 病態生理学 I・II・III のテキストなど

老年看護学実習Ⅱ

担当教員 山本 恵子、生野 繁子、北原 崇靖

配当年次 3年

開講時期 1・2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 実習目的 介護老人福祉施設におけるケアサービスを通して、施設の利用者への理解を深め、健康課題に対するケアのあり方を学ぶことができる。
- 実習目標 高齢者とのコミュニケーションを図ることができる。施設利用者の家族状況が理解できる。
高齢者の健康課題をアセスメントし、必要なケアを安全に実施することができる。
高齢者へのケアサービスを理解し、実践することができる(詳細は臨地実習要項参照)

【授業の展開計画】

- 山本：看護師・保健師として病院勤務
生野：看護師として病院勤務
北原：看護師として病院勤務

介護老人福祉施設における臨地実習2週間を設定している。詳細は臨地実習要項参照。

実習配置:実習クール毎に、各施設に2～6名ずつ学生を配置し実習を行う。

- 進め方 : 1週目の月 …学内オリエンテーション、
入所または通所でのケアの理解、多職種のケア経験、受け持ち利用者の決定
1週目の火水木 …受け持ち利用者の情報収集、ケアなど
1週目の金 …学内で施設ケア理解の確認、利用者アセスメント、個別指導
2週目の月～木 …受け持ち利用者のケア
2週目の金 …他の施設での学びを共有、学びの確認、個別面接

【履修上の注意事項】

- 健康には特段の注意をして、実習に臨むこと。
- 高齢者に対する尊厳および臨地実習要項に記載してある実習上の注意などを熟読し主体的かつ積極的に実習に臨むこと。
- 事前学習：臨地実習要項の項目および看護技術など実習に必要な関連科目の復習し実習に臨む(30分)
- 事後学習：実習での学びを各自振り返り、自身の課題を整理し次の実習につなげる(60分)

【評価方法】

臨地実習要項に掲載している実習評価表に基づいて、コミュニケーション20%、高齢者アセスメント35%、ケアサービス25%、職業倫理20%で評価する。実習期間中に口頭および実習記録にコメントを返します。

【テキスト】

老年看護学Ⅰ・Ⅱと同様。

【参考文献】

- 老年看護学Ⅰ・Ⅱの講義において配布した資料および参考文献
- その他既習のテキスト

精神看護学 I

担当教員 上田 智之、緒方 浩志、川原 一洋

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 精神（こころ）の健康の概念やライフサイクルにおける危機的状況が理解できる。
2. 精神保健医療の歴史を学習し精神看護における基本的人権と倫理が理解できる。
3. 精神医療における治療の意味を看護の視点から捉え、精神症状と治療および看護について理解できる。
4. 地域精神保健における社会資源と看護師の役割を理解できる。

【授業の展開計画】

＜実務経験のある教員＞

上田智之・緒方浩志：看護師として精神科勤務経験

川原一洋：精神科医として病院勤務経験

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・こころの健康とは【精神保健・精神看護学】（上田、緒方）
2	精神保健医療福祉の歴史①【世界における精神医療の歴史と看護】（上田、緒方）
3	精神保健医療福祉の歴史②【日本における精神医療の歴史と看護】（上田、緒方）
4	精神保健医療福祉の歴史③【精神保健福祉における関連法規と倫理】（緒方、上田）
5	精神の健康①【精神の構造と機能・ストレスと危機】（緒方、上田）
6	精神の健康②【ライフサイクルと精神看護】（上田、緒方）
7	精神看護と諸モデル【リカバリー・ストレングス・エンパワメント・レジリエンス】（上田、緒方）
8	精神医療と看護①【脳の機能と構造・精神症状学・統合失調症】（川原、上田、緒方）
9	精神医療と看護②【気分障害・不安障害・ストレス関連障害】（川原、上田、緒方）
10	精神医療と看護③【アディクション・摂食障害・発達障害・児童思春期の精神疾患】（川原）
11	精神医療と看護④【統合失調症の特徴と看護】（上田、緒方）
12	精神医療と看護⑤【気分（感情）障害・不安障害の特徴と看護】（上田、緒方）
13	精神医療と看護⑥【アディクション・摂食障害・発達障害の特徴と看護】（上田、緒方）
14	地域精神保健と精神看護【ストレス関連障害の特徴と看護/災害とこころのケア】（緒方、上田）
15	精神科以外での精神看護および看護師のメンタルヘルス（上田、緒方）

【履修上の注意事項】

指定した教科書をよく読みキーワードを押さえ自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（事前学習60分）。その日の講義で分からなかったことを明らかにして自ら疑問を解決する（事後学習60分）。

【評価方法】

定期試験80%、小テスト10%、振り返りレポート10%

フィードバックとして、小テスト・振り返りレポートは講義内で解説し返却する。

【テキスト】

- 1) 萱間真美, 野田文隆. 精神看護学 I 精神保健・多職種つながり 【改訂第2版】, 南江堂, 2018.
- 2) 萱間真美, 野田文隆. 精神看護学 II 臨床で活かすケア 【改訂第2版】, 南江堂, 2019.

【参考文献】

- 1) 末安民生ほか. 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉, 医学書院, 2019.
- 2) 水野雅文ほか. リカバリーのためのワークブック 回復を目指す精神科サポートガイド, 2018.

精神看護学Ⅱ

担当教員 上田 智之、緒方 浩志

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 精神症状が日常生活に及ぼす影響と患者がどのような点で生きにくさを感じているのか理解でき、その症状に対する看護援助の特徴と意義が理解できる。
2. 精神看護における基本的なコミュニケーション技法とケアの具体的な方法およびこころのセルフケアマネジメント技法が理解できる。

【授業の展開計画】

上田智之、緒方浩志：精神科病院において看護師として勤務

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・精神看護と対象理解（上田、緒方）
2	自己理解と他者理解【プロセスレコードの書き方】（緒方、上田）
3	自己理解と他者理解【プロセスレコード演習】（緒方、上田）
4	コミュニケーション技法【治療的コミュニケーション、アサーション】（上田、緒方）
5	精神障害の体験の理解（外部講師、緒方、上田）
6	精神看護におけるケアの方法①【薬物療法】（緒方、上田）
7	精神看護におけるケアの方法②【認知行動療法①】（上田、緒方）
8	精神看護におけるケアの方法②【認知行動療法②】（上田、緒方）
9	精神看護におけるケアの方法③【リラクゼーション法】（緒方、上田）
10	精神看護におけるケアの方法④【集団療法・SST理論】（上田、緒方）
11	精神看護における対象理解と理論の活用【セルフケア理論】（上田、緒方）
12	精神看護における看護過程の展開【統合失調症(情報整理・アセスメント)】（上田、緒方）
13	精神看護における看護過程の展開【統合失調症(看護計画立案)】（上田、緒方）
14	精神看護における看護過程の展開【気分障害】（緒方、上田）
15	こころのセルフマネジメント技法【元気回復行動プラン(WRAP)】（上田、緒方）

【履修上の注意事項】

指定した教科書をよく読み、キーワードを押さえ、自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと(事前学習60分)。講義を受けての疑問点を明確にし、不明な点については講義内容を振り返り解決する(事後学習60分)。

【評価方法】

定期試験70%、小テスト10%、課題および振り返りレポート20%
フィードバックとして、レポート・小テストは講義内で解説し返却する。

【テキスト】

- 1) 萱間真美,野田文雄 精神看護学Ⅱ 臨床に活かすケア 【改訂第2版】,南江堂,2019.
- 2) 田中美恵子:精神看護学 第2版 学生-患者のストーリーで綴る実習展開、医歯薬出版株式会社、2015.

【参考文献】

- 1) 長谷川雅美:自己理解・対象理解を深める『プロセスレコード』、日総研出版 2017.
- 2) 岡田佳詠:認知行動理論に基づく精神看護過程 よくわかる認知行動療法の基本と進め方、中央法規 2016.

精神看護学実習

担当教員 上田 智之、緒方 浩志

配当年次 3年

開講時期 1・2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

精神障害者とのかかわりを通して、対象者に生じている生きにくさに対する理解を深める。また、セルフケア理論およびストレンクス理論に基づいたアセスメントによる対象者のセルフマネジメント能力を高める支援方法を理解する。さらに、治療的コミュニケーションをはじめとした精神看護実践能力を身につけることを目的とする。

【授業の展開計画】

実習期間：2週間

実習施設：精神科病院および地域精神関連施設

実習配置：5グループのローテーションとする。
グループを3グループに分け、実習を実施する。
学内日は別途指示した日とする。

実習内容：受け持ち患者を1名担当し、看護過程の展開を通して対象理解を深める。
アセスメントおよびケアを焦点化し、看護計画の立案をする。
プロセスレコードを作成し、自己および他者の振り返りを通して自己理解を深める。
地域で生活する対象者の現状と必要な社会資源について理解を深める。
地域における対象者の看護についてリカバリーおよびストレンクスの視点から理解を深める。

※詳細は実習要項を参照

【履修上の注意事項】

1. 実習要項に沿って学習し、レポートを作成し、実習初日に提出する。
2. 精神保健福祉に関する関連法規について事前に学習する。
3. 事前に行われるオリエンテーションを必ず受けること。（日程は後日掲示する）
4. 自己の心身の健康管理に努め、実習を休まないように留意する。また、患者の個人情報に関しては看護学生として良識ある行動をとること。

【評価方法】

実習評価表に基づいて総合的に評価する。

【テキスト】

精神看護学Ⅰ、Ⅱの講義で使用したもの。

【参考文献】

1. 精神看護学Ⅰ、Ⅱで使用した教科書
2. 岡田佳詠ほか. 認知行動理論に基づく精神看護過程, 中央法規.
3. 萱間真美. ストレンクスモデル実践活用術, 医学書院.

母性看護学 I

担当教員 牛之濱 久代、大橋 知子、森口 範子

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人間の健康を性と生殖に関する側面から捉え、母性看護学の基盤となる概念について理解できる。

また、母性看護の現況と動向を概括し、家族を含めた母子を取り巻く環境を把握できる。

女性の生涯における発達課題と健康課題を理解した上で、母性看護の具体的な支援のあり方について述べる事ができる。

【授業の展開計画】

牛之濱：看護師、助産師として病院勤務経験、大橋：看護師、助産師として病院勤務経験、森口：看護師、助産師として病院勤務経験

①母性看護学の基盤となる概念や、母性看護領域における対象となる人々の特徴や健康現象についての基礎知識の修得、②性と生殖における健康と人生の各ステージにおけるセクシュアリティについての理解、③現代女性のライフサイクル各期における健康の諸課題やニーズをふまえた個人・家族に対する健康支援の在り方の学習

週	授 業 の 内 容
1	母性看護の概念とその特質：母性看護の特殊性、母性看護学学習のねらい 牛之濱
2	人間の性と生殖：人間の性の特徴・性行動、セクシュアリティの発達と課題、性の決定・分化 牛之濱
3	女性生殖器の構造と機能：性周期とホルモン動態、受胎のメカニズム 牛之濱
4	社会と母性保健(1)：生活環境、母子保健統計の動向・母子保健行政のあゆみ、関係法規 牛之濱
5	社会と母性保健(2)：母子保健施策、女性の労働と子育て、母性看護の場と職種 牛之濱
6	母性看護の沿革と現況：日本の母性看護の発達—近代以前、近代以降、現代 牛之濱
7	リプロダクティブヘルス・ライツ：妊娠をめぐる女性の選択、母性看護における看護倫理 牛之濱
8	家族計画、避妊：受胎調節法と避妊法 牛之濱
9	母性看護に必要な看護技術：情報収集・アセスメント技術、母性看護に必要な看護技術 牛之濱
10	女性・家族のライフサイクル：現代女性のライフサイクルと生涯発達、家族の発達段階 牛之濱
11	女性のライフステージ各期の特徴と保健(1) (思春期)月経異常、性感染症、人工妊娠中絶 森口
12	女性のライフステージ各期の特徴と保健(2) (成熟期)育児不安、DV、産後うつ、喫煙 大橋
13	女性のライフステージ各期の特徴と保健(3) (更年期・老年期)更年期障害、尿失禁、骨粗鬆症 大橋
14	出生前診断を受けるカップルの看護ケア、不妊カップルの理解と看護 森口
15	ハイリスクな状況にある人々への看護：危機援助、ハンディキャップをもつ母子への看護 大橋

【履修上の注意事項】

講義初日に、授業展開日程表を配布するので、教科書を読み、その分野に関する内容を予習しておくこと（30分）。また、事後学習として授業資料内容を教科書や参考書と照らし合わせ復習しておくこと（40分）。

【評価方法】

期末試験 原則100%です。

【テキスト】

『系統看護学講座 母性看護学概論 母性看護[1]』医学書院、『系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護[2]』医学書院、『系統看護学講座 女性生殖器 成人看護学[9]』医学書院

【参考文献】

国民衛生の動向、前原澄子編集『新看護観察のキーポイントシリーズ母性Ⅰ、母性Ⅱ』中央法規
堀内成子編集『パーフェクト臨床実習ガイド 母性看護学第2版』照林社

母性看護学Ⅱ

担当教員 大橋 知子、牛之濱 久代、森口 範子、デッカー 清美

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

周産期にある女性と胎児、新生児を中心とした家族の変化を理解し、対象の生理的、心理・社会的変化と生活への適応を促す援助と健康逸脱時の援助を学習する。

【授業の展開計画】

牛之濱：看護師、助産師として病院勤務経験、デッカー清美：看護師、助産師として病院勤務経験、大橋：看護師、助産師として病院勤務経験森口：看護師、助産師として病院勤務経験。周産期は女性のライフサイクルの中で最もダイナミックな身体的変化を起こす。さらに、女性の健康は胎児・新生児の発育や健康状態にも影響を及ぼす。本科目では、周産期における母性・胎児・新生児およびその家族の変化を理解する。さらに女性と胎児・新生児を中心とした家族全体の健康保持・増進および異常予防のために必要な援助を修得する。

週	授 業 の 内 容
1	母性看護の特徴とウェルネス看護診断、事例による看護過程展開 大橋
2	妊娠期の看護Ⅰ：妊娠成立と妊娠に伴う母体や胎児の変化、妊娠期の心理・社会的特性 森口
3	妊娠期の看護Ⅱ：妊婦と胎児の健康アセスメント、妊婦の健康管理、妊婦の日常生活とセルフケア 森口
4	妊娠期の看護Ⅲ：妊婦と家族の看護、親になるための準備教育 森口
5	分娩期の看護Ⅰ：分娩の三要素と正常分娩の臨床経過 大橋
6	分娩期の看護Ⅱ：分娩第1, 2, 3期及び分娩直後の看護、産婦の安楽及び家族に対する看護 大橋
7	新生児期の看護Ⅰ：新生児の生理的特徴と看護 大橋
8	新生児期の看護Ⅱ：新生児期の異常と看護 大橋
9	産褥期の看護Ⅰ：退行性変化、進行性変化、心理的変化・母親適応過程と看護 牛之濱
10	産褥期の看護Ⅱ：母子と家族に対する看護援助、母乳哺育支援、育児支援 牛之濱
11	妊産褥婦のケア技術演習/新生児のケア技術演習 牛之濱、森口、大橋、デッカー
12	ハイリスクな状況にある人々の看護Ⅰ：(妊娠期の異常と看護) 流早産、妊娠高血圧症候群 森口
13	ハイリスクな状況にある人々の看護Ⅱ：(分娩期の異常と看護) 微弱陣痛、帝王切開 大橋
14	ハイリスクな状況にある人々の看護Ⅲ：(産褥期の異常と看護) 子宮復古不全、乳腺炎 牛之濱
15	母性看護過程：産褥早期の褥婦、新生児の看護事例展開演習、臨地実習で展開方法 大橋

【履修上の注意事項】

講義初日に授業展開日程表を配布するので、

- ①教科書を読みその分野を予習すること (30分)。
- ②授業資料内容について教科書や参考書を読み返し復習すること (40分)。
- ③演習課題についてレポートを作成し演習に臨むこと (120分)。

【評価方法】

原則 期末試験100%

【テキスト】

『系統看護学講座 母性看護各論 母性看護[2]』医学書院、『系統看護学 母性看護概論 母性看護学[1]』医学書院、『系統看護学 女性生殖器 成人看護学[9]』医学書院

【参考文献】

『写真でわかる母性看護技術 アトバンス』『根拠と事故防止からみた母性看護技術』『ウェルネスからみた母性看護過程第2版』『病気がみえる⑩』『パーフェクト臨床実習がイト 母性看護学第2版』

母性看護学実習

担当教員 牛之濱 久代、大橋 知子、森口 範子、未定

配当年次 3年

開講時期 1・2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

リプロダクティブヘルス/ライツの概念を理解し、母性看護学Ⅰ、Ⅱで学んだ知識・技術を実習を通して統合し、母性看護の特殊性を考慮した看護の実践ができる基礎能力や態度を養うことができる。

【授業の展開計画】

牛之濱：看護師、助産師として病院勤務経験

大橋：看護師、助産師として病院勤務経験

森口：看護師、助産師として病院勤務経験

【教育目標】

1. 周産期の母子とその家族の身体的・心理的・社会的特性を理解し、適応の過程を明らかにすることができる。
2. 周産期の母子とその家族に関する情報を収集分析し、看護計画に基づき安全・安楽を考慮した看護を実践し評価できる看護過程を展開できる。
3. リプロダクティブヘルス/ライツの観点から、周産期における女性・子ども・パートナーの健康課題を踏まえ、対象者の生涯を通じた健康教育・ケアのあり方を考察できる。
4. 母子と家族の健康に関わる看護者の役割と責任を自覚した行動をとり、母子保健医療チームメンバーとして連携・協力する方法を考察できる。
5. 自己の学習過程を振り返り、今後の学習課題を明らかにすることができる。

【授業内容】

1. 出産前後の母児の受け持ちや外来を訪れる妊婦や母児との関わりを通して、妊産婦や母児の体験を学習する。
2. 看護師/助産師とともに行動し、妊産婦および新生児や家族に対してどのような看護ケアが行われているのかを学習する。
ex. 褥婦の観察・悪露交換・乳房ケア・授乳指導・新生児の観察・沐浴・育児支援・妊婦健診・胎児管理(NST)・母乳外来・母親学級など
3. 受け持ち対象母児の健康課題について、情報収集・分析・看護計画の立案・実施・評価を行う。
4. カンファレンスを通して学びの共有を図り、学習を深める。

【履修上の注意事項】

事前学習課題として、ワークブック（一人の妊婦の妊娠期から産褥期までの経過を追った看護の問題集）、看護過程レポートを仕上げ、実習直前にもその内容を復習して実習に臨むこと(4時間)。
また、実習で実施する母性看護術（妊産婦及び新生児の健康アセスメント、沐浴・清拭、妊婦健診、NSTなど）についても事前に十分演習を行い実習に備えてください(4時間)。

【評価方法】

1. 実習目的・目標の達成度（役割理解、看護過程、実践・記録、課題の明確化）80%
2. 実習態度(予習・復習、主体性・積極性、カンファレンス参加状況、記録物の内容及び提出状況) 20%
3. フィードバックとして、ワークブック、看護過程レポートにはコメントを入れ、返却します。

【テキスト】

系統看護学講座『母性看護学概論，母性看護学①』医学書院、系統看護学講座『母性看護学各論，母性看護学②』医学書院、系統看護学講座『女性生殖器，成人看護学⑨』医学書院

【参考文献】

『根拠と事故防止からみた母性看護技術』『写真でわかる母性看護技術アドバンス』『パーフェクト臨床実習が！母性看護学』『ウェルネスからみた母性看護過程』『病気がみえる⑩』

リハビリテーション看護

担当教員 山本 恵子、中野 聡太、北原 崇靖

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

リハビリテーションに関連する法律やチームアプローチを学び、障害を持つ人のアセスメント・健康課題・評価・看護実践を理解することができる。リハビリテーションを必要とする人の持つ力に気づき、その力を最大限に活用し生活を再構築するための基礎知識を身につけることができる。

【授業の展開計画】

山本：看護師・保健師として病院勤務

中野：理学療法士として病院勤務

北原：看護師として病院勤務

特別講師：看護師（認定看護師）として病院勤務

週	授 業 の 内 容
1	リハビリテーション看護とは：定義、領域、歴史、対象、概念（山本）
2	障害者をめぐる法律、倫理、チームアプローチ（山本）
3	地域リハビリテーション（北原）
4	生活の再構築とは：「私を知る」から始める（山本）
5	アセスメントの視点と看護介入：サルコペニア：定義、日常生活の注意など（山本）
6	アセスメントの視点と看護介入：活動-運動、睡眠-休息（山本）
7	アセスメントの視点と看護介入：摂食・嚥下、自助具の工夫（山本）
8	アセスメントの視点と看護介入：排泄（山本）
9	アセスメントの視点と看護介入：高次機能 *社会の態度、性を含む（山本）
10	アセスメントの視点と看護介入：呼吸・循環（北原）
11	疾患・障害別のリハビリテーション 言語障害：原因と症状、コミュニケーションの工夫（山本）
12	リハビリテーション：理学療法士の立場から（中野）
13	疾患・障害別のリハビリテーション 視聴覚障害、聴覚障害者（山本）
14	疾患・障害別のリハビリテーション 脳血管障害：最新治療とリハビリテーション看護（特別講義）
15	疾患・障害別のリハビリテーション 神経疾患：パーキンソン病（山本）

【履修上の注意事項】

- ・講義中の私語が多い場合は、座席指定とします。チャイムが鳴り終わるまでに着席してください。
- ・演習も入れながら講義を行います。必要物品は事前に連絡します。
- ・出席は、毎回のレポートがなければ携帯登録があっても無効です。
- ・事前学習：授業展開を参考に教科書を熟読して受講してください(30分)。
- ・事後学習：毎回、教科書やプリントを参考に各自復習し理解する(60分)。

【評価方法】

定期試験100%

【テキスト】

『ナーシング・グラフィカ成人看護学(6) リハビリテーション看護』、奥宮暁子他。MCメディカ出版。2018

【参考文献】

ナーシング・グラフィカEX 疾患と看護7「運動器」、萩野浩，山本恵子編集。メディカ出版。2020
 その他、講義の中で適宜照会

看護専門演習 I

担当教員 生野、福島、福本、山本、上田、牛之濱、川本、杉野、二宮、大橋、中川、松岡、緒方浩、落合、北原、齋藤、島村、田中、福田、森口

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 既習の知識と技術を総合的に確認し、実習開始に向けた心構えと意識づけができる。
2. 本大学が学外実習を依頼している施設を見学し、実習開始に向けた具体的準備ができる。
3. 各実習の開始までに必要な事前学習と課題を確認し、各実習開始までの学習計画立案ができる。

【授業の展開計画】

看護師として病院勤務経験(生野・福島・上田・川本・杉野・川本・二宮・大橋・松岡・緒方・北原・巖・齋藤・島村・田中・)看護師・保健師として病院勤務経験(山本)
保健師として保健所勤務経験(福本)・保健師として保健センター勤務経験(中川)・保健師として市町村保健福祉センター勤務経験(福田)
助産師・看護師として病院勤務経験(牛之濱・森口)

日程と講義内容・施設見学については、初回講義で説明する。

5月1日3時限：初回講義1コマ(看護専門演習 I の全体像・課題・評価・その他)

5月	老年看護学	講義・演習	2コマ
	介護老人保健施設	施設見学	1コマ
	介護老人保健施設	施設見学	1コマ
	母性看護学	講義・演習	4コマ
6月	成人看護学	講義・演習	4コマ
	成人看護学	病院見学	1コマ
	精神看護学	病院見学	1コマ
	精神看護学	講義・演習	2コマ
	小児看護学	講義・演習	4コマ
	小児看護学	施設見学	1コマ
	在宅看護学	講義・演習	4コマ
	地域看護学	講義・演習	施設見学・4コマ

【履修上の注意事項】

1. 本科目の予習(30分)として、関連する既習得科目の内容を確認し講義に臨むこと。
2. 講義や施設見学終了後は復習(30分)や振り返りを行い、知識を確実なものとする。
3. 施設見学時は臨地実習に準ずる服装と身だしなみが求められる。期日までに準備しておくこと。
4. 各領域別実習の先修科目を未修得の場合、履修と受講に関わる条件があるのでオリエンテーション時に確認し、履修登録等の間違いがないように細心の注意をすること。

【評価方法】

1. 施設見学、課題レポート(50%)、実習に向けての抱負(50%)で評価する。
2. 評価の視点、課題レポートテーマ、提出期限等は、別途資料を用いて説明する。

【テキスト】

看護専門演習 I として新たなテキストは指定しない。

【参考文献】

- ・日本看護協会：看護者の基本的責務一定義・概念／基本法／倫理.
- ・各看護学領域の実習に必要な教科書・プリント、文献等

看護専門演習Ⅱ

担当教員 二宮、生野、山本、上田、松岡、緒方、落合、北原、田中

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考 令和2年度は閉講の可能性あり

【授業のねらい】

地域包括ケアシステムを担う一員として、地域で療養する人やその家族に対し、既習の講義および実習等で培った知識・技術・態度を統合して、質の高い自立支援を考えることができる。また、グループワークを通して自律した学習能力を身に付け、卒業後に専門職として多職種との連携・協働する際の基礎的なコミュニケーション能力を身に付けることができる。

【授業の展開計画】

二宮球美・生野繁子・松岡聖美・緒方浩志・落合順子：看護師としての病院勤務経験を有する
山本恵子・上田智之・緒方浩志・北原崇靖：看護師・保健師としての勤務経験を有する

- 1 (9/28・3) オリエンテーション、看護を取り巻く社会状況 二宮
- 2 (9/28・4) 事例1-1提示, 成長発達等項目毎に個人ワーク終了後, GW, 発表(2~3G), 事例1-2提示, 二宮, 松岡
- 3 (9/29・1) 成長発達の関連法規・社会資源、事例1-2：個人ワークまとめ、GW後、成長発達のまとめ（講義）
二宮、松岡
- 4 (9/29・2) 事例1-2：病態と成長発達の統合、グループワーク（GW）、事例1-3提示 二宮、松岡
- 5・6 (10/5・3・4) 事例1-3：個人及び家族のQOLの視点で個人ワーク後、GW、まとめ、二宮、松岡
- 7 (10/6・3) 事例1-3のまとめ 二宮、松岡
- 8 (10/6・4) 小児の在宅移行：NICUの看護、専門看護師の役割など（講義）二宮、松岡
- 9 (10/12・3) 在宅移行後の教育、福祉などの資源活用と協働：個人ワーク、GW、まとめ二宮、松岡
- 10 (10/12・4) まとめ：地域包括ケアシステムにおける小児看護の視点 二宮、松岡
- 11 (10/13・1) 認知症高齢者が在宅療養生活を維持するための支援、事例2の説明およびGWの進め方生野、山本、北原
- 12 (10/13・2) 事例2検討：GW 生野、山本、北原
- 13, 14, 15, 16, 17(10/19・3・4、10/20・1・2、10/27 1)：事例2検討：GW事例発表および検討会、事例検討からの学び 生野、山本、北原
- 18, 19 (10/27, 10/28) 地域で生活する鬱病患者の復職支援について事例3説明及びGW 上田、緒方
- 20, 21, 22(10/28 4, 11/2 3・4)事例3検討：GW 上田、緒方
- 23, 24(11/9 3・4)事例3の検討、事例発表・演習・解説 上田・緒方
- 25, 26 (11/10 1・2) 住み慣れた地域で本人と家族がその人らしく生活するための支援、事例4検討：GWの進め方, GW落合、田中
- 27・28(11/16・3・4) 事例4検討、GW、発表、在宅療養支援における医療と介護の連携強化について
- 29・30 (11/17・1・2) 地域包括ケアシステムにおいて看護職に求められる「繋ぐ力」について考える(事例1~4を検討して) 二宮 日程に関しては、時間割決定後詳しく掲示予定

【履修上の注意事項】

- ・事例検討に際しては、事前に学習してグループワークに臨むこと
- ・時間割を確認し、日程や時限に注意すること。日程に関して変更する際は、早目に別途連絡する。

【評価方法】

配点割合は、事例1で30%、事例2で20%、事例3で20%、事例4で20%、全体の学びで10%とする。事例評価の視点は、事例からの学びが50%、発表およびグループワークが50%とする

【テキスト】

- ・適宜提示

【参考文献】

- ・適宜提示

看護専門演習Ⅲ

担当教員 川本 起久子、上妻 尚子、松岡 聖美、齋藤 圭子、島村 美香、古堅 裕章

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この演習のねらいは、健康障害を持つ対象を理解して、状態に応じた看護ができるための基礎能力を養うことである。基礎科目、専門基礎科目で学んだことを看護する立場からとらえなおし、知識を統合させながら対象を理解でき、対象に必要な看護を考えることができる。

【授業の展開計画】

川本・上妻・松岡・島村・古堅・齋藤：看護師として病院勤務経験

複雑な健康障害を持つ人の紙上の3事例を通して、アセスメント・看護問題の抽出・看護計画を立案する。

第1回目事例1：慢性閉塞性呼吸器疾患患者が、CO₂ナルコーシスを起こし重度の呼吸不全状態に陥り、人工呼吸器管理下となった事例

第2回目事例2：HT、DMでニューロパティ、網膜症、腎症にまで至り、無症候性虚血性心疾患と慢性心不全状態になった事例

第3回目事例3：5歳男児で急性リンパ性白血病を発症した小児の事例

以上の各事例（1事例10コマ）について、原則、事例提示し、グループワークにて看護過程を展開し、看護問題および看護計画をグループごとに発表する。詳細な日程は、初回のオリエンテーション時に説明する。

【履修上の注意事項】

複雑な事例であるが、既習の教科書や参考書等を活用し、自主的に学習を進めていくこと。各事例の疾患・看護に関して事前学習で演習に臨み（60分）、演習終了後はグループワークで学習した内容を復習すること（60分）。事例に関連した過去の国家試験問題を解き、理解を深めること。

【評価方法】

筆記試験（定期試験）100%とする。

【テキスト】

基礎科目、専門基礎科目等の既習の教科書すべてがテキストである。各症例を学習するために必要なテキストを各自持参すること。

【参考文献】

適宜紹介する。

関係法規

担当教員 野崎 和義

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

1. 医療行為を中核とする現行医事法制の中で、コメディカルの法的位置づけを理解する。
2. 医療専門職である看護師に課せられた社会的責務と業務上の責任を理解する。
3. 各種医療専門職との協力、福祉従事者との連携のために必要とされる法を理解する。
4. 今日の医療制度の仕組みとその問題点を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	市民の法と専門職の法——市民法の基礎、看護師の法的位置づけ
2	医療職と法——守秘義務と個人情報の保護、三層の法構造
3	医業の独占——医療行為、「業」による規制、医療行為の拡散
4	治療行為と同意（1）——医療行為と治療行為、同意能力、乳幼児と医療ネグレクト
5	治療行為と同意（2）——家族による同意、成年後見制度と治療同意権
6	診療の補助と医師の指示——具体的指示と包括的指示、メディカルコントロール
7	看護師と刑事責任（1）——終末期医療と家族
8	看護師と刑事責任（2）——チーム医療と信頼の原則、実習生による事故とその対応
9	チーム医療と民事責任（1）——民事責任の構造、医療従事者の注意義務
10	チーム医療と民事責任（2）——看護師の過失
11	身体拘束と看護事故——裁判例の分析、看護と介護
12	医療過誤と訴訟——訴訟の目的とその限界、医療ADRの取り組み
13	看護師と労働法——労働契約の特殊性、院内暴力・セクハラ
14	医療制度と法——医療制度改革、医療法の改正
15	コメディカルの業務と責任——医療者の義務、医事法の構造と射程

【履修上の注意事項】

- ・準備学習：各回のテーマに即して教科書を読んでおくこと。
- ・事後学習：講義で示された課題をもとに教科書および関連事項を整理すること。
- ・講義の進行は、理解度に応じて変更することがある。その際には、あらかじめ通知する。

【評価方法】

定期試験(100%)の成績によって評価する。

【テキスト】

野崎和義著『コ・メディカルのための医事法学概論（第2版）』2020年、ミネルヴァ書房。
野崎和義監修『社会福祉六法』2020年、ミネルヴァ書房。

【参考文献】

適宜紹介する。

在宅看護学

担当教員 田中 康子、巖 桂子、開田 ひとみ、上田 智之

配当年次 2年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

病気や障がいを持っていても住み慣れた地域の中で自分らしく生活できるように、自己決定に基づく自律・自立支援の重要性、及び、地域包括ケアシステムにおける看護の役割について理解を深める。
在宅療養者とその家族を取り巻く社会情勢、国の医療介護政策の動向を学び、在宅看護を展開するために必要な制度・看護技術・態度を習得する。

【授業の展開計画】

田中 康子：看護師として病院勤務経験
巖 桂子：看護師として病院勤務経験
開田 ひとみ：看護師として病院勤務経験
上田 智之：看護師として精神科勤務経験

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	少子高齢化社会と在宅看護(田中)	16	慢性疾患のある療養者の支援 (田中)
2	地域包括ケアシステムと看護師の役割 田中	17	精神疾患のある療養者への支援 (上田)
3	在宅看護の対象者の特徴 (田中)	18	難病のある療養者への支援 (田中)
4	在宅看護における家族への支援 (田中)	19	精神疾患のある療養者への支援 (上田)
5	在宅看護にかかわる法令・制度 (田中)	20	医療的ケア児と親への支援 (田中)
6	介護保険制度 (田中)	21	認知症のある療養者への支援 (田中)
7	在宅看護における社会資源 (開田)	22	呼吸器疾患のある療養者への支援 (田中)
8	療養の場の移行と多職種連携 (開田)	23	終末期の療養者への支援 (田中)
9	在宅看護における権利保障 (開田)	24	在宅看護過程 (田中)
10	リスクマネジメントと災害の備え (開田)	25	看護過程：事例の理解 (田中・巖)
11	在宅看護技術の確認と理解 (田中)	26	看護過程：アセスメント・計画 (田中・巖)
12	在宅看護技術 栄養(経管栄養) (田中)	27	看護過程：アセスメント・計画 (田中・巖)
13	在宅看護技術 褥瘡・排泄 (田中)	28	看護過程：アセスメント・計画 (田中・巖)
14	在宅看護技術 人工呼吸器療法 (田中)	29	看護過程：発表 (田中・巖)
15	在宅看護技術 在宅酸素療法 (田中)	30	まとめ：演習事例の展開方法 (田中・巖)

【履修上の注意事項】

学習進度に応じて提示された学習課題および、次回の講義内容を確認し教科書による予習(30分)復習(30分)を行うこと。

【評価方法】

定期試験70%
小テスト20%
演習参加態度及び提出物10%

【テキスト】

系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 第5版, 医学書院

【参考文献】

適宜提示

在宅看護学実習

担当教員 落合 順子、田中 康子、未定

配当年次 3年

開講時期 1・2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

住み慣れた地域で療養生活を送る人々とその家族の生活を理解し、多職種協働による看護の実際を訪問看護ステーションを中核とした実践活動から学ぶ。また、地域包括ケアシステムにおける看護の役割を考察することができる。

【授業の展開計画】

未定：

田中：看護師として病院勤務経験

【実習目的】

地域の中で健康障害をもちながら療養生活をする人々やその家族を理解し、在宅における看護の機能と役割について訪問看護師の実践活動から学ぶ。

地域包括ケアシステムにおける多職種協働の意義及び生活を支える看護の機能と役割について学ぶ

【実習目標】

1. □地域包括ケアシステムにおける医療提供体制を理解する。
2. □在宅療養者とその家族の人権と尊厳を尊重する自律支援(自己決定支援)の重要性を理解する。
3. □生活を支える医療・看護の実践を通してQOLの向上をめざす自立支援の重要性を理解する。
4. □在宅療養者とその家族への援助の実際を通して訪問看護の役割と機能、援助方法を理解する。
5. □安全安心な在宅療養生活を支援するためのケアマネジメントを理解する。
6. □在宅看護に関連する保健・医療・福祉の専門職との連携の重要性と看護職の役割を理解する。

【実習展開】

訪問看護ステーションおよび病院内訪問看護室における臨地実習2週間を設定している。

詳細は臨地実習要項参照。

実習配置:実習クール毎に、各施設に原則2名ずつ学生を配置し実習を行う。

進め方:実習前週の金曜日・・・学内オリエンテーション:実習施設の確認、事前学習課題確認

1週目の月～木曜日・・・実習施設において訪問看護同行、カンファレンスなど

1週目の金曜日・・・学内日:他施設での学び共有、受け持ち療養者看護過程の展開、個別指導

2週目の月～水曜日・・・実習施設において同行訪問、受け持ち療養者のケアおよびカンファレンス

2週目の木～金曜日・・・学生間で学びの共有、個別面接

【履修上の注意事項】

実習開始前に提示される課題と学習項目については予習を行うこと(60分)。

「臨地実習要項」を実習開始前および実習中よく目を通し、実習で体験した内容は既習内容と照合しながら毎日復習すること(60分)

【評価方法】

実習要項に提示してある評価表に基づいて、評価を行う。随時面談を行いフィードバックする。

【テキスト】

- ・「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」 医学書院
- ・科目「在宅看護学」で配布した資料や提示した参考文献

【参考文献】

- ・随時提示

公衆衛生看護学概論

担当教員 福本 久美子、中川 武子、福田 久美子

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義・演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

看護学における地域看護と公衆衛生看護の位置づけを理解し、公衆衛生看護学の基本的理念と目的、その対象や活動方法の特性について、基本的な知識と考え方を学習し、公衆衛生看護学の全体像が理解できる。

【授業の展開計画】

福本：保健師として保健所勤務経験

中川：保健師として保健センター勤務経験

福田：保健師として保健福祉センター勤務経験

週	授 業 の 内 容	
1	福本、中川、福田	看護学における地域看護と公衆衛生看護の位置づけ
2	福本・福田	公衆衛生と公衆衛生看護学の理念と目的
3	福本・福田	公衆衛生看護活動の歴史
4	福田・福本	公衆衛生看護の対象
5	中川・福田	公衆衛生看護学の活動分野の特徴
6	福本・中川・福田	保健師活動事例を読み解き、公衆衛生看護と保健師の役割を学ぶ(GW)
7	中川・福田	社会環境の変化と健康課題
8	福本・福田	健康格差の要因と解決方法
9	福田・中川	予防レベルと保健行動・ヘルスリテラシー
10	中川・福田	公衆衛生看護の活動方法、
11	福本・中川・福田	保健師活動事例を読み解き、公衆衛生看護と保健師の役割を学ぶ(GW発表)
12	福本・中川・福田	GW(公衆衛生看護と保健師)のまとめ、コミュニティエンパワメント
13	福本(特別講師)	公衆衛生看護学の活動分野の特徴(行政・福祉)
14	福本(特別講師)	公衆衛生看護学の活動分野の特徴(産業)
15	福本・中川・福田	授業まとめ

【履修上の注意事項】

- 1) 講義の予習復習を行うこと(90分以上)。
- 2) グループワークや討論など参加型の手法を取り入れるため、授業以外の学習時間を活用し課題を整理することが必要になるため、学生間で調整を行い、グループ学習を進めること(180分以上)。
- 3) 学外での公衆衛生看護学関連の講演会等(紹介)に積極的に参加すること。

【評価方法】

レポート20点(止むを得ない場合を除き、期日まで提出がない場合は減点)、GW20点、試験60点
フィードバックはレポートの返却と講評を行うとともに、個別の質問に答える。

【テキスト】

1. [公衆衛生看護学概論] 標美奈子他 医学書院
2. [国民衛生の動向] 厚生統計協会

【参考文献】

1. 「健康格差社会 何が心と健康を蝕むのか」 近藤克則著, 医学書院
2. 「保健師—普通を守る仕事の難しさ—」 荘田智彦著, 家の光協会
3. 「そよ風と暮らしと健康」 熊日出版
4. その他随時紹介。

看護マネジメント

担当教員 福島 和代

配当年次 3年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

質の高い看護を提供するための看護サービスのしくみやサービスを提供する専門職として必要な看護マネジメントの基礎知識を習得し、自分のキャリア発達について考えることができる。

【授業の展開計画】

福島：看護師として病院勤務経験

看護におけるマネジメントは、対象者に提供する最適なケアを調整・展開・評価することであり、そのための一連の活動である。対象者に提供される看護ケアのマネジメントと看護職が提供するサービス全体を組織としてとらえて提供する看護サービスのマネジメントがある。新人看護師であっても組織の一員として、専門職としての役割・責任が求められる。看護サービスを提供する専門職として必要な基礎知識を習得し、病院づくりのグループダイナミクスを通して自分のキャリア発達について考える。日時についての変更は、別途スケジュールを提示する。

- 第 1回 看護マネジメントとは マネジメントのプロセス
- 第 2回 看護管理過程 看護管理の歴史
- 第 3回 組織の成り立ちと構造
- 第 4回 看護のケア提供システム
- 第 5回 医療関係職種とチーム医療
- 第 6回 看護サービスと質の保障
- 第 7回 リスクマネジメント（安全管理）
- 第 8回 リスクマネジメント（感染管理） リーダシップとメンバーシップ
- 第 9回 専門職と法・倫理
- 第10回 キャリア発達 レポート課題提示
- 第11回 医療制度と政策・診療報酬制度
- 第12回 グループワーク 1：病院づくり（地域のニーズ、病院組織の理念、規模）
- 第13回 グループワーク 2：病院づくり（どんな看護師を育てたいか）
- 第14回 グループワーク 3：病院づくり（看護師のキャリア開発のためのシステム）
- 第15回 グループワーク 4：病院づくり（全体発表、プレゼンテーション）

【履修上の注意事項】

教科書で事前学習をし（90分）、事後も講義資料と照らし合わせて復習をすること（90分）。グループワークでは、地域のニーズに応じた理想の病院づくりを行なうが、事前に就職パンフレットや病院ホームページから情報収集して望むこと（90分）。将来働きたい病院を想定し、既成概念にとらわれない自由な発想を重んじる。

【評価方法】

評価基準は「課題レポート90%、発表10%」とし60点以上を合格とする。フィードバックとして、必要に応じてコメントする。

【テキスト】

系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践〔1〕医学書院

【参考文献】

系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践〔2〕医学書院、中西睦子編 看護サービス管理 医学書院、井部俊子/中西睦子監修：看護管理学習テキスト第1～8巻・別巻 日本看護協会出版会

家族看護学

担当教員 二宮 球美、生野 繁子、緒方 浩志

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

家族を1つのユニットとして捉え援助していくことの重要性と家族支援に関する基礎的な知識と能力を養うことを目的に、家族の基本的概念・機能、家族看護の概要、家族看護のプロセスについて理解することができる。事例によって、各健康・社会的な傷害をもつ患者を中心とした家族のケアを学び、実践である各々の実習での展開の基礎とする。

【授業の展開計画】

家族という小集団における関係性を学び、看護の対象者及び家族の力を理解し、看護の多方面でのケアに生かすことを前提として事例を通して具体的に学ぶ授業展開を行う。

二宮球美 看護師として病院勤務経験を有する

生野繁子 看護師として病院勤務経験を有する

緒方浩志 看護師として病院勤務経験を有する

週	授 業 の 内 容
1	I 家族看護学とは何か 導入:「家族看護学」の発展過程 生野
2	II 看護学における家族の理解 家族の概念・定義 生野
3	-2 男女共同参画社会の理念と家族の現状 生野
4	-3 家族の変化と虐待をめぐる家族の課題 生野
5	III 家族看護の概要、理論を理解し、家族支援に活用することができる-1 歴史、目的 二宮
6	-2 家族看護学に用いられる理論枠組み -3 家族看護学に用いられるアプローチ 二宮
7	-4 家族看護研究 二宮
8	IV 家族看護の実際を学ぶことができる -1 家族看護過程とその特徴 二宮
9	-2 家族看護における看護者の役割と援助姿勢 二宮
10	-3 在宅療養における家族看護の実際 未定
11	V 家族看護の展開を経験できる -1 ライフサイクルからみた家族支援 二宮
12	-2 健康レベル、ケアニーズからみた家族支援 家族の誕生 二宮
13	-3 手術を受ける家族 -4 ターミナルを迎える家族 二宮
14	-5 認知症患者と家族 -6 精神障害者と家族 緒方浩志
15	家族看護のまとめ 二宮

【履修上の注意事項】

各ライフステージの看護学の学習との関連なども含めて講義を進めていきます。既習科目との統合、具体的事例展開などがありますので、事前に渡された課題については学習をし、当該テキストについては事前学習を行って講義に臨むこと。また、事後学習において既習科目との統合を図るレベルまでに達するような学習を行うこと。*課題の提出を求めた場合は、コピーをしておくこと(返却の有無や方法が異なるため)。

【評価方法】

単位取得資格:2/3以上の出席。今回15回の間担当教員ごとの評価を行う。生野:課題Report・テスト、二宮:Report、テスト、未定・緒方:テスト 講義の割合に応じた配分での按分をしこの科目の評価とする。

【テキスト】

『家族看護学』理論と実践 第4版 鈴木和子・渡辺裕子(著) 日本看護協会出版会

【参考文献】

『家族看護学—理論とアセスメント』野嶋佐由美 へるす出版、『ファミリーナーシングプラクティス』 森山美知子 編集 医学書院、「家族関係論」医学書院 国民衛生の動向、配布印刷教材

看護教育学

担当教員 生野 繁子、福島 和代、福本 久美子、山本 恵子、牛之濱 久代、

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 令和2年度は閉講の可能性あり

【授業のねらい】

<教職科目を選択していない学生に標準をあわせている>

1. 専門職としての看護がどのような看護教育制度を持ってるのかについて、過去・現在・未来を概観できる。
2. 看護師免許取得後の看護職の生涯学習について展望し、キャリアデザインに活かすことができる。

注) ディスカッションやグループワークに重点を置いており、履修登録者4名以下の場合には閉講申請している。

【授業の展開計画】

生野 看護師として病院勤務経験
 福島 看護師として病院勤務経験
 福本 保健師として保健所勤務経験
 山本 看護師・保健師として病院勤務経験
 牛之濱 看護師・助産師として病院勤務経験

週	授 業 の 内 容	
1	導入	1. ガイダンス (生野)
2	I 看護教育制度	2. 看護史と看護教育(見学研修含む)(生野)
3		3. 看護教育制度の現状(山本)
4		4. 看護教育制度の未来(山本)
5		5. 保健師教育制度の変遷(福本)
6		6. 保健師教育制度の未来(福本)
7		7. 助産師教育制度の変遷(牛之濱)
8		8. 助産師教育制度の未来(牛之濱)
9		II 生涯教育
10	10. 看護師の卒後教育の変遷(福島)	
11	11. 病院における卒後教育の実際(福島)	
12	12. 専門職の職能団体と生涯学習(生野)	
13	III まとめ	13. 看護教育についてディスカッション(生野)
14		14. これからの看護教育グループワーク(生野)
15	15. 発表(生野)	

【履修上の注意事項】

- ・1年次の看護学概論の教育制度・看護史の内容を復習(約30分)しておくこと。
- ・大学4年間の集大成と考えてディスカッションでは積極的に意見を述べ、毎回復習(約20分)すること。
- ・新人看護師として望む現任教育内容をイメージしておくこと。
- ・臨地実習履修のための欠席を避けるため、履修確定後、講義日程の調整を実施する。
- ・日程調整し、近隣の看護史関係施設の見学を実施する。・テーマを決めて学びを発表する。

【評価方法】

学びのレポート50%・発表内容30%・ディスカッション時の発言内容20%の割合で総合的に評価する。
 評価結果については15回目で教員から総合的に講評する。

【テキスト】

「看護学概論」4年次生は既に購入済み

【参考文献】

1. 最新版「看護六法」新日本法規、2. 最新版「看護関係統計資料集」日本看護協会出版会、
3. 最新版系統看護学講座別巻「看護史」医学書院、他は随時紹介する

国際保健活動論

担当教員 中川 武子、デッカー 清美、淀川 尚子、安藤 学

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

科目目的：国際保健活動の現状と課題および実際の活動を学び、国際保健活動に貢献できる能力を養う。

到達目標

国際保健活動の現状を学び、その課題を考察することができる。

国際保健活動の展開方法を理解し、実践できる能力を養うことができる。

人々の健康的な生活支援に必要な情報を科学的・論理的に分析する能力を身につけることができる。

【授業の展開計画】

中川：看護師として病院勤務経験、保健師として保健センター勤務経験、イギリスにて病院勤務経験

淀川：歯科衛生士として病院勤務経験、ミャンマーにて活動経験

特別講師：看護師として病院勤務、国際保健支援活動経験

週	授 業 の 内 容
1	講義：国際保健の歴史と保健医療の概観（中川）
2	講義：グローバルヘルス（中川）
3	講義：国際機関・国際協力と国際保健活動（淀川）
4	講義：国際保健活動の実際(1)（淀川）
5	講義：国際保健活動の展開（中川）
6	講義：開発途上国における支援（中川）
7	講義：母子保健分野における支援（未定）
8	講義：感染症対策における支援(中川)
9	講義：紛争における支援（安藤）
10	講義：国際的な災害救護と支援（中川）
11	講義：国際保健活動の実際(2)（中川・特別講師）
12	講義：国際保健活動の実際(3)（中川・特別講師）
13	演習：国際保健活動の課題と支援（GW発表）（中川他）
14	演習：国際保健活動の課題と支援（GW発表）（中川他）
15	講義：国際保健分野における支援者の役割（中川）

【履修上の注意事項】

事前学習：教科書の該当範囲を読むこと。（30分以上）

事後学習：講義内容を基に配布資料を確認整理すること。（60分以上）

国内外の保健活動に関する情報を常に入手しておくこと。

【評価方法】

試験(50%)・発表(20%)・課題レポート(30%)

課題レポートはコメントして返却します。

【テキスト】

系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学 医学書院

【参考文献】

日本国際保健医療学会編 国際保健医療学 第3版 杏林書院

一般財団法人厚生労働統計協会編 国民衛生の動向 最新版

看護政策論

担当教員 柴田、未定、李、高、島村、未定

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 令和2年度は閉講の可能性あり

【授業のねらい】

日本の看護政策の変遷を理解し、それらに影響する社会背景に関心を持つことで、看護専門職としての自己の役割を考える。また、諸外国の保健医療制度と看護政策を知り、視野を広げあらためて日本の看護政策の課題について理解を深める。

【授業の展開計画】

島村：看護師として病院勤務経験、柴田：養護教諭として学校勤務経験。

週	授 業 の 内 容
1	社会背景と看護政策の変遷 (柴田)
2	わが国の看護制度の歴史：養成（資格）制度と法的根拠 (柴田)
3	わが国の看護制度の歴史：看護職資格の多様性と養成制度 (柴田)
4	中国の医療保険制度 (高)
5	中国の看護の現状と課題 (高)
6	欧米の保健医療制度 (未定)
7	看護職をめぐる近年の動き (島村)
8	欧米における看護政策 (未定)
9	韓国における看護政策について1 看護教育の歴史、制度 (李)
10	韓国における看護政策について2 看護政策 (李)
11	ヘルスケアシステムの現状と課題 (島村)
12	グループワーク：関心のあるテーマを選び概要を知る。 (島村)
13	グループワーク：テーマについてディスカッションする。 (島村・柴田)
14	グループワーク発表、まとめ (島村・柴田)
15	総括：看護政策の展望と課題 (柴田)

【履修上の注意事項】

1. 授業の前には、内容に関連する情報について予習をして受講すること。
 2. 受講後は、復習やレポート作成を通して、知識の整理をすること。これに要する時間は60分である。
- ◎講義日程の変更もあり得るので確認すること

【評価方法】

課題レポート(50%)・グループワーク(30%)・講義への参加度(20%)の割合で総合的に評価する。フィードバックの方法として、レポートは返却し、グループワークはワークの時間内の意見交換において行う。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

適宜紹介する。

看護統合演習 I

担当教員 福島、生野、山本、上田、牛之濱、川本、杉野、二宮、中川、松岡、大橋、緒方浩、落合、北原、齋藤、島村、田中、福田、古堅、森口

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

2年次に修得した各領域の専門的知識・技術を応用し、より臨地に近い状況での模擬対象者に対し看護過程を実践する。模擬対象者は6領域（成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、在宅看護学）の特徴をもつ事例であり、学修者は、其々の対象者に対し状況に応じた必要な援助を判断し実施することで、看護に必要な実践力を身につけることができるようになる。また、その学修過程を通して自己の課題を明確にし臨地実習への動機づけとすることができる。

【授業の展開計画】

指導教員：看護師として病院勤務経験

内容：6領域での演習を行う

詳細は「看護統合演習 I 要項」に提示し、学習のポイントはオリエンテーションで説明をする
「看護統合演習 I 要項」は大学のホームページから自分でダウンロードし、よく読んでオリエンテーション時に持参する

期間：4月第2週火曜日から第5週金曜日に集中で実施する

第2週：4月7日（火）オリエンテーション（1コマ）

第3週：4月14日（火）と15日（水）の1・2限 1日1領域で2領域の演習（4コマ）

第4週：4月21日（火）と22日（水）の1・2限 1日1領域で2領域の演習（4コマ）

第5週：4月28日（火）と30日（木）の1・2限 1日1領域で2領域の演習（4コマ）

5月1日（金）1・2限 まとめ（2コマ）

方法：①6領域のから提示された各々の事例および課題を理解し、具体的な看護計画を立案(事前レポート作成)し、演習に臨む

②教員の指導を受けながら、6領域で課題のケアを実践する

③教員の指示に従い、事後のレポートを作成し提出する

【履修上の注意事項】

- すべての領域実習の先修科目である。必ず履修し単位取得すること。
- 提示された事例および課題を十分学習し、アセスメント・行動計画を記録用紙に記述して演習に臨むこと。記述がない場合は参加できない。
- 模擬対象者への看護実践は、臨地実習における実践と同じと考え、真剣に取り組むこと。
- 実習と同様にユニフォームを着用し身だしなみを整えて臨むこと。

【評価方法】

6領域各々の評価表に基づいて評価する（100点満点）。評価内容は、事前レポート30点、実施40点、事後レポート30点とする。各領域の合計点を平均し、60点以上を合格とする。

身だしなみが整っていなければチェックを受けることはできない(不合格とする)。

フィードバックとして、必要に応じて面接を行う。

【テキスト】

1・2年次に使用したテキスト

【参考文献】

1・2年次に使用したもの

看護統合演習Ⅱ

担当教員 中川 武子、安藤 学、古賀 由紀子、井手 裕子、落合 順子、島村 美香

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

科目目的：災害の特徴を理解し、災害がもたらす健康課題や看護ニーズ、災害看護に必要な基礎的能力を養う。
 到達目標：災害および災害看護に関する基礎知識を習得できる。
 災害サイクルや活動の場に応じた看護職者の役割が理解できる。
 災害がもたらす人々の健康や生活への影響が理解できる。

【授業の展開計画】

中川：看護師として病院勤務経験 災害支援活動経験
 島村：看護師として病院勤務経験
 古賀：養護教諭として公立学校勤務経験 赤十字救急法指導員
 井手：アスレティックトレーナーとしてスポーツ競技団体支援経験 赤十字救急法指導員
 特別講師：看護師として病院勤務、災害支援活動経験

週	授 業 の 内 容
1	講義：災害支援における心得（安藤・中川）
2	講義：災害支援に携わる機関・組織（中川）
3	演習：災害図上訓練（DIG）（中川・未定）
4	演習：災害図上訓練（DIG）（中川・未定）
5	講義：災害サイクルに応じた災害看護の役割（中川）
6	演習：トリアージ（中川）
7	講義：災害現場に応じた災害看護展開（中川）
8	演習：災害時のジレンマとその対応—クロスロード—（中川・島村）
9	講義：災害中長期の看護（中川）
10	講義：災害と感染コントロール（中川）
11	講義：災害時のこころのケア(1)（中川・特別講師）
12	演習：災害時のこころのケア(2)（中川・特別講師）
13	演習：傷病者に対する応急処置（中川・島村・古賀・井手）
14	演習：傷病者に対する応急処置（中川・島村・古賀・井手）
15	演習：傷病者に対する応急処置（中川・島村・古賀・井手）

【履修上の注意事項】

事前学習：教科書の該当範囲を読むこと。（30分以上）
 事後学習：講義・演習内容を基に配布資料を確認整理すること。（60分以上）
 国内外で起こった災害に関する情報を常に入手しておくこと。

【評価方法】

課題レポート20%、演習50%、実技試験30%
 レポートはコメントして返却します。

【テキスト】

系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学 医学書院、

【参考文献】

山崎達枝著 災害現場でのトリアージと応急処置 日本看護協会出版会
 勝見 敦編 災害救護—災害サイクルから考える看護実践— ニューヴェルヒロカワ

看護統合実習

担当教員 福島、生野、山本、上田、牛之濱、川本、杉野、二宮、松岡、大橋、緒方浩、落合、北原、齊藤、島村、田中、森口

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本科目は、基礎看護学実習、各専門領域の実習を履修し習得した看護実践能力を、さらに高めるための最終段階の臨床実習である。組織の概要、看護職と多職種との役割と連携の実際を理解し、チームの一員として、複数の対象者の看護を実践する。この実習における体験を考察し、自分の看護観を構築し自己の課題を明確にすることができる。

【授業の展開計画】

指導教員：看護師として病院勤務経験

詳細は、看護統合実習要項に提示する

実習期間：1学期令和2年6月29日～7月10日の10日間

実習施設：母性看護学 小児看護学 成人看護学 老年看護学 精神看護学 在宅看護学の領域の実習施設

【履修上の注意事項】

1. 臨地実習の集大成であり、学生の主体的かつ創造的な実習を期待する。体調管理には十分気をつける。
2. 事前学習として、実習施設の概要をHPより調べておく。また、領域実習との違いを明確にし、自己課題について対応策を考えて実習に臨む（90分）。
3. 事後学習として、他領域の発表を聞き、自分に不足していた点について整理し、視野を広げる（90分）。

【評価方法】

評価基準は、実習要項に記載されている各領域の実習評価表に基づく。60点以上を合格とする。フードバックとして、必要に応じて面接を行う。

【テキスト】

実習領域で提示されたもの

【参考文献】

既に学習したすべての文献・資料 担当教員・臨床指導者から提示されたもの

研究方法論

担当教員 柴田 恵子、志賀 潔、福本 久美子、森 信之、山本 恵子、牛之濱 久代、二宮 球美、上妻 尚子

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

大学は、学問の府であり、研究と教育の場である。その特性を活かした学習の一つが本科目である。研究には種々の方法があり、それぞれの研究の専門家から実際を学び、自身の研究への手掛かりを見出す。さらに実際に研究計画を立案し、卒業研究・論文作成を通して、研究的思考を経験することで研究的視点を理解する。

【授業の展開計画】

担当教員は大学での研究指導経験者である。ゼミはA群とB群に分かれる場合があり、A群（B群）が研究方法論を受講するときは、B群（A群）は卒業研究を受講する。A群、B群はゼミが決定後に発表する。第1CPUとは第1コンピューター室のことである。開講日時については、オリエンテーション時に確認すること。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：履修について、学習の進め方（柴田）
2	実験研究（志賀）
3	Microsoft Wordを使う：研究計画書作成の方法（山本）
4	研究倫理の基本理念：倫理審査申請書について（柴田）
5	文献検索の方法（福本直子、柴田）教室：第1CPUと各ゼミ研究室
6	Microsoft Excelを使う：表計算とグラフの作成（二宮）
7	看護質的研究から量的研究へ（柴田）
8	統計処理の実際（森）教室：第1CPU室と各ゼミ研究室
9	事例研究と倫理的問題（牛之濱）
10	臨床研究（上妻）
11	疫学の実例（福本久美子）
12	統計の実際（森）教室：第1CPU室と各ゼミ研究室
13	Power Pointを使う：研究発表（プレゼンテーション）の仕方（森）
14	【研究計画書】【緒言】【研究方法】の作成（柴田）
15	【研究計画書】【緒言】【研究方法】の提出、研究方法論のまとめ（柴田）

【履修上の注意事項】

○事前学習はノートを準備し講義内容について調べる。事後学習は授業の要点を記し、配布資料をファイルし、活用できるように整理し、復習する。○開講時間、グループ分けと使用教室の確認は各自が行なう。グループ分けは第1回目に所属ゼミが決まったのちに発表するので確認すること。○必要な人はパソコンを持参する。

【評価方法】

○前提条件は2/3以上の出席である。○筆記試験80%、学習態度・提出状況20%で評価する。○最終提出物は15回目、【緒言】【方法】【文献】はA4、約2枚、【研究計画書】は別紙A4、1枚で作成し提出する。

【テキスト】

・授業中に配布される教員の作成したプリント・資料など。随時紹介する。

【参考文献】

学術雑誌や看護関連学会雑誌に掲載された邦文、英文の論文（原著論文が望ましい）、卒業研究論文を活用する。

卒業研究

担当教員 徳富 芳子

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

3年間で修得した基礎・専門知識や経験をもとに、自ら考える自主性や主体的行動力、思考力を活用して問題解決にあたり、総合的な判断力を積み上げることを目的に、卒業研究を行う。

幅広い臨床・研究領域における新しい学際的知見を駆使しながら研究を進め、その過程を通して、広い視野で論理的に考える力、データを分析し適切に説明できる力を身につける。

【授業の展開計画】

問題解決型学習としてグループワーク等を取り入れながら、以下の内容に沿って進める。

- 第1週 オリエンテーション、研究テーマの検討
- 第2週 研究倫理について
- 第3週 文献検索・情報収集
- 第4週 論文抄読会
- 第5週 研究デザインの検討、研究の準備、研究手法の確認
- 第6週 研究計画書の作成
- 第7週 研究の実施、データ収集
- 第8週 データの整理、統計解析、図表の作成
- 第9週 進捗報告、ディスカッション
- 第10週 研究の実施、データ収集
- 第11週 データの整理・統計解析、図表の作成
- 第12週 進捗報告、ディスカッション
- 第13週 研究結果のまとめ・考察
- 第14週 研究発表プレゼンテーション資料の作成
- 第15週 報告会

【履修上の注意事項】

主体性を重視するが、分からないことや判断に迷うことがあれば、いつでも相談すること。

事前学習として各週の内容に沿った準備を行い、事後学習として授業時間内に終わらなかった部分を進めること。（合計3～4時間）

進捗状況によっては計画を修正する可能性もある。

【評価方法】

研究を進める過程での真摯な姿勢を重視する。

研究の過程における取り組み（50%）、報告会での成果（50%）を評価する。

進捗報告やディスカッションの際にフィードバックを行う。

【テキスト】

適宜紹介する。

【参考文献】

適宜紹介する。

卒業研究

担当教員 中川 武子

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

科目目的：研究に関する知識を身につけ、研究課題を解決するために必要な基礎的能力を養う。

到達目標：関心がある研究テーマを明確にできる。

研究の一連の流れを理解することができる。

研究方法論で学んだ知識を活かし研究計画書を作成することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	全体オリエンテーション
2	研究の進め方、文献・資料の集め方
3	研究方法の種類と研究テーマの方向性の検討
4	研究テーマに関する文献の検討①：各自の研究テーマに沿った文献検索の結果と検討結果の発表
5	研究テーマに関する文献の検討②：各自の研究テーマに沿った文献検索の結果と検討結果の発表
6	研究計画書作成：研究方法の明確化①
7	研究計画書作成：研究方法の明確化②
8	研究計画書作成：データ収集の明確化①
9	研究計画書作成：データ収集の明確化②
10	研究計画書作成：データ分析の明確化①
11	研究計画書作成：データ分析の明確化②
12	研究計画書の発表、検討、修正①
13	研究計画書の発表、検討、修正②
14	研究実施に関する方法性の検討①
15	研究実施に関する方法性の検討②

【履修上の注意事項】

学生間で積極的に意見交換を行う。

研究に必要な論文・参考資料を常に整理すること。

事前学習：授業展開計画を基に、研究計画書を文章化して臨むこと。（30分以上）

事後学習：意見交換を踏まえ、研究計画書の加筆・修正をすること（60分以上）

【評価方法】

論文の抄読・発表資料（30％）、発表（20％）、研究計画書作成（50％）

【テキスト】

小笠原喜康著 新版 大学生のためのレポート・論文術 講談社現代新書

【参考文献】

石井京子著 ナースのための質問紙調査とデータ分析 医学書院

卒業研究

担当教員 松岡 聖美

配当年次 4年

単位区分 必修

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. これまでの学習内容、実習体験、ディスカッション等から、研究課題を抽出することができる
2. 文献検討から課題の焦点化を図り研究計画書を作成できる

*主な内容は、小児保健、小児看護、教育方法、ジェンダー、虐待、ICT機器等となる

【授業の展開計画】

初回のオリエンテーションにて、授業展開についての詳細を示す。

文献検討は、自分の研究テーマに関連した文献を熟読し文献サマリーを準備する。ゼミ内でサマリーの発表をするため、わからない用語等は下調べをして臨む。各々が文献を読むことに加え、他者の選出した文献を読むことで視野を広げつつ研究目的を明確にしていく。また、様々な文献を目にすることで、多種多様な研究方法を学ぶことも目的の一部である。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、看護研究とは（ディスカッション）
2	文献検索の方法
3	文献検討（文献サマリーの書き方を学ぶ、ディスカッション）
4	文献検討（関心のあるものを1編持ち寄り、ディスカッション）
5	研究テーマ（仮）の発表
6	文献検討（クリティークとは、ディスカッション）
7	文献検討（他学生の文献から、自己の研究への示唆を得る）
8	文献検討（小児保健、小児看護、教育方法、ジェンダー、虐待等に関してディスカッション）
9	研究テーマの決定
10	研究背景の発表
11	研究方法の検討
12	研究計画書の作成
13	研究計画書の発表
14	研究計画書の修正
15	学会活動について

【履修上の注意事項】

1. 文献検討のために文献を詳読し文献概要を他者へ説明できる、もしくは他者からの質問に答えることができるように準備し、文献サマリーを作成すること（180分）
2. 毎回、自分の考えを述べることで出席したとみなす
3. 指示された準備物は、最低限用意すること
4. ゼミで学んだことは、次回の準備時、ゼミ時に実践すること

【評価方法】

ディスカッション（50%）、研究・ゼミ活動の主体的取組（20%）、課題（30%）

毎回の授業中にフィードバックを行う

【テキスト】

適宜紹介する

【参考文献】

黒田裕子の看護研究 Step by Step（医学書院）
マップ（医学書院）

文献レビューのきほん（医歯薬出版）

看護研究ガイド

卒業研究

担当教員 生野 繁子

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

創造的な看護実践の追求を系統的に学習する者の大学4年間の学習の集大成の位置づけである。看護者としての生涯学習の出発点となるよう研究の一連の過程を実践し理解できる。

【授業の展開計画】

1. グループディスカッションとレポート発表を中心のゼミ運営に積極的に参加することができる。
 2. 研究の一連の過程を理解し、そのうえで卒業研究論文に対して取り組む姿勢を持つことができる。
 3. 先行研究の読解力を身につけ、エビデンスを活用することができる。
- 注) 卒業研究論文のシラバスも参照のこと。

週	授 業 の 内 容
1	顔合わせ・導入・日程確認
2	テーマに近い論文・過去の卒業論文の紹介
3	自分の問題意識について
4	キーワードの説明
5	文献検索の実施
6	文献サマリーの作成
7	研究計画の作成
8	研究方法の吟味・検討
9	研究対象の確定
10	研究方法の確定
11	実施
12	結果のまとめ
13	結果の分析
14	考察
15	ゼミ報告会で進捗状況の発表

【履修上の注意事項】

- ・卒業研究論文を選択する学生は、この卒業研究から発展させること。
- ・自主的に研究に取り組む姿勢が重要であり、積極的に参加すること。
- ・ゼミでの司会進行・その他の役割を共同して果たすこと。
- ・事前に先行研究を読みサマリー化(約1時間)し、事後にコメントに基づき修正(約30分)すること。

【評価方法】

卒業研究論文を選択しない者は、卒業研究報告書を作成すること。その報告書内容50%と、発言内容50%の割合で総合的に評価する。卒業研究論文を選択する者は、指示されたレポートやレジュメ50%、発言内容50%の割合で総合的に評価する。サマリーやレポートに関してはゼミ中、直接フィードバックする。

【テキスト】

必要時適宜紹介する。

【参考文献】

必要時適宜紹介する。

卒業研究

担当教員 柴田 恵子

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

看護研究について理解し、実際に看護研究に取り組むための計画を立案する。看護研究を通して、臨床・研究領域において新しい学際的知見を積極的に取り入れることの意義を考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、看護研究とは
2	研究計画書について
3	研究における文献検索
4	文献を講読する
5	研究の目的
6	研究の方法：目的に沿った方法を考える
7	グループワーク：研究の方法について意見交換
8	研究デザイン
9	研究計画書の作成
10	グループワーク：計画書についての意見交換
11	研究の実施
12	研究計画書の見直し
13	研究発表
14	研究の評価
15	発表：看護研究についての学び

【履修上の注意事項】

締め切りを厳守し、目的を達成するために主体的に学習をすること
 実習等で欠席する場合は、その時間の授業内容に関するレポートを作成し提出すること
 予習、復習については、オリエンテーション時に指示するので、内容を確認すること

【評価方法】

学習状況、態度：40%、最終試験（レポート作成）：60%

【テキスト】

必要時、紹介する

【参考文献】

各自の研究目的、方法に合わせて紹介する

卒業研究

担当教員 福島 和代

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

原則として卒業研究論文作成を前提とする。研究方法論の講義を基に展開する。自分の疑問や気付きから、「知りたい」「明らかにしたい」へと自分の関心のあることを探求していく楽しさを知る。研究の一連の過程を経験し、看護専門職業人としての研究的視点を養うことができる。

【授業の展開計画】

毎回、グループメンバーで討議し、最終的に研究計画書を作成する。研究方法や論文構成等の基本的な内容については、研究論文要約の発表時に教員が具体的に解説したり、学生が調べて他のメンバーに説明する。

週	授 業 の 内 容
1	全体オリエンテーション
2	自分の疑問や気づきの発表（A4紙1枚：全員）、テーマ学習項目の分担
3	テーマ学習の発表（A4紙2枚：全員）と討議、文献検索と文献要約オリエンテーション
4	先行研究論文1篇の要約とテーマとの関係性について発表（A4紙2枚：全員）と討議
5	上記以外の先行研究論文1篇の要約とテーマとの関係性について発表（A4紙2枚：全員）と討議
6	上記以外の先行研究論文1篇の要約とテーマとの関係性について発表（A4紙2枚：全員）と討議
7	上記以外の先行研究論文1篇の要約とテーマとの関係性について発表（A4紙2枚：全員）と討議
8	上記以外の先行研究論文1篇の要約とテーマとの関係性について発表（A4紙2枚：全員）と討議
9	上記以外の先行研究論文1篇の要約とテーマとの関係性について発表（A4紙2枚：全員）と討議
10	研究疑問の整理、研究テーマ決定の発表（A4紙1枚：全員）と討議
11	今後の方向性（結果の予測と論点）の発表（A4紙1枚：全員）と討議
12	研究の動機、目的の発表（A4紙1枚：全員）と討議
13	緒言（背景、目的）、方法、文献一覧の発表（A4紙2枚）と討議
14	調査内容（アンケートやインタビューの質問内容）の発表と討議、緒言・方法・文献修正
15	まとめ、研究計画書と調査用紙の完成

【履修上の注意事項】

事前に文献検索やテーマに関する学習を行い、指示されたレジュメを作成し、人数（メンバー＋教員）分を準備し配布する。授業後は意見をもらった内容をもとに計画の修正を行う。コピー＆ペーストでなく、自分の言葉で書くこと。

他のメンバーの研究計画書を一緒に作り上げるという気持ちで積極的に取り組んでほしい。授業の進行状況によっては授業の展開計画を変更する可能性がある。その時は学生に提示する。

【評価方法】

指示されたレジュメ70%、受講態度30%の割合で総合的に評価する。フードバックとして、必要に応じて面接を行う。

【テキスト】

研究方法論で配布された資料を使用。必要に応じて適宜配布する。

【参考文献】

随時紹介する。

卒業研究

担当教員 福本 久美子

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

- ・創造的な看護実践の追求を系統的に学習する者の大学4年間の学習の集大成の位置づけ、看護師として生涯学習の出発点となるよう研究の一連の過程を経験する。
- ・研究計画を作成することで、看護師としての研究的な視点を養うことができる。

【授業の展開計画】

- (1) 研究課題(キーワード)
 - ①ライフスタイル②健康な地域づくり③高齢者の健康④労働者の健康⑤地域看護⑥公衆衛生看護
- (2) 授業の展開
 - 1 コマ：オリエンテーション
 - 2～5：文献抄読・文献検索
 - 6～7：研究方法の学習
 - 8～11：研究テーマの決定
 - 11～14：研究計画の作成
 - 15：報告会
- (3) 指導方法
 - ①個別指導とグループ指導を組み合わせる指導
 - ②全体の進行管理のため、あらかじめ卒業研究日を集中的に設定し指導

【履修上の注意事項】

- 1) 卒業研究論文を選択する学生は、この卒業研究から発展させること。
- 2) 文献学習の前に先行文献を読み込み、研究テーマを考えること(180分以上)。
- 3) 研究方法の学習前に研究方法に関する事前学習を行うこと(90分以上)
- 4) 研究計画を策定する場合、先行文献を充分調べ、自身で計画案を策定すること(180分以上)。
- 5) 研究指導後、事後学習を行い学びを深めること(180分以上)。

【評価方法】

- (1) 事前学習の実施状況(30%)や成果物としての「研究計画書(緒言・研究方法・計画書:70%)」の精度(研究背景や実現可能性、論理性等)により評価する。
- (2) フィードバックは学生間の報告会や自己評価等により行う。

【テキスト】

特に指定なし。必要時資料配布。

【参考文献】

足立はるゑ著：看護研究サポートブック（メディカ出版）。必要時適宜紹介する。

卒業研究

担当教員 山本 恵子

配当年次 4年

単位区分 必修

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

研究疑問を持ち、その解決のために文献検討を行い研究疑問を明確化できる。
研究手順とルールの概要を学ぶことができる。

【授業の展開計画】

基本的には、卒業研究論文とリンクして実施していく。

週	授 業 の 内 容
1	「気になること」を話し合う:研究疑問を各自発表
2	「なぜ気になるのか?」を話し合う:テーマの方向性を検討
3	研究方法の種類とは?:事例研究、調査研究など研究方法を提示
4	研究疑問を解決するには?:第3回の講義をもとに研究方法の検討
5	研究計画書作成:研究計画書作成上の注意
6	研究計画書作成:ゼミの中で研究計画書を検討①
7	研究計画書作成:ゼミの中で研究計画書を検討②
8	研究計画書作成:ゼミの中で研究計画書を検討③
9	文献レビュー:研究疑問について先行研究をまとめ発表①
10	文献レビュー:研究疑問について先行研究をまとめ発表②
11	文献レビュー:研究疑問について先行研究をまとめ発表③
12	研究計画書の見直し:文献検討を踏まえた修正の必要性を検討
13	研究の実施:調査依頼方法、調査の際の注意など
14	研究経過および計画書の発表
15	研究成果の発表・学会発表などにおけるルールなど

【履修上の注意事項】

- ・自主的に研究を進めること。履修の都合上（養護教諭などの実習）、授業の展開計画に添えない場合は、各自計画を立てて持参すること。それをもとに相談・協議の上、研究をすすめる。
- ・事前学習:授業展開を参考に自身の研究について検討し、文書を作成し参加すること(60分程度)。
- ・事後学習:意見交換を踏まえて、自身の研究を追加修正すること(30分程度)。

【評価方法】

研究手順に関することで70点、研究態度で30点の合計100点とする。詳細項目は評価表をもとに説明する。

【テキスト】

学生の進度に合わせて、適宜紹介する。

【参考文献】

学生の研究テーマに応じて、適宜紹介する。

卒業研究

担当教員 川本 起久子

配当年次 4年

単位区分 必修

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

関心のあるテーマから疑問を明確にできる。文献検討から自己のテーマに関する研究計画書を作成し、研究のプロセスを理解できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、テーマの確認
2	テーマの決定・文献抄読①
3	文献抄読②
4	文献抄読③
5	文献抄読④、研究方法の検討
6	文献抄読⑤、研究方法の検討
7	研究計画書の作成
8	研究計画書の修正、依頼文・調査票について
9	文献抄読⑥、依頼文・調査票の検討
10	文献抄読⑦、依頼文・調査票の検討
11	調査票の修正、分析方法検討
12	調査票の完成、依頼先確認
13	調査等の最終確認
14	結果・分析・考察について
15	研究成果発表

【履修上の注意事項】

自主的に取り組むこと。事前学習として、自己のテーマに関するレポートを作成して参加する(120分)。事後学習として、発表時の意見をもとに自己の研究を検討する(60分)。

【評価方法】

レポート25%、プレゼンテーション25%、研究計画書25%、研究態度25%で評価する。

【テキスト】

適宜紹介する

【参考文献】

適宜紹介する

卒業研究

担当教員 上妻 尚子

配当年次 4年

単位区分 必修

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ① 自らの興味・関心・疑問に基づいて研究テーマを決定し、テーマに基づいた文献検索を行なうことができる。
- ② 検索した論文のレジメを作成し、論文をクリティークすることができる。
- ③ 検索した文献を基に自身の研究方法を明確にし、研究計画書を作成することができる。
- ④ ①から③を通して論理的な思考を構築することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション 研究テーマとして考えていることを発表
2	文献検索 論文クリティークとは
3	論文詳読① 論文は教員提示
4	論文詳読② 論文は教員提示
5	文献検索結果の報告・意見交換
6	論文詳読③
7	論文詳読④
8	論文詳読⑤
9	論文詳読⑥
10	研究計画書作成
11	研究計画の発表・意見交換
12	論文詳読⑦
13	論文詳読⑧
14	研究計画修正
15	研究計画再発表 提出

【履修上の注意事項】

論文詳読③から⑧は、学生が分担して担当する。担当学生は、論文を選択し、当該論文の要約を作成する(A4 1枚)。授業前に全員が当該論文をクリティークする(事前学習)。授業後は授業での学びと自身の研究に反映させる点を整理する(事後学習)。5・11・15回のプレゼンテーションは、各自資料を準備する(A4 1-2枚)

【評価方法】

論文詳読およびプレゼンテーション時の資料(30%)、プレゼンテーション(20%)、研究手順および内容(30%)、受講態度(詳読会や意見交換時の意見発表等)(20%)より評価する。詳細は、オリエンテーション時に説明する。

【テキスト】

適宜紹介する。

【参考文献】

適宜紹介する。

卒業研究

担当教員 二宮 球美

配当年次 4年

単位区分 必修

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

研究とは何か。を知り説明できる。

看護研究の役割、看護研究の原理と方法を学び、論文作成までのプロセスを学び理解できる。

【授業の展開計画】

講義、演習、課題によって授業を展開します。

週	授 業 の 内 容
1	看護研究とは① 講義 看護研究の役割、科学的アプローチが理解できる
2	論文の抄読① 講義、演習 教員提示の論文で行う(1篇) 研究テーマの仮設定ができる
3	看護研究とは② 講義 研究プロセスの概観、文献検索について
4	論文の抄読② 演習 各学生の提示された論文で行う(2編) 批判的に文献を読む体験ができる
5	論文の抄読③ 演習 各学生の提示された論文で行う(2編) 批判的に文献を読む体験ができる
6	論文の抄読④ 演習 各学生の提示された論文で行う(2編) 研究テーマの仮決定ができる
7	研究計画書の作成① 演習 各学生が研究のプロセスを理解し、研究仮計画書を書くことができる
8	研究計画書の作成② 演習 各学生が研究のプロセスを理解し、研究計画書を書くことができる
9	論文のディベート① 講義、演習 各個人研究テーマに沿った論文(1篇)を用いて
10	論文のディベート② 講義、演習 各個人研究テーマに沿った論文(1篇)を用いて
11	論文のディベート③ 講義、演習 各個人研究テーマに沿った論文(1篇)、研究計画書の提出
12	測定とデータ収集及び研究計画の修正ができる
13	測定とデータ収集及び研究計画の修正ができる
14	測定とデータ収集及び研究計画の修正ができる
15	看護研究とは③ 講義 分析方法について理解できる

【履修上の注意事項】

シラバスに提示された講義演習計画に沿って、テキストの予習および自己課題の準備を行ってこよう。

自主性・積極性に基づく履修を望みます。事後学習として、文献検討などで各学生の自己課題明らかにし、継続的な研究の芽が芽生える努力をしてください。分析後の指導は個別指導が多くなりますので、積極的に自ら appointment を取り指導を受け思考してください。

【評価方法】

シラバスの設定提出物での評価 50%、研究の内容評価 50%

グループワークでのフィードバック及び個人指導で適宜フィードバックする。

【テキスト】

看護研究 原理と方法 D.F. ポーリット、B.P. ハングラー、監修近藤潤子、医学書院、2003. 12.

【参考文献】

ナースのための質的研究入門 ホロウェイ+ウィラー 監訳野口美和子、医学書院、2004. 5

これからの看護研究—基礎と応用—第2版、編集小笠原知枝、松木光子、Nouvelle HIROKAWA, 2008. 6

卒業研究

担当教員 杉野 由起子

配当年次 4年

単位区分 必修

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

看護や医療保健領域における事象から明確化された問題や疑問を解決する研究プロセスを習得します。また、参考文献を読み解きながら論文の形式知や研究方法を学び、研究計画書をまとめる能力を修得します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	研究の構造について
2	研究テーマを考える 1) 疑問と動機
3	研究テーマを考える 2) 疑問と動機
4	研究テーマを考える 3) 文献検索
5	研究の背景をまとめ目的を記述する1)
6	研究の背景をまとめ目的を記述する2)
7	研究方法の選択と記述方法
8	研究方法の選択と記述方法
9	分析方法の選択と記述方法
10	分析方法の選択と記述方法
11	研究倫理と倫理的配慮
12	研究計画書作成
13	研究計画書作成
14	研究計画書の発表
15	研究計画書の発表

【履修上の注意事項】

- ・第1回目の授業で配布したレジュメを毎回持参してください。
- ・適宜、授業で抄読会を行いますので積極的に発言しゼミ生同士で自主的に学ぶ姿勢を大切にしてください。
- ・事前にテキストを読み、理解できなかったところを授業で質問できるように準備して授業にのぞむこと。

【評価方法】

- ・報告書の内容90%、ディスカッションでの積極的な態度10%

【テキスト】

- ・山川みやえ 牧本清子 編著：よくわかる看護研究論文のクリティーク, 日本看護協会出版会

【参考文献】

- ・安部陽子 訳：看護研究のための文献レビュー マトリックス方式, 医学書院
- ・大木修一 著：看護研究・看護実践の質を高める文献レビューの基本, 医歯薬出版株式会社

卒業研究

担当教員 大橋 知子

配当年次 4年

単位区分 必修

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1) 研究の手順およびルールの概要を理解することができる。
- 2) 自分の興味・関心・疑問に思うことについて文献検索、文献検討を行い研究課題を明確にすることができる。
- 3) 課題解決に貢献する研究計画を立案することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	興味・関心のある事柄についてプレゼンテーション
2	テーマの方向性の検討
3	文献検索・検討・プレゼンテーション
4	文献検索・検討・プレゼンテーション
5	文献検索・検討・プレゼンテーション
6	文献検索・検討・プレゼンテーション
7	研究計画書の書き方について
8	研究計画書作成
9	研究計画書作成
10	研究計画書に基づくプレゼンテーション
11	研究計画書に基づくプレゼンテーション
12	研究計画書修正
13	研究計画書修正
14	研究成果のまとめと発表
15	研究成果のまとめと発表

【履修上の注意事項】

- 1) 自主的に進めること。
- 2) ゼミ間の意見交換を通じて研究検討を行うこと。
- 3) 自己のテーマに関する文献を収集し、熟読すること

【評価方法】

研究への取り組み40%、実施状況60%

【テキスト】

ゼミ生の進度に合わせて紹介する

【参考文献】

ゼミ生の進度に合わせて適時紹介する。

卒業研究

担当教員 牛之濱 久代

配当年次 4年

単位区分 必修

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

研究手順およびルールの概要を理解することができる。
 自分の興味・関心・疑問に思うことについて、文献検索・文献検討を行い、研究課題を明確にし、研究計画書を作成することができる。

【授業の展開計画】

卒業研究論文とリンクして実施する。

週	授 業 の 内 容
1	自分の興味・関心のある事柄、疑問に思うことについて各自発表する
2	テーマの方向性の検討
3	研究方法の種類について
4	研究課題を解決するための文献検索・検討；各自のテーマに沿って文献検索し検討結果を発表する
5	研究課題を解決するための文献検索・検討；各自のテーマに沿って文献検索し検討結果を発表する
6	研究課題を解決するための文献検索・検討；各自のテーマに沿って文献検索し検討結果を発表する
7	研究課題を解決するための文献検索・検討；各自のテーマに沿って文献検索し検討結果を発表する
8	研究課題を解決するための文献検索・検討；各自のテーマに沿って文献検索し検討結果を発表する
9	研究実施計画を立てる
10	研究計画書の書き方について
11	研究計画案と見直し
12	研究計画案と見直し
13	研究計画立案と見直し
14	研究計画書の作成と修正
15	研究計画書の作成と修正

【履修上の注意事項】

- ・履修の都合上、授業計画通りに展開できない場合は、各自の状況に応じて自主的に研究を進めていく。
- ・研究方法論をはじめ、既習学習内容を参考に自身の研究について検討し、計画書を作成すること。
- ・ゼミ生間の意見交換を通して、自他の研究に対する検討を行い、自身の研究に生かせるようにすること。
- ・事前学習として文献検索方法、文献カードの作り方、文献検討方法について予習すること（2時間）。
- ・事後学習として先行研究文献検討結果のまとめを行い、論文作成に役立てること（3時間）。

【評価方法】

研究への取り組み姿勢：40点、研究計画書：60点とする。

【テキスト】

ゼミの内容及び学生の進度に合わせ、適宜紹介する。

【参考文献】

学生のテーマやゼミの内容に応じて適宜紹介する。

卒業研究

担当教員 上田 智之

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

自己の関心のある看護に関して、研究疑問を明らかにし、文献を検討することによって疑問に対する現状と自己のテーマを明確化する。自己のテーマから科学的に探究するための研究プロセスを理解でき、研究方法や倫理的配慮を理解できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	研究疑問・動機を検討する
3	キーワードを検討する
4	文献検索について
5	文献検討について
6	文献抄読会
7	文献抄読会
8	研究計画書について
9	用語の定義
10	研究方法について
11	研究方法の検討：デザインの選択・対象者等の選択
12	倫理的配慮について
13	研究計画書作成
14	研究計画書修正
15	成果発表

【履修上の注意事項】

自己のテーマに関する文献を熟読し（事前学習：120分）、得られた知見をグループワークでしっかり述べ積極的に参加すること。得られた課題について振り返り、疑問を解決する（事後学習：120分）。

【評価方法】

参加態度30%、レポート20%、発表20%、研究計画書30%
レポート課題については、適宜講義内で解説する。

【テキスト】

適宜、紹介する。

【参考文献】

適宜、紹介する。

卒業研究論文

担当教員 柴田 恵子

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

研究論文の作成をとおして、研究の実際と研究を実施するために必要な事項を学び、臨床・研究領域において新しい学際的知見を積極的に取り入れる能力を身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	研究とは何か：文献から学ぶ	16	データの収集の実際
2	研究倫理について学習する	17	データの整理
3	文献を検索する	18	データの整理を見直す
4	文献を批判的に読む	19	データの分析
5	意見交換：文献の読み方について	20	意見交換：研究状況の報告
6	文献を再度、検索する	21	文章で表現する
7	研究目的を発表する	22	表現した文章を見直す
8	目的に合った方法を考える	23	文章の妥当性を検討する
9	意見交換：研究方法の妥当性について	24	意見交換：作成した論文について
10	計画書を作成する	25	論文を見直す
11	計画書を発表する	26	論文発表の準備をする
12	意見交換：研究計画書について	27	論文発表と評価（前半担当学生）
13	計画書を見直す	28	論文発表と評価（後半担当学生）
14	研究実施に向けた準備	29	論文を修正する
15	まとめ：研究計画書の提出	30	まとめ：研究論文で学んだことと提出

【履修上の注意事項】

締め切りを厳守し、主体的に研究に取り組み、研究論文を完成させること
 実習等で欠席する場合は、その時間の授業内容に関するレポートを作成し提出すること
 オリエンテーション時に予習、復習について説明をするので、内容については、その都度、確認すること。

【評価方法】

学習状況、態度：40%。研究計画書＋研究論文：60%

【テキスト】

必要時、紹介する

【参考文献】

必要時、紹介する

卒業研究論文

担当教員 福島 和代

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

大学4年間の集大成として、研究方法論・卒業研究の学びを基に、規定に添った論文を作成する。また、論文発表までの一連の過程を経験する。
自分が明らかにしたかったテーマにそった論文を作成することで、研究について理解し、研究的視点をもつことができる。

【授業の展開計画】

卒業研究と卒業研究論文作成は併行して実施する。1学期はグループワーク中心で行うが、2学期は教員との個人ワークを主に進めていく。卒業論文作成のみではなく、原則として論文作成後のプレゼンテーションを行う。

週	授業の内容	週	授業の内容
1	全体オリエンテーション	16	データの収集と整理
2	自分の疑問や気づきの発表	17	図・表作成
3	テーマ学習の発表と討議	18	データの読み込み
4	先行論文要約とテーマとの関係性発表と討議	19	研究結果の発表と討議（グループワーク）
5	別の論文要約とテーマとの関係性発表と討議	20	研究結果修正
6	別の論文要約とテーマとの関係性発表と討議	21	考察作成
7	別の論文要約とテーマとの関係性発表と討議	22	考察修正、結論作成
8	別の論文要約とテーマとの関係性発表と討議	23	結論修正、要旨作成
9	別の論文要約とテーマとの関係性発表と討議	24	要旨修正、研究論文作成
10	研究疑問の整理、テーマ決定の発表と討議	25	研究論文修正
11	今後の方向性の発表と討議	26	研究論文修正
12	研究の動機、目的の発表と討議	27	研究論文修正、プレゼンテーション準備
13	緒言、方法、文献の発表と討議	28	研究論文修正、プレゼンテーション準備
14	調査内容の発表と討議、緒言・方法修正	29	研究論文修正、プレゼンテーション（全員）
15	調査準備と調査依頼	30	まとめ、研究論文提出

【履修上の注意事項】

テーマに関する自己学習や多くの論文検索は、授業以外で行い、授業ではメンバーや教員とディスカッションできるように資料等を準備する。展開計画に沿って実施するためには、早めに準備を行う。授業後はもらったアドバイスを参考に修正を行う。教員との個人ワークの時間は、状況に応じて変更する可能性がある。その時は事前に学生に提示する。

【評価方法】

研究論文内容80%、受講態度20%の割合で総合的に評価する。
フィードバックとして、必要に応じて面接を行う。

【テキスト】

研究方法論の資料を使用する。必要に応じて適宜資料を配布する。

【参考文献】

適宜紹介する。

卒業研究論文

担当教員 杉野 由起子

配当年次 4年

開講時期 通年

単位区分 選択

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業研究で作成した研究計画書に基づき研究テーマを科学的に探求し新たな知見を論文にまとめることができる抄読会を通して研究方法による論文記述内容、エビデンスレベル、評価指標の違いを理解することができる

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	研究の構造について	16	研究実施（データ収集）
2	研究テーマを考える 1) 疑問と動機	17	研究実施（データ収集）
3	研究テーマを考える 2) 疑問と動機	18	研究の進捗状況報告
4	研究テーマを考える 3) 文献検索	19	研究結果のまとめと分析 ①
5	研究の背景をまとめ目的を記述する 1)	20	研究結果のまとめと分析 ②
6	研究の背景をまとめ目的を記述する 2)	21	図・表の書き方
7	研究方法の選択と記述方法	22	考察の書き方 ①
8	研究方法の選択と記述方法	23	考察の書き方 ②
9	分析方法の選択と記述方法	24	論文クリティーク/研究の進捗状況報告
10	分析方法の選択と記述方法	25	個人指導
11	研究倫理と倫理的配慮	26	個人指導
12	研究計画書作成	27	個人指導
13	研究計画書作成	28	個人指導
14	研究計画書発表	29	論文発表
15	研究計画書発表	30	論文発表

【履修上の注意事項】

論文完成までの計画を立てて自主的に進めていくこと、他の学生の意見や先行研究を参考にするなど柔軟な思考の展開を求めます。適宜、抄読会の論文を事前に配布しますので必ず読み通して参加してください。

【評価方法】

研究論文90%、参加態度5%、発表5%

【テキスト】

- ・ 山川みやえ, 牧本清子 編著：よくわかる看護研究論文のクリティーク, 日本看護協会出版会

【参考文献】

- ・ 安部陽子 訳：看護研究のための文献レビュー マトリックス方式, 医学書院
- ・ 大木修一 著：看護研究・看護実践の質を高める文献レビューの基本, 医歯薬出版株式会社

卒業研究論文

担当教員 上田 智之

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

卒業研究で作成した研究計画書に基づいて、自己の関心のあるテーマを科学的に探究し、研究論文を作成する

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	16	分析実施①
2	文献検討①	17	分析実施②
3	文献検討②	18	分析の妥当性の検討①
4	文献検討③	19	分析の妥当性の検討②
5	文献検討④	20	研究論文の作成：結果
6	研究計画書修正①	21	研究論文の作成：結果
7	研究計画書修正②	22	結果の発表
8	研究計画書発表①	23	研究論文の作成：考察
9	研究計画書発表②	24	研究論文の作成：考察
10	研究実施①	25	考察の発表
11	研究実施②	26	研究の限界と課題
12	データ整理①	27	成果発表①
13	データ整理②	28	研究論文修正
14	分析方法の検討①	29	研究論文修正・提出
15	分析方法の検討②	30	まとめ

【履修上の注意事項】

主体的に学習を深め、卒業研究論文を完成させること。
年間計画を各自で立案して計画的に進め、指定された方法で期日までに提出すること。

【評価方法】

参加態度30%、発表30%、研究論文50%

【テキスト】

適宜、紹介する。

【参考文献】

適宜、紹介する。

卒業研究論文

担当教員 大橋 知子

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

看護を体系的に探究し、主体的に看護の課題に取り組む体験を通して、研究的思考と態度を養う。

1. 事象への関心を深め、幅広く学問を探究し、批判的思考力を持つ。
2. 看護の機能と役割を広い視野でとらえ、保健医療・福祉システムの中で責任を担う姿勢を持つ。
3. 看護の専門職性および看護学の発展に寄与しようとする意欲を持つ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	研究とは	16	倫理委員会提出書類修正①
2	研究テーマの検討①	17	倫理委員会提出書類修正②
3	研究テーマの検討②	18	データ収集・分析①
4	研究テーマの検討③	19	データ収集・分析②
5	研究テーマの検討④	20	データ収集・分析③
6	研究計画書作成検討①	21	データ収集・分析④
7	研究計画書作成検討②	22	データ収集・分析⑤
8	研究計画書作成検討③	23	論文作成①
9	研究計画書作成検討④	24	論文作成②
10	ゼミ内での研究計画発表①	25	論文作成③
11	ゼミ内での研究計画発表②	26	プレゼンテーション準備①
12	研究計画修正①	27	プレゼンテーション準備②
13	研究計画修正②	28	ゼミ内での成果発表①
14	倫理委員会提出書類作成①	29	ゼミ内での成果発表②
15	倫理委員会提出書類作成②	30	研究のまとめ・文集作成

【履修上の注意事項】

指導教員と連絡をとり、研究の進め方を十分に話し合い、適宜アドバイスをもらう。

【評価方法】

研究への取組み40%、提出された論文内容60%

【テキスト】

指定しない。随時紹介する。

【参考文献】

指定しない。随時紹介する。

卒業研究論文

担当教員 牛之濱 久代

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

研究課題、研究目的に合った方法で研究を行い、結果を論文としてまとめることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	研究とは:研究の進め方	16	データ集計
2	研究テーマの検討	17	データのまとめ方:データの解釈
3	研究計画書作成について	18	考察について:考察の視点
4	文献検討方法	19	考察について:適切な文献引用
5	研究計画書作成・検討	20	謝辞と報告:研究協力者に対するマナー
6	研究計画書作成・検討	21	論文作成経過報告
7	調査依頼および調査実施方法	22	論文作成経過報告
8	研究計画書進行状況報告	23	ゼミ内での論文検討
9	研究開始	24	学生間の意見交換
10	研究進行状況報告	25	学生間の意見交換
11	研究方法妥当性検討および確認	26	研究限界と今後の課題
12	研究進捗状況報告	27	論文最終修正・完成
13	中間まとめ	28	研究報告準備
14	中間報告:研究経過を発表	29	研究報告会
15	研究進行状況報告	30	文集作成

【履修上の注意事項】

- ・4月中に年間計画を立案し、それに基づいて自主的に研究を進め、履修上困ったことがあれば相談すること。
- ・学生間の意見交換を活発に行い、自身の研究に生かすこと。
- ・事前学習として論文の書き方を予習すること（2時間）。
- ・事後学習として計画書作成、調査実施、結果集計と分析、論文作成までを振り返り自己の課題を明確化すること（2時間）。

【評価方法】

研究への取り組み姿勢（調査実施・まとめ・論文作成、自主性）：30点、完成した論文：70点とし、合計100点で評価する。

【テキスト】

必要資料は随時紹介する。

【参考文献】

各自の研究テーマに応じて適宜紹介する。

卒業研究論文

担当教員 徳富 芳子

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

3年間で修得した基礎・専門知識や経験をもとに、自ら考える自主性や主体的行動力、思考力を活用して問題解決にあたり、総合的な判断力を積み上げることを目的に、卒業研究を行う。

幅広い臨床・研究領域における新しい学際的知見を駆使しながら研究を進め、その過程を通して、広い視野で論理的に考える力、データを分析し適切に説明できる力、論文にまとめる力を身につける。

【授業の展開計画】

問題解決型学習としてグループワーク等を取り入れながら、以下の内容に沿って進める。

- 第1週 オリエンテーション、研究テーマの検討
- 第2週 研究倫理について
- 第3週 文献検索・情報収集
- 第4週 研究テーマの決定
- 第5週 研究デザインの検討、研究の準備、研究手法の確認
- 第6週 研究計画書の作成
- 第7～9週 研究の実施、データ収集
- 第10週 データの整理、統計解析、図表の作成
- 第11週 進捗報告、ディスカッション
- 第12～15週 研究の実施、データ収集
- 第16週 データの整理・統計解析、図表の作成
- 第17週 進捗報告、ディスカッション
- 第18週 研究結果のまとめ
- 第19週 研究結果をふまえた考察
- 第20週 研究論文（序論、研究方法）草稿の検討
- 第21週 研究論文（結果）草稿の検討
- 第22週 研究論文（考察）草稿の検討
- 第23週 研究発表要旨の作成
- 第24週 研究発表プレゼンテーション資料の作成
- 第25週 発表会
- 第26～29週 研究論文の作成
- 第30週 報告会

【履修上の注意事項】

自主性を重視するが、分からないことや判断に迷うことがあれば、いつでも相談すること。

事前学習として各週の内容に沿った準備を行い、事後学習として授業時間内に終わらなかった部分を進めること。（合計3～4時間）

進捗状況によっては計画を修正する可能性もある。

【評価方法】

研究を進める過程での真摯な姿勢を重視する。

研究の過程における取り組み（50%）、発表会・報告会・論文での成果（50%）を評価する。

進捗報告やディスカッションの際にフィードバックを行う。

【テキスト】

適宜紹介する。

【参考文献】

適宜紹介する。

卒業研究論文

担当教員 福本 久美子

配当年次 4年

開講時期 通年

単位区分 選択

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ・創造的な看護実践の追求を系統的に学習する者の大学4年間の学習の集大成の位置づけ、看護師としての生涯学習の出発点となるよう研究の一連の過程を経験する。
- ・卒業研究論文を作成することで、看護師としての研究的な視点を養うことができる。

【授業の展開計画】

(1) 研究課題(キーワード)

- ①ライフスタイル②健康な地域づくり③高齢者の健康④労働者の健康⑤公衆衛生看護⑥地域看護

(2) 授業の展開

- 1 : オリエンテーション
- 2～5 : 文献抄読・文献検索
- 6～7 : 研究方法の学習
- 8～11 : 研究テーマの決定、研究計画書の作成
- 11～14 : 研究計画の修正
- 15～17 : 調査などの実施
- 18～21 : 結果の整理、分析
- 22～27 : 論文作成
- 28～29 : 報告会及びまとめ
- 30 : 調査協力者への結果報告・まとめ

(3) 指導方法

- ①個別指導とグループ指導を組み合わせる
- ②全体の進行管理のため、合宿などを取り入れ集中的な指導を実施
- ③文献検索、データ処理方法等について、グループ指導

【履修上の注意事項】

- 1) 研究計画書作成のため、先行文献の検索などを行い、計画案を事前に作成する(180分以上)し、指導を受けること。
- 2) 地域で調査を行う場合、対象の選定や調整等を教員の指導のもと、事前に行うこと(180分以上)
- 3) 研究論文指導にあたっては、事前事後の予習復習(180分以上)を行い、学びを確かなものとする。

【評価方法】

- 1) 事前学習の実施状況(40%)や規定に基づく「卒業研究論文60%」の割合で総合的に評価する。
- 2) 学生間研究発表会による学生間評価、学生自身による自己評価、教員との面接によりフィードバックする。

【テキスト】

指定図書なし。必要時資料配布。

【参考文献】

足立はるゑ著：看護研究サポートブック（メディカ出版）。必要時適宜紹介する。

卒業研究論文

担当教員 山本 恵子

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

研究テーマに沿った文献検討を行い、研究目的に合った方法で研究を行い論文としてまとめることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	研究とは:研究の進め方	16	研究進行状況報告:中間報告会からの変更
2	研究テーマの検討	17	結果のまとめ方:データの見方
3	研究計画書作成に向けて	18	結果のまとめ方:注意点とポイント
4	文献検討の方法	19	考察について:適切な文献の引用
5	研究計画書作成・検討	20	考察について:研究の活用方法
6	調査依頼と調査実施方法	21	謝辞と報告:調査協力者に対するマナー
7	研究計画書の進行状況報告	22	論文の経過報告
8	研究開始:各自のペースで研究実施	23	論文の経過報告
9	研究進行状況報告	24	ゼミ内での査読
10	研究方法の妥当性を確認	25	研究に対する学生同士での意見交換
11	研究の進行状況報告	26	研究に対する学生同士での意見交換
12	研究の進行状況報告	27	研究限界について
13	プレゼンテーション方法	28	研究と臨床のリンク
14	中間報告に向けた準備	29	研究報告に向けた準備
15	中間報告会:研究経過を発表	30	研究報告会・文集作成

【履修上の注意事項】

- ・自主的に研究を進めること。履修の都合上（養護教諭の実習など）、授業の展開計画に添えない場合は、各自計画を立てて持参すること。それをもとに相談・協議の上、研究をすすめる。
- ・事前学習:授業展開を参考に4月中に年間計画を立案し協議する。各単元ごとに自身の研究のプレゼンテーションを行う。
- ・事後学習:意見交換を踏まえ、自身の研究を追加修正する。

【評価方法】

研究計画書および研究の実施・研究論文作成までのプロセスで80点（詳細は評価表にて説明する）
研究態度（研究倫理を含む）で20点（詳細は評価表にて説明する）の合計100点で評価する。

【テキスト】

なし。必要資料は適宜紹介する

【参考文献】

学生の研究テーマに応じて、適宜紹介する。

卒業研究論文

担当教員 川本 起久子

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

関心のあるテーマから研究目的を明確にし、研究の過程を実施し、論文を作成することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	テーマの確認	16	調査結果の分析①
2	文献検討①	17	調査結果の分析②
3	文献検討②	18	論文作成①
4	文献検討③	19	論文作成②
5	文献検討④、研究方法の検討	20	論文作成③
6	文献検討⑤、研究方法の検討	21	論文作成④
7	研究計画書の作成	22	論文作成⑤
8	研究計画書の完成、依頼文・調査票について	23	論文作成⑥
9	文献検討⑥、依頼文・調査票の検討	24	論文作成⑦
10	文献検討⑦、依頼文・調査票の検討	25	論文作成⑧
11	調査票の修正、分析方法検討	26	論文作成⑨
12	調査票の完成、依頼先確認	27	論文作成⑩
13	調査等の最終確認	28	論文作成⑪
14	結果・分析・考察について	29	論文作成⑫
15	中間報告会	30	論文の完成、提出

【履修上の注意事項】

自主的に取り組み、卒業研究論文を完成させること。事前学習(90分)として、ゼミの課題に取り組み参加する。事後学習(90分)として、追加修正する。

【評価方法】

卒業研究論文70%、研究態度30%で評価する。

【テキスト】

適宜紹介する

【参考文献】

適宜紹介する

卒業研究論文

担当教員 上妻 尚子

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

- ① 研究方法論および卒業研究での学びを基に、研究テーマに沿って研究を実施することができる。
- ② 得られた研究結果を分析し、規定に沿って論文を作成することができる。
- ③ 研究を行なうための一連の過程を理解することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	研究とは何か 研究の進め方	16	研究の実施 データ収集
2	文献検索	17	研究の実施 データ収集と整理
3	研究テーマの検討	18	データ整理と分析
4	研究目的の検討	19	データ分析・結果の明確化
5	文献検索と論文クリティーク	20	考察 先行研究との比較
6	研究テーマ・研究目的の明確化	21	考察 研究の限界・実践への示唆
7	研究方法の検討	22	論文の作成 結果の文章化
8	研究計画書の作成について	23	論文の作成 結果・方法の文章化
9	研究計画の発表・意見交換	24	論文の作成 考察の文章化
10	研究方法の再考	25	論文の作成 考察の見直しと再考
11	研究方法の明確化	26	論文の作成 緒言の見直しと要約の文章化
12	研究の実施 質問紙・プロトコール作成	27	研究発表
13	研究の実施 予備実験の実施	28	研究発表と意見交換
14	研究の実施 質問紙・プロトコールの検討	29	論文の修正
15	研究実施状況の報告・意見交換	30	論文の修正・提出

【履修上の注意事項】

学生個々の状況に応じて個別指導を取り入れいく。授業の展開計画は、研究テーマによって一部変更する場合もある。授業前は、各授業内容における自分の論文の進捗状況を確認し、必要に応じて資料等を作成する(事前学習)。授業後は、授業での学びを自分の論文作成に活用する(事後学習)。

【評価方法】

卒業研究論文(80%)と研究実施過程での手順および態度(20%)より評価する。

【テキスト】

適宜紹介する。

【参考文献】

適宜紹介する。

卒業研究論文

担当教員 二宮 球美

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

卒業研究の科目と連動して行う。主に研究論文作成のための方法及び作成を行い研究論文を完成出来ることを目的とする。

【授業の展開計画】

グループおよび個人の展開となるので、それぞれ教員と調整を行うこと

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	看護研究とは 講義	16	測定とデータ収集③
2	テーマ設定① 講義、演習	17	研究データの分析① 個人
3	テーマ設定② 個人 ブレーンストーミング	18	研究データの分析② 個人
4	テーマ設定③ 個人 グルーピング	19	研究データの分析③ 個人
5	テーマ設定④ グループディスカッション	20	研究データの分析評価 グループ
6	テーマ提出 グループワーク	21	研究データの分析評価 グループ
7	文献の抄読会①	22	論文本論の作成① 個人
8	文献の抄読会②	23	論文本論の作成② 個人
9	文献の抄読会③	24	論文本論の作成③ 個人
10	研究計画書のプレゼンテーション①グループ	25	論文本論の抄読会① グループ
11	研究計画書のプレゼンテーション②グループ	26	論文本論の抄読会② グループ
12	研究計画書のプレゼンテーション③グループ	27	論文本論の抄読会③ グループ 仮提出
13	研究計画書の決定	28	論文の読み合わせ、提出準備 グループ
14	測定とデータ収集①	29	論文の提出、学会へのエントリーなど
15	測定とデータ収集②	30	論文冊子の作成、関係各機関への返礼など

【履修上の注意事項】

事前学習として、与えられた課題を行い関連した文献を検索すること。シラバスを参考に自分の計画を修正して積極的に進めること。個人によってサポートは異なりますが、個人指導は個別スケジュールを設定いたします。その都度必要な助言はいたしますが、appointmentをとってください。事後の学習は指示されたものだけでなくその周辺の学びも行い、今後の研究の芽を芽吹く努力をすること。じっくりと研究に取り組むこと、文献をできるだけ多く読み、思考し研究の素地を創り出す努力を行ってください。

【評価方法】

卒業研究論文の内容 80%、グループワーク 20%
グループワークや個人指導の際に適宜フィードバックする。

【テキスト】

個人の研究に応じて提示いたします。

【参考文献】

すぐわかる統計処理・解析・多変量解析、石村貞夫、東京図書株式会社、質的研究への挑戦、舟島なをみ、医学書院、はじめての質的研究法、生涯発達・医療看護・臨床社会編、監修秋田喜代美、能智正博、東京図書

卒業研究論文

担当教員 中川 武子

配当年次 4年

開講時期 通年

単位区分 選択

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

科目目的：研究方法論・卒業研究で学んだ知識を活かし、研究論文作成の規定に則った論文を作成する。

到達目標：研究方法論で学んだ知識を活かすことができる。

研究計画書に則った方法で研究を実施することができる。

研究計画書に則り計画的に論文を作成することができる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	オリエンテーション	16	データ収集・調査①
2	文献抄読・意見交換	17	データ収集・調査②
3	研究方法学習①	18	データ入力・分析①
4	研究方法学習②	19	データ入力・分析②
5	テーマ決定	20	データ入力・分析③
6	文献抄読・意見交換①	21	データ入力・分析④
7	文献抄読・意見交換②	22	論文作成①
8	研究計画書作成①	23	論文作成②
9	研究計画書作成②	24	論文作成③
10	研究計画書修正	25	論文作成・修正①
11	研究計画書発表	26	論文作成・修正②
12	研究実施に向けた準備①	27	論文作成・修正③
13	研究実施に向けた準備②	28	報告会
14	研究実施に向けた準備③	29	論文提出
15	まとめ	30	まとめ

【履修上の注意事項】

卒業研究と並行して講義を進める。

学生間で意見交換・協力を行い、研究に必要な論文・参考資料を常に整理すること。

事前学習：授業展開計画を基に、研究を進めること。（30分以上）

事後学習：意見交換を踏まえ、研究論文の加筆・修正を行うこと。（60分以上）

【評価方法】

研究論文(60%) 研究への取り組み状況(40%)

【テキスト】

卒業研究に準ずる

【参考文献】

必要時、紹介する。

卒業研究論文

担当教員 松岡 聖美

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

1. 研究内容を文章化し他者へ発信することができる
2. 個人に見合った方法により、自らの学習行動を調整できる
3. 専門職として、卒業後の研究活動、学習活動についてイメージできる

【授業の展開計画】

研究方法論、卒業研究と連動し展開していくため、授業は不定期となる
初回の授業にて、詳細については示す

*主に、小児保健、小児看護、教育方法（アクティブラーニング）、ジェンダー、虐待、ICT機器について

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	看護職と研究の関連性について討議	16	データの入力、分類
2	仮研究テーマ設定	17	データの分析
3	関連文献の検索	18	分析結果の検討
4	関連文献の抄読	19	結果の文章化
5	研究背景の確認	20	結果の発表と検討
6	研究テーマ決定	21	内容妥当性の検討
7	研究対象、方法の検討	22	論文構成の再検討
8	倫理的配慮について確認	23	考察の文章化
9	分析方法の検討	24	考察の発表と検討
10	研究計画書作成	25	論文作成
11	研究計画書の検討	26	発表資料作成
12	中間発表	27	論文の発表
13	論文構成検討	28	ディスカッション
14	データ収集の準備	29	論文の修正
15	データ収集	30	論文冊子の作成

【履修上の注意事項】

1. 授業毎に課題を提示するため、各自学習し次回の授業に備えること（180分）
2. 課題を基に、授業内で他者との意見交換を行う
3. 種々の研究方法については、必ず事前に学習して授業に臨むこと
4. 授業後半は、個人指導となるため、教員との時間調整が必要である

【評価方法】

課題内容（50%）、最終提出された論文内容（20%）、学習の自己調整（30%）

課題に対するフィードバックを毎回行う

評価方法の詳細な基準については、初回ゼミにて提示する

【テキスト】

APAに学ぶ看護系論文執筆のルール．医学書院

【参考文献】

小論文・レポートの書き方：有限会社 人の森

学習設計マニュアル：「おとな」になるためのインストラクショナルデザイン．北大路書房

卒業研究論文

担当教員 生野 繁子

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

1. 大学での学習の集大成として研究方法論・卒業研究の学びを基に、規定に添った論文の作成ができる。
2. 看護学全般のテーマの中から、特に老年看護学・介護する家族の支援・ジェンダーの影響・男性看護師の展望などについて深めることができる。
3. ゼミ論文集としてとりまとめ、研究でお世話になった方々に配布することができる。

【授業の展開計画】

- 1学期 ディスカッションとレポート発表を中心にゼミを運営する。学期末にゼミ中間報告会を実施する。
2学期 各自の進度により、ゼミでの発表内容が変わることもある。11月～12月にゼミの最終発表会を実施し、抄録作成後、ゼミ卒業研究論文集として冊子を作成する。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	顔合わせ 導入	16	中間報告会の学びと今後の方向性の確認
2	テーマに近い論文の紹介	17	結果のまとめ・文献サマリー⑧
3	文献サマリー①	18	考察の方向性・文献サマリー⑨
4	文献サマリー②	19	考察の文章化・文献サマリー⑩
5	テーマやキーワードの説明①	20	論文全体の文章化
6	研究計画書①	21	卒業研究論文 草稿完成
7	文献サマリー③	22	卒業研究論文修正
8	研究計画書②	23	卒業研究論文修正
9	文献サマリー④⑤	24	卒業研究論文修正
10	研究計画書完成	25	発表準備
11	研究方法の具体化・調査表案等の提示	26	ゼミでの卒業研究発表会
12	文献サマリー⑥⑦	27	発表後の修正・抄録作成の説明
13	研究方法の具体化	28	抄録の作成
14	実施のための手続きの確認	29	抄録の完成
15	中間報告会を運営し発表する	30	ゼミ論文集の作成・完成

【履修上の注意事項】

- ・卒業研究から発展させ論文を作成する者は、看護学科卒業研究論文委員会の規定に添って論文を作成し、決められた手続きを経て、期日内に教務課に提出すること。
- ・ゼミで指示されたサマリーやレポートの提出期限、提出方法を守ること。
- ・自己学習の目安は事前事後とも約1時間以上必要である。
- ・期限内に全員が終了できるように個人の責任を果たすこと。

【評価方法】

完成した卒業研究論文50%、提出レポート30%、1・2学期を通したゼミでの発言内容20%の割合で総合的に評価する。ゼミ中に直接フィードバックしていく。

【テキスト】

必要時適宜紹介する。

【参考文献】

必要時適宜紹介する。

看護科教育法 I

担当教員 柴田 恵子

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 「看護」に興味を持ち、主体的な学習を継続できるようになるための教授 - 学習過程を考える。
2. 看護者・教育者としての資質を高めるために必要な自己の課題を明らかにする。
3. 「こころ」豊かな人間性を培い、生涯に亘って専門性を追求し自己研鑽に努める能力を身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、看護教育について学習した知識を確認する
2	看護教育制度の特徴
3	看護教育制度の変遷
4	看護基礎教育課程とその変遷
5	高校看護に関する基礎知識
6	高校看護における教授・学習活動
7	高校看護における評価
8	課題学習の報告：教授法-実習における教材化-
9	授業展開の基礎
10	授業展開の実際
11	授業展開と授業評価
12	教育実習の実際
13	学習指導要領の理解
14	学習指導要領：高校看護の理解
15	グループ討議と発表：職業教育-看護-

【履修上の注意事項】

講義のほかにそれぞれが課題をもって取り組む課題学習、グループ学習・発表を行い、教育者として必要な能力について学ぶ。第1回目のオリエンテーション時に授業計画を発表するので、必要な学習は事前に各自が行なってくる。課題の提出は予習でもあるので、必ず課題レポートを作成すること。また必要に応じてレポート提出を復習として課すことがある。

【評価方法】

筆記試験：60%、学習態度・状況(小テスト、レポート提出、グループ活動の参加と発表)：40%

【テキスト】

『看護教育学 第4版』杉森みど里・舟島なをみ（医学書院）、『高等学校学習指導要領解説 看護編』

【参考文献】

必要に応じて指示し、紹介する。

看護科教育法Ⅱ

担当教員 柴田 恵子

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

教壇実習で必要となる授業展開の実際について、模擬授業を実施することで習得する。講義、演習、実習で必要となる授業展開を理解する。看護科教育法の学習を通して、保健・医療・福祉専門職として相応しい高い知識と優れた技術を身につけた教員を目指すための自己の課題を明らかにする。

【授業の展開計画】

看護科教育法Ⅱは、看護科教育法Ⅰで学習したことを基に、模擬授業の準備と実施を経験することでさらに実践的教育のあり方について学習する。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、夏季休業中の課題を発表することで報告する
2	指導案の構成要素の確認
3	看護臨床実習指導の基礎知識
4	看護臨床実習指導：週案、日案の確認
5	模擬授業の知識、技術の確認
6	模擬授業の実際
7	模擬授業の評価
8	教育実習の報告会から教壇実習について考える
9	グループ討議：模擬授業
10	指導案の評価と修正
11	指導案作成のまとめ
12	看護臨床実習の指導計画案作成
13	看護臨床実習の評価と修正
14	グループ討議：職業教育-看護-における教授・学習活動
15	グループ発表：職業教育-看護-における教授・学習活動

【履修上の注意事項】

看護科教育法Ⅰを履修済みであること。看護科教育法Ⅰの履修を基にした授業展開を行なう。第1回目のオリエンテーション時に授業計画を発表するので、必要な学習は事前に各自が行なってくる。授業では前回の復習を行い、本時の内容と継続させながら学習をする。課題の提出は予習でもあるので、必ず課題レポートを作成すること。

【評価方法】

定期試験（筆記）：60%、学習態度（レポート提出状況、レポート内容、グループ討議時の発言状況）：40%

【テキスト】

第1学期に購入したテキストを引き続き使用する。『看護教育学 第5版』杉森みど里・舟島なをみ（医学書院）、『高等学校学習指導要領解説 看護編』

【参考文献】

必要に応じて指示し、紹介する。

学校保健

担当教員 古賀 由紀子

配当年次 2年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

児童生徒の発育・発達・健康、そして学校教育法につながる指導要領等の教育の基礎を把握するとともに、児童生徒の実態から保健教育・保健管理・組織活動の諸活動を考える。これら学校保健活動の計画と組織を教育計画と学校組織との関連でとらえ、教育の中の学校保健の全貌を述べることができる。

【授業の展開計画】

古賀：養護教諭として公立学校勤務経験

週	授 業 の 内 容
1	学校保健概論・・・学校保健と関連法、学校保健の目的、学校保健の構造
2	学校保健概論・・・学校保健の歴史
3	学校保健組織活動・・・学校保健関係者と各々の職務、学校保健組織と運営、関連組織
4	学校保健計画・・・学校教育目標との関連、保健室経営との関連
5	学校保健の対象・・・児童生徒の発育発達の現状と課題1. (発育・発達の実態)
6	学校保健の対象・・・児童生徒の発育発達の現状と課題2. (疾病異常、体力の実態)
7	学校保健の対象・・・心の健康問題、精神保健
8	学校保健活動・・・保健管理：領域側面、意義、方法
9	学校保健活動・・・保健管理：健康観察、健康相談
10	学校保健活動・・・保健管理：健康診断、保健調査
11	学校保健活動・・・保健管理：感染症予防
12	学校保健活動・・・保健管理：学校環境衛生
13	学校保健活動・・・安全管理：学校安全と危機管理、救急処置
14	学校保健活動・・・保健教育：学校における保健教育の考え方
15	学校保健活動・・・性教育、薬物乱用防止教育、食育

【履修上の注意事項】

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく(60分)。授業の復習を行うこと(60分)。

毎回、授業の振り返りと質問等を最後にかかせるが、内容を確認し、次時に返却する。前時の質問に対しては授業の最初に答える。

【評価方法】

筆記試験85%、レポート15%により評価する

【テキスト】

学校保健ハンドブック第6次改定 教員養成系大学保健協議会

【参考文献】

新訂 学校保健実務必携 第一法規

養護概説

担当教員 古賀 由紀子

配当年次 2年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

養護教諭の職務である保健教育、保健管理、救急看護、学校保健経営の4機能を理論的に理解し、具体的な職務内容と方法論で実証し、学校運営の中で、そして学校保健の各領域で養護教諭の職務がどう機能化するかを述べるができる。

【授業の展開計画】

古賀：養護教諭として公立学校勤務経験

週	授 業 の 内 容
1	養護の概念
2	養護教諭制度と歴史
3	養護教諭の専門性、養護教諭の倫理
4	養護教諭の活動拠点保健室ーその役割と機能
5	養護教諭の活動拠点保健室ー保健室経営計画
6	養護活動の過程
7	養護教諭の実践ー1 健康実態・健康問題の把握（健康観察・保健調査）
8	養護教諭の実践ー2 健康実態・健康問題の把握（健康診断）
9	養護教諭の実践ー3 支援の方法（救急処置活動）
10	養護教諭の実践ー4 支援の方法（健康相談）
11	養護教諭の実践ー5 養護活動の展開
12	養護教諭の実践ー6 環境整備（感染症予防、学校環境衛生）
13	養護教諭の実践ー7 健康教育活動（保健教育、保健だより）
14	養護教諭の実践ー8 組織活動
15	養護教諭と研究

【履修上の注意事項】

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく(60分)。授業の復習を行うこと(60分)。
 毎回、授業の振り返りと質問等を最後にかかせるが、内容を確認し、次時に返却する。
 前時間の質問に対しては授業の最初に答える。

【評価方法】

レポート15%、筆記試験85%として評価

【テキスト】

- ・新訂 養護概説 編集代表 三木とみ子 ぎょうせい
- ・「新訂版学校保健実務必携」 学校保健・安全実務研究会 第一法規

【参考文献】

冊子「学校保健」松本敬子編、「養護教諭の授業づくり」松本敬子他 東山書房

健康相談論

担当教員 古賀 由紀子

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

児童生徒の心の健康問題が深刻化し、保健室でも心身両面の対応が養護教諭の重要な職務として位置づけられていることを理解する。また養護教諭の専門性や保健室の機能を生かした相談活動としての「健康相談」について理論と方法について学習し、具体的に子どもの状態のとらえ方と対応について述べることができる。

【授業の展開計画】

古賀：養護教諭として公立学校勤務経験

週	授 業 の 内 容
1	児童生徒の心身の健康問題の現状と背景/健康相談の基本的理解
2	養護教諭の職務の特質及び保健室の機能と健康相談
3	健康相談と健康相談活動（学校保健安全法との関連）
4	健康相談に関連する諸理論
5	健康相談のプロセス
6	ヘルスアセスメントについて
7	健康相談における子ども理解の方法(演習含む)
8	健康相談での心理的理解
9	健康相談における連携
10	諸問題のとらえ方と関わり方
11	諸問題への具体的な対応について
12	事例から相談支援を具体的に学ぶ① 疾病を伴う事例
13	事例から相談支援を具体的に学ぶ② 非社会的行動、反社会的行動、生活上の課題を持つ事例
14	保健室登校と不登校のとらえ方と対応
15	健康相談における記録、力量形成・研究・研修

【履修上の注意事項】

授業の最後に課題を提示するので、その内容についてテキスト及び他の文献を用いて調べておくこと。(60分)それを次の授業で提出する。また毎回授業の最後に振り返りと質問をかかせる。確認後、次の授業で返却する。前時間の質問には授業の最初に応える

【評価方法】

レポート30%、まとめのテスト70%として評価する

【テキスト】

養護教諭の行う健康相談 大谷尚子・森田光子編 東山書房

【参考文献】

学校保健実務必携 第一法規

教育原理

担当教員 石村 秀登

配当年次 2年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

教育の特質や目的など、教育活動の根底にあるものを理論的に考察し、その本質を明らかにする。また、教育の歴史や思想から、現在の教育がどのようにして形づくられてきたのかを検討する。これらをとおして、教育の基礎的な理論を理解することができるようにする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション／授業全体の概要を示す。
2	教育の概念とそのはたらき／教育に対する基本的な考え方を整理する。
3	教育の特質／教育の特質を明らかにする。
4	教育の目的／教育目的の基本的性格を示し、わが国の具体的な教育目的について考える。
5	わが国の教育の歴史と思想（1）／明治期の教育の歴史と思想を明らかにする。
6	わが国の教育の歴史と思想（2）／大正～戦前の教育の歴史と思想を明らかにする。
7	わが国の教育の歴史と思想（3）／戦後の教育の姿を明らかにする。
8	西洋の教育の歴史と思想（1）／西洋近代学校の成立とその思想を明らかにする。
9	西洋の教育の歴史と思想（2）／近世～近代の教育思想を明らかにする。
10	西洋の教育の歴史と思想（3）／近代の教育思想を明らかにする。
11	西洋の教育の歴史と思想（4）／近代～現代の教育思想を明らかにする。
12	西洋の教育の歴史と思想（5）／現代の教育思想を明らかにする。
13	教育の実際／わが国の教育と諸外国の教育の実際について、その概要を示す。
14	課題／今後の教育の重要課題について、原理的考察を試みる。
15	まとめ

【履修上の注意事項】

教職課程における「教育の基礎的理解に関する科目」である。
事前にテキストを読み、事後には復習をしておくこと。（120分）

【評価方法】

学期末試験（90％）、小レポート（10％）によって評価する。

【テキスト】

石村華代・軽部勝一郎編著『教育の歴史と思想』ミネルヴァ書房、2013年。

【参考文献】

授業時に適宜紹介する。

教職論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 1年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- 1 教員の身分と役割, 義務と裁量権について理解する。
- 2 最近の, 教員を取り巻く状況や課題について理解する。
- 3 教員に関わる教育制度, 学校の組織構造, 学級経営の現代的問題理解を通して, 求められる新しい教師像と専門性について考察することができる。

【授業の展開計画】

授業の概要

授業においては, 各回のテーマに関連のあるニュース等を資料にするなど, 具体的な事象を基に考える場面づくりを設定する。

また, ペアによるディスカッションを随所に仕組んだ講義を中心に進め, 提示または配布した資料を基に自分なりの考えを導き出すような展開にする。

授業計画

- 第1回: 教職とは何か 教師の役割と使命感
- 第2回: 教職の意義と教員の立場
- 第3回: 教員の服務義務 (法的義務と現状)
- 第4回: 教育をめぐる現状と求められるもの
- 第5回: 社会と教員に求められる資質能力
- 第6回: 校務分掌と教員の多様な仕事
- 第7回: 教職員及び地域連携等によるチームとしての学校運営の在り方
- 第8回: 一人一人の児童・生徒を守る教師
- 第9回: 児童・生徒のための学校に
- 第10回: 学校・家庭・地域の役割と連携
- 第11回: 教員の資質の向上と研修制度
- 第12回: 教員の専門性の向上 免許更新制と教職大学院
- 第13回: 教員の不祥事とその背景にあるもの
- 第14回: 任命権者と教員採用の在り方
- 第15回: 教職への道

【履修上の注意事項】

- 1 ペアによるディスカッションをするため, ペアを作って着席する。
- 2 すべてペアに発言の機会があるので, 常に自分の考えを持って参加する。

【評価方法】

ディスカッションへの参加40%, 課題提出20%, 期末試験40%で評価する。
再試験は実施しない。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

毎回, 資料を配布する。参考資料については, 授業の中で随時提示する。

教育行政論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 2年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- 1 教育行政の基本概念を理解し，教育行政をめぐる諸問題について自分の考えを持つことができる。
- 2 日本国憲法及び教育基本法から導き出される教育の基本原則，及びその意義を理解する。
- 3 学校教育における具体的な事例について，その多くが教育行政と密接に関連していることを理解する。

【授業の展開計画】

学校教育における様々な場面において，事例や判例を基に，学校教育に関する様々な場面や課題を想定し，その実態と問題点に視点を向けさせる。

次に，その根拠となる関連法規や資料を判断基準として，実際の場面ではどのように判断すべきかについてのディスカッションを中心に展開する。

週	授 業 の 内 容
1	学校教育制度の目的と構造
2	教育行政①（教育委員会の制度と組織）
3	教育行政②（学校選択制の拡大，教育振興基本計画）
4	学校組織①（校長の職務と権限と職員会議の機能）
5	学校組織②（校長，副校長，教頭の資格要件とその緩和）
6	教頭・副校長の職務
7	養護教諭の職務①
8	養護教諭の職務②
9	主任制度
10	主幹教諭，指導教諭
11	教育無償化
12	教員の確保と給与制度
13	学習指導要領
14	教科書と教科書採択制度
15	特別支援教育

【履修上の注意事項】

- 1 ペアによるディスカッションをするため，ペアを作って着席する。
- 2 すべてのペアに発言の機会があるので，常に自分の考えを持って参加する。

【評価方法】

ディスカッションへの参加40%，課題提出20%，期末試験40%で評価する。
再試験は実施しない。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

毎回，資料を配布する。参考資料については，授業の中で随時提示する。

特別支援教育総論

担当教員 水間 宗幸

配当年次 1年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

特別支援教育の意義や目的を理解し、学習面、行動面などに困難を抱える子どもの理解を、発達心理的観点から理解し、それぞれの発達段階や特性に応じた教育および支援の在り方を考えることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：特別支援教育の概要と中教審「特別支援教育推進について」
2	特別支援教育と発達臨床心理学的考え方
3	知的機能などに制約がある子どもの理解と支援
4	運動機能などに制約がある子どもの理解と支援
5	見え、聞こえなどに制約がある子どもの理解と支援
6	読み書き計算などに制約がある子どもの理解と支援
7	注意集中力などに制約がある子どもの理解と支援
8	社会性の発達などに制約がある子どもの理解と支援
9	貧困や母国語など社会問題等によって発達に課題を抱える子どもの理解
10	教育課程の中の特別支援教育の理解
11	特別支援教育に関わるアセスメントについて
12	発達に制約がある子どもの二次障害への理解
13	不登校の理解と支援
14	虐待が発達に及ぼす影響の理解と支援
15	学習面、行動面に困難を抱える子どもを支える専門機関の理解

【履修上の注意事項】

予習・復習を行うこと。特に、次回の講義で扱う内容について、必ず教科書を読んでおき、復習時にはキーワードを自分のことばで説明できるようにしておくこと。

【評価方法】

試験で評価する(100%)。なお試験のフィードバックについては、希望者に個別に口頭で評価内容を伝える。

【テキスト】

はじめての特別支援教育--教職を目指す大学生のために 改訂版 (有斐閣アルマ)

【参考文献】

「発達障害の子どもたち」「発達障害のいま」とともに杉山登志郎、講談社現代新書。その他、適宜紹介する。

教育課程論

担当教員 未定

配当年次 1年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

学校教育における教育課程の役割や機能、教育課程編成の基本原則、並びに学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解するとともに、カリキュラム・マネジメントの意義について説明できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	教育課程とは：教育課程の意義
2	教育の目的と教育課程の編成原理
3	教育課程の歴史的展開と教育方法
4	日本における教育課程の歩み：戦前
5	日本における教育課程の歩み：戦後
6	教育課程の法と行政
7	学習指導要領の特徴と変遷（1）経験主義から系統主義、教育の現代化
8	学習指導要領の特徴と変遷（2）「ゆとり教育」と新学力観、「脱ゆとり教育」
9	教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法
10	児童又は生徒や学校、地域の実態を踏まえた教育課程や指導計画
11	学校教育課程全体のマネジメントおよび学習指導要領に規定する教育課程のマネジメント
12	授業計画（学習指導案）の作成
13	授業計画（学習指導案）の発表と相互検討
14	教育課程の経営と評価
15	今日の教育課題と教育課程：「学力」をどう捉えるか

【履修上の注意事項】

上記の計画は、受講者の数及びニーズに応じて一部変更する場合があります。事前にテキストを読み、事後には復習をしておくこと。（120分）

【評価方法】

期末レポート70%+リフレクションペーパー30%を原則とし、総合的に評価する。

【テキスト】

広岡義之編著『はじめての教育課程論』ミネルヴァ書房、2016年

【参考文献】

『学習指導要領』

道徳教育論

担当教員 未定

配当年次 4年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- 1) 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。
- 2) 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ、情報モラル等）
2	道徳教育の本質
3	学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び内容
4	道徳性 1（道徳教育の原則からみた道徳性）
5	道徳性 2（コールバーグの道徳性発達理論）
6	日本における道徳教育の史的展開
7	学校における道徳教育の現状（新基本法と学習指導要領）
8	「特別の教科 道徳」について
9	道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴
10	道徳科における教材の特徴を踏まえた授業設計
11	道徳授業の指導計画
12	道徳科の学習指導案の作成（模擬授業 1）
13	道徳科の学習指導案の作成（模擬授業 2）
14	道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方
15	道徳教育に関する今後の課題

【履修上の注意事項】

授業内ではディスカッション・ディベート等、話し合い活動を取り入れることが多い。
 参加的態度で臨むこと。
 教育界における「常識」をラディカルな次元に立ち返り疑ってみる鋭敏なセンスを養って欲しい。
 事前に配布資料を読み、事後には復習をしておくこと。

【評価方法】

原則として学期末試験（70％）、小レポート（30％）を評価の対象とする。

【テキスト】

本年度はテキストとして指定しないが、基本文献としてよいと思われるものを、授業中に提示する。

【参考文献】

石村秀登・末次弘幸編著『道徳教育の理論と実践』大学教育出版（2018年3月）、
 『「道徳」授業に何が出来るか』／宇佐美寛／明治図書

特別活動・総合的な学習の時間の指導法

担当教員 山本 孝司

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- 1) 特別活動の意義、目標及び内容について説明できる。
- 2) 特別活動の指導の在り方について説明できる。
- 3) 総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方について説明できる。(指導計画作成、評価を含む)。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	学習指導要領における特別活動の目標及び内容
2	教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連
3	学級活動・ホームルーム活動の特質(グループワーク、発表、ディスカッション)
4	児童会・生徒会活動の特質(グループワーク、発表、ディスカッション)
5	クラブ活動の特質(グループワーク、発表、ディスカッション)
6	学校行事の特質(グループワーク、発表、ディスカッション)
7	教育課程全体における特別活動の指導の在り方
8	特別活動における取組の評価・改善活動
9	合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義と指導の在り方
10	特別活動における家庭・地域住民や関係諸機関との連携の在り方
11	「総合的な学習の時間」の意義と教育課程において果たす役割
12	学習指導要領における「総合的な学習の時間」の目標
13	各教科等と関連させた「総合的な学習の時間」の年間指導計画の作成
14	探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立て(グループワーク、発表)
15	総合的な学習の時間における児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点

【履修上の注意事項】

授業には参加的態度で臨むこと。
 その他、授業外でも教育にかかわる情報をキャッチする鋭敏なアンテナを持ち合わせて欲しい。
 事前にテキストを読み、事後には復習をしておくこと。(120分)

【評価方法】

期末レポート(70%)、毎回授業時に提出するレポート(20%)、発表(10%)
 フィードバックとして課題レポートに対する解説を次の授業回に行う。

【テキスト】

(小・中・高)「学習指導要領―特別活動編」、(小・中・高)「学習指導要領―総合的な学習の時間編」

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

教育方法論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 2年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- 1 多様な学習者に配慮して「教授と学習」という視点に立った学習指導の方法を理解する。
- 2 学習や学校生活における様々な場面に対する対応方法について理解する。
- 3 授業効果を高めるための方法としての教育情報機器の利用について理解し、活用できるようになる。

【授業の展開計画】

まず、教育における方法論的な立場から、教育方法の歴史や組織面（形態）及び改革等について学ぶとともにその成果の評価について学習する。

次に、学習指導案を作成するために必要な多面的な視点をもとに、学習指導案を作成するための知識と技術を習得する。

さらに、教育効果を高めるために、各種情報機器の必要性を理解するとともに、その有効活用ができる知識と技術を習得する。

授業形態は講義とするが、ペア等によるディスカッションを随所に取り入れ、特に、資料（動画や図表等）から読み取る目を育てることに力点を置く。

授業計画

第1回：授業のねらいと展開の方法

第2回：教育方法の歴史

第3回：教育方法の種類と特質

第4回：教育方法の改革と課題① 学力形成の方法論

第5回：教育方法の改革と課題② 学習の形態と、教師と子どもの関係性

第6回：教育方法の改革と課題③ 学習の成果とその評価

第7回：学習指導の実際① 学習指導案作成の手順と目標設定

第8回：学習指導の実際② 指導計画と本時のねらい

第9回：学習指導の実際③ 授業準備と学習活動における指導上の留意点

第10回：学習指導の実際④ 思考の流れを育てるための学習展開の方法

第11回：教育情報機器の活用① 教育情報機器の例とその効果

第12回：教育情報機器の活用② 五感に訴える資料の条件

第13回：教育情報機器の活用③ プレゼンテーションの作成方法

第14回：具体的な場面における指導方法の実際①（生徒指導や生活に関する指導）

第15回：具体的な場面における指導方法の実際②（健康や安全に関する指導）

【履修上の注意事項】

- 1 ペアによるディスカッションをするため、ペアを作って着席する。
- 2 すべてのペアに発言の機会があるので、常に自分の考えを持って参加する。

【評価方法】

ディスカッションへの参加40%，課題提出20%，期末試験40%で評価する。

再試験は実施しない。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

毎回、資料を配布する。参考資料については、授業の中で随時提示する。

生徒指導・進路指導論

担当教員 未定

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1) 生徒指導の意義や原理を理解する。2) すべての児童生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。3) 児童生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校外の連携も含めた対応の在り方を理解する。4) 進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解する。5) 全ての児童生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解する。6) 児童生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	教育課程における生徒指導の位置付け
2	各教科、道德教育、総合的な学習の時間、特別活動における生徒指導の意義及び重要性
3	集団指導・個別指導の方法原理
4	生徒指導体制と教育相談体制
5	校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組
6	基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方
7	生徒の自己の存在感が育まれる場や機会の設定の在り方
8	生徒指導にかかわる法令（校則、懲戒、体罰、停学・退学等）
9	暴力行為、いじめ、不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応
10	生徒指導における学校と家庭、地域との連携の在り方（専門機関との連携を含む）
11	教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付け
12	学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方
13	キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義
14	生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義の理解とポートフォリオの活用の在り方
15	キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法

【履修上の注意事項】

授業へは参加的態度で臨むこと。
事前にテキストを読み、事後はテキスト、配布資料を読み返しておくこと。

【評価方法】

課題レポート（40%）＋学期末試験（60%）

【テキスト】

広岡義之編著『教育実践に役立つ生徒指導・進路指導論 - 「生徒指導提要」に触れつつ』あいり出版

【参考文献】

授業内で適宜紹介する。

生徒指導論

担当教員 未定

配当年次 2年

単位区分 要件外

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1) 生徒指導の意義や原理を理解する。
- 2) すべての児童生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。
- 3) 児童生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	生徒指導の今日的な意義と課題
2	教育課程における生徒指導の位置付け
3	各教科、道徳教育、総合的な学習の時間、特別活動における生徒指導の意義及び重要性
4	集団指導・個別指導の方法原理
5	生徒指導体制と教育相談体制
6	校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組
7	基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方
8	児童生徒の自己の存在感が育まれる場や機会の設定の在り方
9	生徒指導にかかわる法令（校則、懲戒、体罰、停学・退学等）
10	暴力行為、いじめ、不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応
11	生徒理解のための方法と技術
12	生徒指導における学級経営および地域や家庭との連携
13	進路指導の内容と計画
14	キャリア教育と生徒指導・進路指導
15	コミュニケーションと生徒指導—子どもの自己肯定感を高めるために

【履修上の注意事項】

授業内に課される活動には、積極的に参加をすること。
事前にテキストを読み、事後には復習をしておくこと。

【評価方法】

原則として学期末試験（60%）、小レポート（40%）を評価の対象とする。

【テキスト】

広岡義之編著『教育実践に役立つ生徒指導・進路指導論 - 「生徒指導提要」に触れつつ』あいり出版

【参考文献】

授業時に適宜紹介する。

教育相談（カウンセリングを含む）

担当教員 古賀 由紀子、豊永 亨輔

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

教育相談とは、一人一人の子どもの教育上の諸問題について本人または、保護者、教師などにその望ましい在り方について指導助言することを意味しているが、特に学校生活において不適応を訴える児童生徒、保護者に対して主として個別援助するとき、これらの悩みや問題行動に対してどのように理解し、具体的に対応していったらよいか説明できる。

【授業の展開計画】

古賀：養護教諭として公立学校勤務経験

豊永：教諭（教育相談担当）として県立高校勤務経験，スクールカウンセラーとして公立学校勤務経験

週	授 業 の 内 容
1	教育相談の考え方・教育相談の位置づけ、生徒指導と教育相談（古賀）
2	児童生徒理解の基礎—一般的理解（発育発達、疾病、問題行動等）（古賀）
3	児童生徒理解の基礎—個別的な理解（古賀）
4	包括的な教育相談体制（マルチレベルアプローチ）に取り組む（豊永）
5	学級で実施できるSST（グループワーク）（豊永）
6	学校で使えるアセスメントツール（豊永）
7	カウンセリングの理論と技法（豊永）
8	家族心理学（1）家族心理学の理論（豊永）
9	家族心理学（2）教育相談への応用（豊永）
10	認知と行動にアプローチする（認知行動療法）（豊永）
11	資源にアプローチする（豊永）
12	チーム援助と支援会議（豊永）
13	教育相談の担い手（学級担任、教育相談担当者、養護教諭、スクールカウンセラー他）（古賀）
14	教育相談の機関と支援ネットワーク（古賀）
15	教育相談充実のための方策（古賀）

【履修上の注意事項】

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく(60分)。授業の復習を行うこと(60分)。

。毎回、授業の振り返りと質問等を最後にかかせるが、内容を確認し、次時に返却する。

前回の質問に対しては授業の最初に応える。

【評価方法】

レポート等20%，試験80%により評価する

【テキスト】

テキストは特になし。随時プリントを配布する。

【参考文献】

「新しい学校教育相談の在り方と進め方—教育相談系の役割と活動—」栗原慎二著 ほんの森出版

教育実習（事前事後指導を含む）

担当教員 柴田 恵子、嶋 政弘、未定、古賀 由紀子、吉岡 久美、水間 宗幸、古江 佳織

配当年次 4年

開講時期 通年

単位区分 要件外

授業形態 実習

単位数 3

準備事項

備考

【授業のねらい】

本学における教職課程で学んだ理論をもとに、学校現場における教育の実践的経験を通して、高校教諭に必要な資質や専門性、実践的指導力をもつことができる。

【授業の展開計画】

1. 事前指導（3年次～4年次実習前）

教育実習の意義・心得、実習の内容や過程の理解、教育現場の事前理解、指導案の作成、実習に必要な知識・技術・技能の獲得、及び実習校の確定とその手続き、実習校との打ち合わせにかかわる実際的な指導

2. 教育実習（4年次、2週間）

実習校の指導のもとで実習を行う

3. 事後指導（4年次、実習後）

実習に関する反省と指導一体験内容の相互共有により実習経験の充実・深化をはかる。また終了レポートの作成、自己評価、体験発表、討論会等を行う。

*なお、事前事後指導については、別途指導計画表を配布する。とくに3年次は専門の実習の関係で、事前指導の日程は、変動的に組まれるので注意すること。初回のガイダンスで詳細に説明する。

【履修上の注意事項】

高校教諭1種免許状の取得希望者のみ。履修に当たっては教職課程履修細則が適用されるので、よく確認すること。

事前準備、事後の復習については担当者の指示に従うこと。

【評価方法】

実習校による評価（60%）、実習録・実習終了レポートによる評価（10%）、事前事後指導における平常の評価（授業態度等）（10%）、事前事後指導におけるレポート等による評価（20%）。

なお、事前事後指導、本実習のすべてにおいて、無断欠席は認められないので厳重に慎むこと。

【テキスト】

特に使用しない。資料を配布する。

【参考文献】

適宜紹介する。

養護実習（事前事後指導を含む）

担当教員 柴田 恵子、嶋 政弘、未定、古賀 由紀子、吉岡 久美、水間 宗幸、古江 佳織

配当年次 4年

開講時期 通年

単位区分 要件外

授業形態 実習

単位数 5

準備事項

備考

【授業のねらい】

①保健室のあり方及び養護教諭の果たすべき役割と「養護」の対象である児童生徒の心身、生活の状況、健康問題について実習校の実態に基づいて述べるができる。②保健室に来室する児童生徒に対応する中で、健康問題の発見・把握、健康問題の解決、予防のための指導などを適切に行うことができる。③自らが養護教諭になった時の姿（養護教諭像）を描くことができる。

【授業の展開計画】

1. 15日間の実習を行うものとする
2. 実習の全期間を通じて学校教育の目的と、それを実現するための教育計画、教育課程、その他の日常教育活動及び、学校運営機構とその機能について理解を深めるとともに、学校教育のあらゆる場における養護教諭の活動について必要な事項を習得する。
3. 実習校における実習は、主に「講義」「観察」「参加」「実習」という方法で行われる。

【履修上の注意事項】

- ・実習に当たっては1単位の事前事後指導を受けること（養護教諭に必要な資質として救急処置の演習を含む）
- ・履修に当たっては教職課程履修細則が適用されるのでよく確認をすること
- ・実習校の計画に基づき実習を行なうこと
- ・実習の事前学習を行うこと（学校組織、子どもの発育・発達、養護活動など）また、実習後には振り返りレポートを書くこと。

【評価方法】

実習校における評価（70%）、実習録・実習終了レポートによる評価（10%）、事前事後指導における平常の評価（態度、意欲、授業参加等）、事前事後指導におけるレポートによる評価（20%）
なお、事前事後指導、本実習のすべてにおいて、無断欠席は認められない。

【テキスト】

養護実習の手引き及び配布資料

【参考文献】

適宜紹介する

教職実践演習（高）

担当教員 柴田 恵子、嶋 政弘、未定、古賀 由紀子、吉岡 久美、水間 宗幸、古江 佳織、森口 範子

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

これまでの履修内容を統合することで確かな実践的指導力を身につける。具体的には、①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児・児童・生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科・保育内容等の指導力に関する事項、に関する知識・技術を修得し、実践が行えるようになる。

【授業の展開計画】

- I 教師に関する研究(教育実習自己評価用紙を基に自己省察を行う)
自己省察(教育実習自己評価用紙を基に)
- II 学校教育におけるエコロジカルアプローチ(事例研究や対人援助技術を学び最新の子どもの発達に関する理解を深める)
(1)事例研究(保護者地域社会との連携・協働について)
(2)学校に関連した対人援助技術を学ぶ(保護者との関係性の構築の仕方等に関するロールプレイングを含む)
(3)最近の知見に基づく子どもの発達に関する理解を深める。
- III 授業研究(実習生による模擬授業の実施と現職教諭を交えての授業研究を行う)
(1)実習生による模擬授業の実施と現職教諭を交えての授業研究(その1)
(2)実習生による模擬授業の実施と現職教諭を交えての授業研究(その2)
(3)実習生による模擬授業の実施と現職教諭を交えての授業研究(その3)
- IV 生徒指導(生徒指導の在り方及び不登校といじめ問題・ロールプレイングを含めた事例研究を行う)
(1)生徒指導の在り方について(「生徒指導上の諸問題の現状について」)を基に
(2)事例研究(不登校といじめ問題等)
(3)事例研究(ロールプレイング含む)
- V 児童・生徒理解(玉名市内のスクールボランティア協力校・学校支援・市内協力高校でのフィールド学習を実施する)
(1)スクールボランティアを活用したフィールド学習
(2)スクールボランティアを活用したフィールド学習
(3)スクールボランティアを活用したフィールド学習
(4)フィールド学習の振り返りと評価

VI 総括

【履修上の注意事項】

事前準備、事後の復習に関しては担当者の指示に従うこと。

【評価方法】

①授業態度 (30%)、②ポートフォリオを通しての評価 (50%)、外部講師による評価 (20%)

【テキスト】

【参考文献】

教職実践演習（養護教諭）

担当教員 柴田 恵子、嶋 政弘、未定、古賀 由紀子、吉岡 久美、水間 宗幸、古江 佳織、森口 範子

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

これまでの履修内容を統合すること確かな実践的指導力が身につける。具体的には、①自らの養護教諭としての実践実習を評価しまとめることができる。②自らの能力・適性（資質）について、自ら描く養護教諭像と照らし合わせて研鑽すべき課題を述べるができる、ということである。

【授業の展開計画】

養護実習の学びを振り返り学校運営についての理解を確認するとともに、学校フィールドで再度児童生徒の理解を深める。学校保健を構成する保健教育・保健管理について、集団指導としての模擬授業、個別指導としての場面指導等の演習を通して実践的指導力を確認する。また課題解決のために組織活動をどのように行っていったらよいかを考える。具体的には下記授業計画のとおり。

- I 「教師」に関する研究
 - 自己省察（養護実習自己評価紙を基に）（実習担当者）
- II 学校教育におけるエコロジカルアプローチ
 - (1) 事例研究（保護者・地域社会との連携・協働について）
 - (2) 学校に関連した対人援助技術を学ぶ（保護者との関係性の構築の仕方等に関するロールプレイングを含む）
 - (3) 最近の知見に基づく子どもの発達に関する理解を深める。LD、ADHDをはじめとする特別支援教育に関する実践の基盤
- III 授業研究
 - 模擬授業または現場での授業実施と現職教諭を交えての授業研究会(その1)～(その3)
- IV 健康問題への解決支援
 - 個別指導の場面指導(疾病の場面指導)
 - 個別指導の場面指導(生徒指導の場面指導：性の問題)
 - 個別指導の場面指導(健康相談)
- V 児童生徒理解
 - (1) スクールボランティアを活用したフィールド学習（1）～（3）
 - (4) フィールド学習の振り返りと評価

【履修上の注意事項】

これまでの教職に関する学習の総まとめの意味があるので、毎回関連する既習科目を復習し演習に臨むこと。授業後は、行った演習を振り返り記録しポートフォリオを作成すること。

【評価方法】

講義についてのレポート、演習後の記録、グループワークでの活動、振り返りでの討論等を総合して評価する。

【テキスト】

新しく購入するものは特になし。これまで使った教科書や資料を利用する。

【参考文献】

公衆衛生看護活動展開論 I

担当教員 中川 武子、福本 久美子、古賀 由紀子、福田 久美子

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義・演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

科目目的：ライフステージごとの健康課題を明らかにし、対象に応じた人権尊重を基盤とした保健活動ができる能力を養う。

到達目標：母子・成人・高齢者・学校・産業等の対象者の現状と課題が理解できる。

個人、家族、集団の支援を結び付ける見方を理解できる。

社会問題化しているテーマを取り上げ、問題の構造化と分析、支援活動の提案ができる。

【授業の展開計画】

中川：保健師として保健センター勤務経験 看護師として病院勤務経験

福本：保健師として保健所等勤務経験 看護師として病院勤務経験

福田：保健師として町役場勤務経験 看護師として病院勤務経験

古賀：養護教諭として学校勤務経験

外部講師：保健師として町役場勤務経験 看護師として病院勤務経験

週	授 業 の 内 容
1	講義) 対象者の理解：生活者としての個人・家族・グループの理解 (中川・福本・福田)
2	講義) 母子保健：母子保健医療福祉の動向と母子保健及び子どもの健康課題と支援 (中川)
3	講義) 母子保健：支援ニーズが高い対象と虐待防止における保健活動と支援 (中川)
4	講義) 母子保健：女性のライフステージと子育てリスクを持つ親子への保健指導 (中川・外部講師)
5	講義) 成人保健：成人保健医療福祉の動向 (中川)
6	講義) 成人保健：成人保健における健康課題と支援 (1) (中川)
7	講義) 成人保健：成人保健における健康課題と支援 (2) (中川)
8	講義) 高齢者保健：高齢者の保健医療福祉の動向 (福田)
9	講義) 高齢者保健：高齢者の健康課題と支援 (福田)
10	講義) 学校保健：学校保健の動向及び制度と仕組み (古賀)
11	講義) 学校保健：学校保健における対象者の健康課題への対策と支援 (古賀)
12	講義) 産業保健：産業保健の動向及び制度と仕組み (福本)
13	講義) 産業保健：産業保健における健康課題及び産業保健活動の実際 (福本)
14	演習) 母性・成人・高齢者・学校・産業保健に関するテーマ学習の発表 (中川・福本・福田)
15	講義) ライフステージをつなげて考える保健活動の組み立て (中川・福本・福田)

【履修上の注意事項】

母子・成人・高齢者・学校・産業保健対策等、メディア・新聞等から健康に関する情報を収集すること。

事前学習：教科書の該当範囲を読み、不明な用語を調べて講義に臨むこと (30分以上)。

事後学習：講義の内容を教科書や配布資料などで確認整理すること (60分以上)。

グループワーク：学習発表資料を事前に準備すること (180分以上)。

【評価方法】

定期試験 40% 課題レポート40% 発表20%

講義後の質問への回答、発表会のまとめなどフィードバックを行う。

課題レポートはコメントして返却します。

【テキスト】

標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動 医学書院

公衆衛生看護学概論及び国民衛生の動向 (公衆衛生看護概論にて購入したテキスト)

【参考文献】

井伊久美子他編集 保健師業務要覧 (第4版) 日本看護協会出版会

公衆衛生看護活動展開論Ⅱ

担当教員 中川 武子、福本 久美子、福田 久美子

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義・演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

科目目的：健康に障がいを抱える対象者の健康課題を明らかにしその解決に必要な基礎的能力を養う。
 到達目標：障がい者（児）および感染症・結核、精神、難病、歯科等の対象者の現状と課題が理解できる。
 それぞれの対象者に応じた支援方法が理解できる。
 広域的に保健活動を展開する実践方法が理解できる。

【授業の展開計画】

中川：保健師として保健センター勤務経験 看護師として病院勤務経験
 福本：保健師として保健所等勤務経験 看護師として病院勤務経験
 福田：保健師として町役場勤務経験 看護師として病院勤務経験
 外部講師：保健師として保健所等勤務経験

週	授 業 の 内 容
1	講義) 障害者（児）保健福祉活動：障害者（児）の保健医療福祉の動向（中川）
2	講義) 障害者（児）保健福祉活動：障害者（児）の健康課題と保健指導（中川）
3	講義) 精神保健活動：精神保健医療福祉の動向（福本）
4	講義) 精神保健活動：精神保健医の健康課題と支援（福本）
5	講義) 精神保健活動：地域における支援が必要な精神疾患と支援の特徴（福本）
6	講義) 難病保健活動：難病保健医療福祉の動向（中川）
7	講義) 難病保健活動：難病患者の健康課題と支援（中川）
8	講義) 難病保健対策：難病療養者の生活と保健指導の実際（中川・外部講師）
9	講義) 感染症の保健活動：感染症対策の動向と感染症対策（中川）
10	講義) 感染症の保健活動：感染症対策における疾病管理と支援の特徴（中川）
11	講義) 感染症の保健活動：予防接種と学校における感染症対策（中川）
12	講義) 感染症の保健活動：結核発生における保健指導の実際（中川・外部講師）
13	講義) 歯科保健：歯科保健の動向および口腔保健の維持と歯科保健活動（福田）
14	演習) 障害者・精神・難病・感染症・結核・歯科に関するテーマ学習の発表（中川・福本・福田）
15	講義) 健康課題別健康保健指導のまとめ（中川・福本・福田）

【履修上の注意事項】

公衆衛生看護活動展開論Ⅰを履修しておくことが望ましい。
 障害者・精神・難病・感染症・口腔保健対策等、メディア・新聞等から健康に関する情報収集を収集すること。
 事前学習：教科書の該当範囲を読み、不明な用語を調べてくること（30分以上）。
 事後学習：講義内容を元に配布資料の確認整理をすること（60分以上）。

【評価方法】

定期試験 40% 課題レポート 40% 発表 20%
 課題レポートはコメントして返却します。

【テキスト】

標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動 医学書院（公衆衛生看護活動展開論Ⅰにて使用したテキスト）
 公衆衛生看護学概論および国民衛生の動向（公衆衛生看護学概論にて使用したテキスト）

【参考文献】

井伊久美子他編集 保健師業務要覧 日本看護協会出版会

公衆衛生看護活動展開論Ⅲ

担当教員 中川 武子、福本 久美子、福田 久美子

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義・演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

科目目的：個人・家族の健康増進を図るための健康課題を明らかにしその解決に必要な基礎的能力を養う。
 到達目標：個人・家族・改善するための計画立案、支援方法、展開方法、評価方法が理解できる。
 健康相談、健康診査・健診、家庭訪問等における基本的支援技術を身につけることができる。

【授業の展開計画】

中川：保健師として保健センター勤務経験 看護師として病院勤務経験
 福本：保健師として保健所等勤務経験 看護師として病院勤務経験
 福田：保健師として町役場勤務経験 看護師として病院勤務経験

週	授 業 の 内 容
1	講義) 保健行動と保健指導 (中川)
2	講義) 健康相談：健康相談の目的・対象・方法、健康相談援助の基本姿勢 (福田)
3	講義) 健康相談：健康相談援助 (中川)
4	演習) 健康相談：健康相談事例の検討 (中川・福本・福田)
5	講義) 健康診査：健康診査の目的・対象・種類・方法 (中川)
6	演習) 健康診査：乳幼児・成人に対する健康診査事業における保健指導 (中川・福本・福田)
7	講義) 家庭訪問：家庭訪問の特徴、根拠法令、訪問対象の把握方法 (中川)
8	講義) 家庭訪問：家庭訪問の優先順位 受け入れ困難なケースの対応 (中川)
9	演習) 家庭訪問：事例の訪問計画作成 (新生児・成人・高齢者・精神・結核) (中川・福本・福田)
10	演習) 家庭訪問：事例の訪問計画作成 (新生児・成人・高齢者・精神・結核) (中川・福本・福田)
11	演習) 家庭訪問：事例のアセスメント・訪問事例の計画発表 (中川・福本・福田)
12	演習) 家庭訪問：事例のアセスメント・訪問事例の計画発表 (中川・福本・福田)
13	演習) 家庭訪問：新生児家庭訪問のロールプレイ (中川・福本・福田)
14	演習) 家庭訪問：新生児家庭訪問のロールプレイ (中川・福本・福田)
15	講義) まとめ 既存資料による実習地区の特徴把握 (中川・福本・福田)

【履修上の注意事項】

事前学習：教科書の該当範囲を読むこと。(30分以上)
 事後学習：講義・演習内容を基に配布資料を確認整理すること。(60分以上)
 学生主体で演習ができるよう計画性をもって臨むこと。

【評価方法】

課題レポート30%、演習30% 実技試験40%
 レポートはコメントして返却します。

【テキスト】

荒賀直子編著 公衆衛生看護学 インターメディカル (公衆衛生看護学概論にて使用したテキスト)
 福岡地区小児科医会乳幼児保健委員会編、乳幼児健診マニュアル、医学書院。

【参考文献】

標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論 医学書院
 標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動 医学書院

公衆衛生看護活動展開論Ⅳ

担当教員 中川 武子、福本 久美子、上田 智之、福田 久美子

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義・演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

科目目的：グループ・集団の健康増進を図るための健康課題を明らかにしその解決に必要な基礎的能力を養う。
 到達目標：地域にあるグループ・集団が抱える健康課題を明らかにできる。
 対象者の健康課題を改善するための計画立案、支援方法、展開方法、評価方法が理解できる。
 健康教育における一連のプロセスと基本的支援技術を身につけることができる。

【授業の展開計画】

中川：保健師として保健センター勤務経験 看護師として病院勤務経験
 福本：保健師として保健所等勤務経験 看護師として病院勤務経験
 福田：保健師として町役場勤務経験 看護師として病院勤務経験
 上田：看護師として病院勤務経験

週	授 業 の 内 容
1	講義) 健康教育の特徴と方法 (中川・福本・福田)
2	講義) 健康教育の展開技術 (中川・福田)
3	講義) 健康教育の展開技術 (中川・福田)
4	講義) 地区特性の理解と健康課題の明確化 (中川・福田)
5	講義) 地区特性の理解と健康課題の明確化 (中川・福田)
6	演習) 対象の選定・参加者の勧奨 (中川・福本・福田)
7	演習) 健康教育計画 (企画・指導案) の作成 (中川・福本・福田)
8	演習) 健康教育計画 (企画・指導案) の作成 (中川・福本・福田)
9	演習) 健康教育の実施準備 (中川・福本・福田・上田)
10	演習) 健康教育の実施準備 (中川・福本・福田・上田)
11	演習) 健康教育の実施 (高齢者サロン・育児サークル等にて) (中川・福本・福田・上田)
12	演習) 健康教育の実施 (高齢者サロン・育児サークル等にて) (中川・福本・福田・上田)
13	演習) 健康教育後の評価 (中川・福本・福田)
14	講義) グループ支援の特徴・方法 (中川・福田)
15	講義) グループ支援、組織育成、地区活動への反映 (中川・福田)

【履修上の注意事項】

事前学習：教科書の該当範囲を読むこと。(30分以上)
 事後学習：講義内容を基に配布資料を確認整理すること。(60分以上)
 健康に関する情報を常に入手し、講義・演習に積極的に参加すること。

【評価方法】

定期試験 (20%) 実技演習 (50%) 課題レポート (30%)
 課題レポートはコメントして返却します。

【テキスト】

宮坂忠夫編、健康教育論、メヂカルフレンド社

【参考文献】

福留スミ子著、レッツ・トライ健康学習―幸せな健康教育実践―、やどかり出版
 井伊久美子他編集 保健師業務要覧 日本看護協会出版会

公衆衛生看護管理論 I

担当教員 福本 久美子、中川 武子、福田 久美子

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義・演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ①地域診断に基づく保健医療福祉計画と、計画を実現するための事業計画の策定方法が理解できる。
- ②保健福祉活動を円滑に進める上で必要な地域ケアシステムの形成過程、社会資源の公平な分配が理解できる。
- ③健康危機管理の理念と目的、制度とシステム、健康課題と展開方法に関する基本が理解できる。
- ④公衆衛生看護管理の構成要素、専門的自立と人材育成に関する基本が理解できる。

【授業の展開計画】

福本：保健師として県(保健所等)勤務経験、中川：保健師として保健センター勤務経験、福田：保健師として保健福祉センター勤務経験

- 1 (福本、福田) 公衆衛生看護管理の特色と基本となるもの
- 2 (福本、福田) 公衆衛生看護管理の構成要素(諸相)
- 3・4 (福本、中川、福田) 地域診断の概念、地区診断の過程、地域集団特性の把握、地区診断の実践
- 5・6 (福本、中川、福田) 地区把握と地区診断の実践1 (実習市町村を例に地区踏査・地区把握の方向性検討)
- 7 (福本、福田) 地区診断に基づく事業計画と保健師の役割
- 8 (福田、中川) 社会資源とは、地域の社会資源の実際
- 9 (中川、福田) 実習自治体の保健統計の見方、医療費分析
- 10 (福田・福本) 保健医療福祉計画の策定と予算
- 11・13 (福本、中川、福田) 地区把握・地区診断の実際2 (実習市町村を例に地区踏査：GW)
- 14・15 (福本、中川、福田) 地区把握・地区診断の実際3 (実習市町村を例に地区踏査結果を含め地区把握報告：GW発表)
- 16 (福田・福本) 地域組織活動の考え方、活動の種類
- 17・18 (福本、中川、福田) 地域包括ケアシステムとその構築
- 19 (中川・福田) 健康危機管理対策の概要
- 20 (中川・福田) 健康危機管理対策の実際 (例：感染症対策)
- 21 (福田・福本) 健康危機管理対策の実際 (例：熊本地震)
- 22・23 (中川、福本、福田) 健康危機管理対策(感染・災害) クロスロード演習 (GW・発表)
- 24 (中川、福本、福田) 健康危機管理対策における保健師活動 (GW・発表)
- 25 (福本、中川、福田) 事例検討会の意義と実際
- 26 (福本、中川、福田) 事例検討会の実際 (GWと発表)
- 27・28 (福本、中川、福田) 地区把握・地区診断の実際3(実習市町村を例に要因分析：GW発表)
- 29 (福本、中川、福田) 地区把握・地区診断の実際4 (実習市町村を例にした地域診断(仮説の設定)：GW発表)
- 30 (福本、中川、福田) 専門的自立と人材育成、公衆衛生看護倫理

【履修上の注意事項】

- 1) 実習フィールドを基に、公衆衛生看護管理に関する理解を深めるため、実習フィールドに出向くことがある。実習フィールドに関する情報は、自治体のホームページや既存の統計資料などから事前学習を行い、授業に参加すること。日々の実習が終了後、復習を行い学びを深めること(90分以上)。
- 2) グループワークや討論など参加型の手法を取り入れるため、授業以外の学習時間を活用し課題を整理することが必要となるため、学生間で調整を行い、グループ学習を進めること(90分以上)。

【評価方法】

GW発表及び成果資料50点、レポート20点、ミニテスト30点(15点×2回)
フィードバックはGW発表や成果物についてその都度指導を行う。

【テキスト】

最新保健学講座5「公衆衛生看護管理論」メヂカルフレンド社、平野かよ子編集

【参考文献】

「新版保健師業務要覧」日本看護協会出版会、他、適宜紹介

公衆衛生看護管理論Ⅱ

担当教員 福本 久美子、中川 武子、福田 久美子

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義・演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ①実習フィールドを事例とし、公衆衛生看護管理の模擬体験ができる。
- ②実習フィールドを事例とし、地域診断に基づく保健福祉計画と、計画を実現するための各種事業計画の策定方法、保健活動の評価について理解できる。
- ③働く人の健康管理について理解できる。
- ④保健師に求められる公衆衛生看護管理責任、管理能力が理解できる。

【授業の展開計画】

福本：保健師として県(保健所等)勤務経験
 中川：保健師として保健センター勤務経験
 福田：保健師として保健福祉センター勤務経験

- 1 (福本、中川、福田) 地域保健活動の実際 (フィールド自治体の紹介、オリエンテーション)
- 2 (福本、中川、福田) 実習自治体 (行政機関) の地区把握の実際 (保健師インタビュー)
- 3 (福本、中川、福田) 働く人の健康管理 (産業保健) の振り返り (事業所実習を例に)
- 4 (福本、中川、福田) 地区活動計画 (事業計画・健康教育計画等) 立案
- 5 (福本、中川、福田) 実習自治体の地区診断結果に関する発表
- 6～8 (福本、中川、福田) 地域保健活動の実践の振り返りⅠ (実習フィールドを例に)
- 9～12 (福本、中川、福田) 地域保健活動の実践の振り返りⅡ (実習フィールドを例に)
- 13・14 (福本、中川、福田) 地域保健活動の実践の振り返りⅢ (実習フィールドの指導者を対象にした発表)
- 15 (福本、中川、福田) まとめ (公衆衛生看護管理責任と能力について：報告書作成の意義と実際)

【履修上の注意事項】

- 1) 実習フィールドや産業保健フィールドに関する情報は、自治体や企業のホームページや既存の統計資料などから事前学習を行い、授業に参加すること(90分以上)。
- 2) グループワークや討論など参加型の手法を取り入れるため、授業以外の学習時間を活用し課題を整理することが必要になるため、学生間で調整を行い、グループ学習を進めること。

【評価方法】

GWとその発表40%、レポート(働く人の健康管理)10%、実習最終報告書30%、公衆衛生看護管理テスト20点、フィードバックはGW発表会や報告書作成時等にコメントを行う。

【テキスト】

最新保健学講座5「公衆衛生看護管理論」メヂカルフレンド社、平野かよ子編集

【参考文献】

「新版保健師業務要覧」日本看護協会出版会、他

疫学

担当教員 森 美穂子、森松 嘉孝

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

目的：人集団における疾病などの健康事象の分布と規定要因を解明し、健康の保持増進を疫学の観点から理解し、説明できることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	疫学とは何か
2	疾病発生要因の疫学的解明
3	疫学で用いられる指標
4	保健師の実際と疾患の疫学
5	疫学研究と倫理
6	分析疫学1
7	分析疫学2
8	疫学研究の種類
9	疫学におけるスクリーニング
10	標準化
11	因果関係と交絡因子
12	統計解析の基礎
13	疫学統計演習
14	疫学統計演習
15	疫学統計演習

【履修上の注意事項】

テキストを読むこと。予習と復習をおこなうこと。
講義中の疑問点があれば、講義前後に質問を受け付ける。
小テストを行った場合は、採点し返却する。

【評価方法】

15回の講義後、別日程で試験を行います。
試験90%、出席、授業態度、小テストなど10%の割合で評価します。

【テキスト】

標準保健師講座2 疫学・保健統計学
配布プリント

【参考文献】

厚生労働統計協会篇、「国民衛生の動向」

保健統計学

担当教員 福本 久美子、中川 武子、福田 久美子、森 信之

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ねらい：集団や地域の顕在的・潜在的健康課題を明らかにし、解決策を計画立案するための情報を収集・分析する手法を理解し、実践できる。①保健統計に関する資料の所在と収集過程、統計を読む際の諸注意を理解し活用できる②統計調査法と記述的解析方法を理解でき、実行できる③統計的推論の方法について理解でき、実行できる

【授業の展開計画】

福本：保健師として県(保健所等)勤務経験
 中川：保健師として保健センター勤務経験
 福田：保健師として保健福祉センター勤務経験

週	授 業 の 内 容	
1	福本、中川、福田	公衆衛生看護学における保健統計を学ぶ意義・根拠法令
2	福田	保健統計の見方1：年次推移・地域分布
3	福田	保健統計の見方2：疾病・障害の定義と分類
4	福本	保健統計の見方3：関連要因別の比較
5	福本	保健統計の見方4：将来予測
6	中川	保健統計の見方5：医療経済統計
7	中川	保健統計の見方6：データの表現
8	森、福田、中川	保健統計学の基礎1（データの種類と分布）
9	森、福田、中川	保健統計学の基礎2（関連の指標）
10	森、福田、中川	統計的推論1（点推定と区間推定）
11	森、福田、福本	統計的推論2（検定、帰無仮説、統計学的有意性）
12	森、福田、福本	統計的推論3（割合に関する推定と検定）
13	森、福田、福本	統計的推論4（平均に関する推定と検定）
14	森、福田、中川	生命表（平均寿命と健康寿命）
15	福本・中川・福田	情報の管理、まとめ

【履修上の注意事項】

- 1) 計算機、定規等使用するのので、準備すること。
- 2) 授業の予習復習を行うこと(180分以上)。地域の実際のデーターを収集分析をグループで行うこと(180分以上)。

【評価方法】

ミニテスト30点×2回=60点、グループによる課題レポート40点
 フィードバックは課題レポートの添削指導を行う。

【テキスト】

1. [標準保健師講座別巻2 疫学・保健統計] 牧本清子他、医学書院
2. [国民衛生の動向] 厚生統計協会

【参考文献】

適宜、紹介。

保健福祉行政論

担当教員 福本 久美子、隈 直子、中川 武子、福田 久美子

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義・演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 地域の人々の健康を保障するため、生活と健康に関する社会資源の公平な利用と分配を促進する必要性について理解できる。2. 保健医療福祉行政の仕組み、地域の健康課題に必要な社会資源の開発、評価等の基礎となる法律・制度・政策について理解できる。

【授業の展開計画】

福本：保健師として県(保健所等)勤務経験、
中川：保健師として保健センター勤務経験
福田：保健師として保健福祉センター勤務経験

週	授 業 の 内 容	
1	福本・中川・福田	保健医療福祉行政の理念（目指すところ）
2	福本・福田	保健医療福祉行政の組織（しくみ）と役割
3	福本・福田	保健医療福祉行政の財政
4	福本・中川・福田	保健医療福祉行政の計画と評価についてグループで考える（GW）
5	中川・福田	保健医療福祉行政の歴史的変遷とその背景
6	福田・中川	保健医療福祉行政の新たな課題への対応
7	福本・福田	社会保障制度と公衆衛生行政
8	隈・福田	社会保障制度（社会福祉）
9	福田・福本	地域保健の制度
10	福本(外部)	医療制度（医療提供体制）の実際
11	福本(外部)	母子保健制度と実際の運用
12	福本(外部)	介護保険制度と実際の運用
13	中川・福田	世界の公衆衛生と理念
14	福本・中川・福田	保健医療福祉行政の計画と評価についてGWの結果を発表する
15	福本・中川・福田	まとめ

【履修上の注意事項】

1) 予習復習を行い、講義に積極的に参加すること(90分以上)。
2) グループワークや討論など参加型の手法を取り入れるため、授業以外の学習時間を活用し課題を整理することが必要になるため、学生間で調整を行い、グループ学習を進めること(180分以上)。

【評価方法】

課題レポート(50%)、GWと発表(40%)、地域活動参加レポート(5点×2回=10点)
レポート提出先：教務課。フィードバックは質問者に対応する。

【テキスト】

『これからの保健医療福祉行政論』日本看護協会

【参考文献】

『国民衛生の動向』厚生統計協会、『国民福祉の動向』厚生統計協会、『蘇陽風とくらしと健康』熊本日日出版社

保健福祉行政論演習

担当教員 福本 久美子、中川 武子、福田 久美子

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 演習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

保健医療福祉行政に関する基礎的知識を深め、健康関連施策等の社会資源の開発とその質を保証していく活動展開方法について、関連施設の見学や課題事例の検討等を通して、学ぶ。

【授業の展開計画】

福本：保健師として県(保健所等)勤務経験

中川：保健師として保健センター勤務経験

福田：保健師として保健福祉センター勤務経験

週	授 業 の 内 容	
1	福本	公衆衛生看護学における保健医療福祉行政の理念・役割・法的な意味
2	福本・中川・福田	社会資源の利用と分配・行政計画に関する実践事例の説明 (GW)
3	福本・中川・福田	実践事例を読み解き、社会資源の利用と分配・行政計画について考える (GW)
4	福田・中川	保健医療福祉行政の実践場面 (精神保健福祉センターの業務)
5	福田・中川	保健医療福祉行政の実践場面 (精神保健福祉センターを利用する人の事例)
6	福田・中川	保健医療福祉行政の実践場面 (児童相談所の業務)
7	福田・中川	保健医療福祉行政の実践場面 (児童相談所の保健師活動)
8	福本・中川・福田	実践事例を読み解き、社会資源の利用と分配・行政計画について考える (発表)
9	中川・福田	保健医療福祉行政の実践場面 (保健環境研究センターの業務)
10	中川・福田	保健医療福祉行政の実践場面 (保健環境研究センターの役割)
11	福本・中川・福田	実践事例を読み解き社会資源の利用と分配・行政計画について考える (発表)
12	中川・福田	保健医療福祉行政の実践場面 (食肉衛生検査所の業務)
13	中川・福田	保健医療福祉行政の実践場面 (食肉衛生検査所の役割)
14	福本・中川・福田	社会資源の利用と分配の実態 (対人対物サービス) について考える
15	福本・中川・福田	まとめ

【履修上の注意事項】

①施設見学の内容・注意点については講義の中で説明するので、施設見学前後の課題について学習をすること (90分以上) ②読み込んだ実践事例はグループで要約し考えたことを発表するので、その資料を事前に作成すること (90分以上) ③講義終了後、実習地域の特徴を調べ、実習に備える (60分以上)

【評価方法】

GW発表30点、施設演習レポート40点(1施設10点×4)、最終レポート30点

フィードバックはレポートを添削指導し返却する。

【テキスト】

[これからの保健医療福祉行政論]日本看護協会、[公衆衛生がみえる]MEDIC MEDIA、

【参考文献】

[国民衛生の動向]厚生統計協会、[国民福祉の動向]厚生統計協会、[保健師業務要覧]日本看護協会、「沢内村奮闘記」あけび書房、「そよ風と暮らしと健康」熊本日日出版社

公衆衛生看護学実習

担当教員 福本 久美子、中川 武子、福田 久美子

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 実習

単位数 5

準備事項

備考

【授業のねらい】

(1)地域で生活している個人・家族の生活背景・家族関係・社会的立場や環境を含めて人々を深く理解し、支援するために、集団や地域を対象として保健師が行う公衆衛生看護活動の基本的な知識・技術・態度について体験を通して習得する。

(2)公衆衛生看護の特徴、行政保健師及び地域包括支援センター、産業保健の保健師に求められる役割について学ぶ。

【授業の展開計画】

福本：保健師として保健所、中川：保健師として保健センター、福田：保健師として保健福祉センター勤務経験

1. 実習期間：県型保健所1週間及び市町村(地域包括支援センター含む)4週間、事業場1日。
2. 実習場所：熊本県内自治体(具体的な施設名は年度当初紹介)、事業所。なお、実習期間中に地域包括支援センター等保健活動を学ぶ機会を含む。

3. 実習内容

(1)学内事前学習(公衆衛生看護管理論にて地区活動の具体的な展開方法を学ぶ)

- ①実習フィールドの既存資料などから情報収集・分析をし、健康課題の仮説を立案
- ②実習目的目標の明確化、行動計画や健康教育計画・訪問計画等の策定。

(2)市町村実習(4週間：地域包括支援センター見学実習、学内まとめを含む)

- ①実習市町村及び保健事業の概要に関するオリエンテーション
- ②インタビューや地区踏査と既存資料の情報から地域特性や生活実態等の地区把握と地区診断
- ③住民や関係機関と連携・協働④保健活動に参加し、個別支援と集団アプローチの保健事業の実習
- ⑤継続的な家庭訪問の実施(1事例以上継続訪問・2例以上訪問実習：母子、高齢者等)
- ⑥地区の健康課題に即した健康教育の実施(必ず1回)
- ⑦健康をつくる活動の企画から評価までの流れを学ぶ(施策化の流れ)
- ⑧地域包括支援センターの見学実習等
- ⑨実習自治体内の学校・事業所に対するインタビューを行い、行政・学校・事業所の連携を学ぶ

(3)保健所実習(1週間)

- ①専門的知識・技術が求められる相談や訪問の体験
- ②広域における健康危機(感染症、食中毒、自殺、DV、虐待、災害等)の実践事例の検討、健康危機管理マニュアルの理解
- ③広域的な社会資源の実際を把握し、見学体験する
- ④広域行政としての計画の策定、施策化について、保健医療計画等の記述内容・策定過程から学ぶ
- ⑤既存の保健・医療・福祉分野の包括的ネットワークシステムの一つを取り上げ、背景にある法律や条令、地域の健康課題との関連、ネットワークシステムができた過程や関係者・関係機関の連携を学ぶ

(4)産業保健実習(1日)

事業所実習を通して、働く人々への産業保健活動とその保健師活動の実際を学ぶ

【履修上の注意事項】

- ①実習要綱を活用し、予習復習を行うこと(実習日は毎日60分以上)
- ②カンファレンスは毎日行い、情報の共有や問題解決の場とし、中間カンファレンスや最終カンファレンスで実習目的目標と照らし学習成果の確認を行うこと
- ③実習記録は要綱の様式に従うこと。その様式は大学ホームページからダウンロードすること
- ④実習現場までの交通手段、緊急連絡方法等は事前に確認し、指導教員に報告・連絡をすること

【評価方法】

実習の到達目標にそって、実習内容(実習記録・レポート60%、事業参加状況・カンファレンス・実習態度40%)を自己評価を基に面接を行い総合的に評価する。評価のフィードバックは終了後面接で行う。

【テキスト】

1. 最新保健学講座「公衆衛生看護管理論」平野かよこ編集 メヂカルフレンド社
2. 「国民衛生の動向」厚生統計協会

【参考文献】

「新版保健師業務要覧」日本看護協会出版会、適宜紹介。